
「薬剤耐性感染症の予防・治療のための新技術開発に向けた研究基盤確立」

平成 24 年度～平成 28 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
研 究 成 果 報 告 書

平成 29 年 5 月
学校法人名 順天堂
大学名 順天堂大学
研究組織名 感染制御科学研究センター
研究代表者 平松啓一
(感染制御科学研究センター センター長)

はしがき

順天堂大学大学院医学研究科感染制御科学研究センターは、文部科学省「平成 24 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究プロジェクト」に、「薬剤耐性感染症の予防・治療のための新技術開発に向けた研究基盤確立」をテーマに応募し、採択された。

順天堂大学微生物学、大学院感染制御科学、および感染制御科学研究センターでは、これまで、多剤耐性菌による感染症の研究成果を積みあげて来た。本研究プロジェクトで五年間（平成 24 年度～28 年度）の支援を受け、難治性感染症の問題に取り組む臨床家と基礎の研究者が連携し、病原体と人の感染防御機構の両側面からのアプローチにより、より広範囲の病原体を網羅する研究を進めることができた。キノロン耐性 MRSA に対する復帰抗生物質（RA）の合成、黄色ブドウ球菌 DNA トポイソメラーゼを標的とする新規抗菌薬アッセイ系の確立、hVISA, sVISA の変異遺伝子を網羅的に同定、ピペラキン耐性原虫を単離し全ゲノム解析により責任遺伝子変異を同定、インフルエンザウイルスの新規増殖阻害薬標的分子の同定、有効な治療薬が存在しないトリパノソーマの新規創薬標的分子の同定など、それぞれのグループが重要な成果を得た。

本プロジェクトでは、感染症研究の振興だけでなく、実際に病原体を死滅させる化合物を見出した。さらに、若手研究者を養成し、将来に継続する研究基盤の確立や、実用化に向けての活動を支える研究環境をもたらした。ここに、本プロジェクトの成果を報告できることに深く感謝すると共に、私たちが新たに得た知見が少しでも社会的に貢献できたとの評価を頂ければ本望である。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

長岡 功	医学研究科環境と人間系・生化学・生体防御学・教授	敗血症性ショックにおける宿主防御ペプチドの役割	薬剤耐性感染症の治療法の開発
八木田 秀雄	医学研究科環境と人間系・免疫学・先任准教授	感染に対する免疫応答を賦活化する手法の開発	薬剤耐性感染症の予防法の開発
中野 裕康 平成25年度退任	医学研究科環境と人間系・免疫学・准教授	慢性感染症発症のメカニズムの解明とその克服のための免疫制御法の開発	薬剤耐性感染症の予防法の開発
池田 志孝	医学研究科環境と人間系・皮膚科学・アレルギー学・教授	再生医学・人工皮膚を用いた感染予防法の開発への応用研究	薬剤耐性感染症の予防法の開発
渡辺 純夫	医学研究科人体の生命機能系・消化器内科学・教授	消化器癌の化学療法施行時の敗血症に対するプロバイオティクス予防投与の有効性の検証	薬剤耐性感染症の予防法の開発
清水 俊明	医学研究科人体の生命機能系・小児思春期発達病態治療学・教授	粘膜バリアー機能と短鎖脂肪酸に注目したNICUにおける感染制御	薬剤耐性感染症の予防法の開発
堀 賢	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・主任准教授	Cost-effectiveな入院時 Active Surveillanceの構築	薬剤耐性感染症の予防法の開発
伊藤 輝代 平成25年度退任	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・微生物学・客員准教授	全世界のMRSAのタイピングと分子疫学およびMRSA迅速診断法の改良	薬剤耐性感染症の予防法の開発
片山 由紀	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・微生物学・助教	ブドウ球菌の薬剤耐性発現にいたる遺伝学的・生理学的プロセスの研究	薬剤耐性感染症の予防法の開発
菊池 賢 平成25年度退任	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・先任准教授	MALDI-TOFを用いた耐性菌の迅速診断法の開発	薬剤耐性感染症の予防法の開発
内藤 俊夫	医学研究科環境と人間系・総合診療科・准教授	HIV感染症における薬剤耐性の検討	薬剤耐性感染症の予防法の開発
桑原 京子	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・微生物学・准教授	耐性菌に作用する新規抗菌薬のスクリーニング	薬剤耐性感染症の治療法の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

佐々木 崇 平成26年度新規加入	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・微生物学・助教	動物寄生ブドウ球菌のゲノム解析	薬剤耐性感染症の予防法の開発
上原 由紀	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・助教	慢性難治感染をおこすブドウ球菌の小コロニー変異株 (SCV) 出現機構の解明	薬剤耐性感染症の予防法の開発
三宅 幸子 平成26年度新規加入	医学研究科環境と人間系・免疫学・教授	細菌による免疫応答の賦活化と制御に関する研究	薬剤耐性感染症の予防法の開発
美田 敏宏 平成26年度新規加入	医学研究科環境と人間系・生体防御・寄生虫学・教授	薬剤耐性マラリア原虫の進化と地理的拡散経路の解明	薬剤耐性感染症の予防法の開発
(共同研究機関など) 関水 和久	東京大学大学院薬学系研究科 微生物薬品化学教室 教授	カイコを用いた病原細菌の病原因子の同定	薬剤耐性感染症の治療法の開発
五十嵐 雅之	財団法人 微生物化学研究会 微生物化学研究センター, 生物活性推進グループ 生物資源探索ユニット ユニット長	抗耐性菌新規抗菌薬のスクリーニング	薬剤耐性感染症の治療法の開発
柴崎 正勝	公益財団法人 微生物化学研究所長	新規抗菌剤RAの全合成と誘導体の作成	薬剤耐性感染症の治療法の開発
野本 明男	財団法人 微生物化学研究会 理事長 微生物化学研究所長	新規抗菌剤RAの構造活性相関	薬剤耐性感染症の治療法の開発
Jae Hoon Song	Professor of Medicine, Division of Infectious Diseases, Department of Medicine, Samsung Medical Center, Sungkyunkwan University School of Medicine, Korea	アジア全域の薬剤耐性感染症のサーベイランスと対策立案	薬剤耐性感染症の予防法の開発
夏苺 英昭	帝京大学薬学部創薬化学・教授	新規抗菌剤RAの誘導体の合成	薬剤耐性感染症の治療法の開発

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

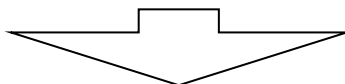
旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
MALDI-TOF を用いた耐性菌の迅速診断法の開発	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・先任准教授	菊池 賢	薬剤耐性感染症の予防法の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

慢性感染症発症のメカニズムの解明とその克服のための免疫制御法の開発	医学研究科環境と人間系・免疫学・准教授	中野 裕康	薬剤耐性感染症の予防法の開発
全世界の MRSA のタイピングと分子疫学および MRSA 迅速診断法の改良	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・微生物学・客員准教授	伊藤 輝代	薬剤耐性感染症の予防法の開発

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
日本獣医生命科学大学 獣医衛生学・非常勤講師	医学研究科環境と人間系・感染制御科学・微生物学・助教	佐々木 崇	薬剤耐性感染症の予防法の開発
独)国立精神・神経医療研究センター神経研究所免疫研究部 室長	医学研究科環境と人間系・免疫学・教授	三宅 幸子	薬剤耐性感染症の予防法の開発
東京女子医科大学 医学部 国際環境・熱帯医学講座 講師	医学研究科環境と人間系・生体防御・寄生虫学・教授	美田 敏宏	薬剤耐性感染症の予防法の開発

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

治療薬に耐性となった病原体による難治性感染症の予防と治療法を、病原体と人の感染防御機構の両側面からのアプローチにより、確立するための総合的な研究プロジェクトである。本研究グループは、すでに復帰抗生物質(Reverse Antibiotic)、耐性インフルエンザに有効な抗ウイルス薬などの新しい抗微生物剤の発見、新規治療用モノクローナル抗体の作成、独創的な MRSA 院内感染予防法の開発など、重要な成果を上げており、本研究では、これらの成果の実用化を目指すとともに、さらに新規の技術を開発する。その過程で、若手研究者を養成し、将来に継続する研究基盤を確立し、薬剤耐性感染症の本質を解明し、そのことを通じ、より効果的な新技術を開発して社会に貢献する。

(2) 研究組織

25年間、多剤耐性菌感染症の研究を続けてきた代表者平松は、順天堂大学で、耐性菌による難治性感染症の問題と取り組む臨床、基礎の医師、研究者をリクルートし、22 のサブプロジェクトの進展を促す。22 のサブプロジェクトの代表者に加え、研究者の総数は 60 名を超えており、平松が代表を務める感染制御科学研究センター、微生物学講座だけでも、職員 11 名、大学院生 10 名、ポスドク(PD)3 名、Research Assistant(RA)2 名、研究支援者 1 名、研究生 1 名である。耐性のメカニズム及び、新規抗菌薬の開発のプロジェクトは、これらの研究者の緊密な連携のもとに遂行されている。(毎週研究データの討論会を行っている)。さらに、6名の学外の共同研究機関の協力研究者には、それぞれの専門的な技術・知見をもとに、Reverse Antibiotic の創薬・実用化に向けて協力を仰いでいる。さらに平成26年度より、美田(熱帯医学)と三宅(免疫学)の新任教授の赴任に伴い、「薬剤耐性マラリア原虫の進化予測システムの開発」、「細菌による免疫応答の賦活化と制御に関する研究」という重要な研究テーマが加わり、今後、さらに大きな成果が期待される。サブプロジェクト研究チームは、基

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

本的に独立に研究を遂行し、年度ごとに研究成果の報告を行い、互いの進捗状況を把握し、チーム間の連携を確認する。順天堂大学からの研究支援体制は、整っており、文部科学省からの援助に見合う資金的援助を受けており、学外への委託研究のための契約書の作成などの事務的サポート、納品の検定管理などもすべて遺漏なく行われている。また、全学共同施設の技術員からの実験技術の提供、大型機器使用などのサポートが得られている。

(3) 研究施設・設備等

当該拠点には、順天堂9号館13階に感染制御モデル研究施設(P2実験室)、9階に設置されている感染制御科学研究室、同実験室(感染制御科学研究センター)を中心に研究施設の整備を図っている。更に同研究のサポート部門である微生物学(細菌学)研究室(9号館10階)の実験・演習室等施設設備を有効活用して、総面積 350 m² の実験室で、常時 35 名の研究者が研究に従事している。本研究のために新たに設置された主な研究装置と、その利用時間は以下のとおりである。

①タンパク質発現差異解析システム Ettan 2D-DIGE 115.24 時間 66.83 時間(2013/2/7～2014/8/26)、48.41 時間(2014/8/27～2017/3/31)

②MiSeq シーケンサーシステム 2544 時間(115 時間/月)(2012/10/26～2014/8/27)、4650 時間(150 時間/月)(2014/08/28～2017/3/31)

③3500xL シェネティックアナライザ シーケンシング解析システム アプライド 3500xL-150 1341 時間(61 時間/月)(2012/10/25～2014/8/27)、930 時間(30 時間/月)(2014/8/28～2017/03/31)

④BD FACSVerse フローサイトメーター 147 時間(平均 36.75 時間/月)2014 年度(4～7月)(これ以前のデータは保存されていない。)、1085 時間(2014 年 8 月～2017 年 3 月末)

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

1. 平松は、森本、馬場、桑原、菱沼らの協力を得て、新規骨格の復帰抗生物質の設計を行い、2つの異なる骨格の抗菌剤をえた。キノロン耐性 MRSA, VISA, 肺炎球菌に強い抗菌活性を持つが、毒性試験でhERG試験が陽性となったため開発中止とした。しかし、世界で最初の RA(復帰抗生物質)の合成例となった。引き続き、これら 2 種の骨格を基礎にして、新しい分子開発ソフト SeeSar を用い、MRSA(quinolone-resistant)に強い抗菌活性を持ち、感受性黄色ブドウ球菌には無効な抗菌剤の設計を行った。その結果、hERG 陰性で、同時に、キノロン耐性の黄色ブドウ球菌、腸球菌、肺炎連鎖球菌に無効(復帰抗生物質の条件を満たす)分子構造を 3 種得た。現在はこれらの構造分子の合成を行っているところである。これら分子の構造式データは特許取得前であり、公表できない。

2. 馬場らは、研究課題に沿って、DNA トポイソメラーゼを標的とする新規抗菌薬アッセイ系を確立し、キノロン系抗菌薬と相補的な役割を持つ“復帰抗生物質”の再発見に、生化学的手法を用いて貢献した *211。また、同手法を用いて、植物由来物質アピジェニンが復帰抗生物質の活性を持つことを示した *86。さらに、自然界において復帰抗生物質が微生物の進化に影響した可能性などを提示して発表した *9(学会発表)。また、馬場、大澤らは、MRSA の感染阻止モノクローナル抗体の作成に成功した。最も感染阻止力の強いモノクローナル抗体は、peptidoglycan の3次元構造の epitope を認識していることが示唆され、抗体の可変領域のアミノ酸配列を決定し、特許申請を行ない *1(特許)、論文を発表した。*90。

3. 松尾らは、次世代シーケンサー(illumina MiSeq システム)を活用し、*in vitro*で作成した耐性変異株 50 株の、全ゲノム塩基配列を決定し、バンコマイシン耐性(VISA および slow-VISA)に関与する遺伝子を網羅的に同定し、その耐性メカニズムを解明した *82,174。rpoB および rpoC 遺伝子の変異により、細胞の metabolite の流れが変化し、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

peptidoglycan の産生量が増加することが頻度の高い耐性メカニズムであった。さらに metabolism の分岐点にある酵素をコードする数十の遺伝子の変異(例えば *pykA*, *tarA* など)も同様の効果を持つ。そのため、MRSA の vancomycin 耐性化は多様な遺伝子変異でおこり、結果的に高頻度に起こりえることを示した。

4. slow-VISA は vancomycin の治療中にのみ、vancomycin に強い耐性を獲得し、治療中断により速やかに感受性菌(あるいは軽度耐性菌)に戻るという耐性メカニズムを持つ *150。片山、相羽らは、*rpoB* や *rpoC* 変異遺伝子が 30% の頻度で検出され、slow-VISA が vancomycin 治療失敗の起因と再燃感染症の起因の1つであることを明らかにした。*rpoB* 遺伝子の異なる部位の変異は、vancomycin 以外に高度メチシリン耐性も引き起こすことを発見した *159。slow-VISA は臨床検査室で判定が難しいため片山らは検出法を開発し、その方法で臨床分離株から 15.7% の高い頻度で slow-VISA を見出した(論文準備中)。臨床分離株 slow-VISA の耐性機序を実験株と比較したところ、ほぼ同じであることがわかった(論文準備中)。さらに片山らは、判定が難しい hVISA (Vancomycin 軽度耐性菌)についても MALDI-TOF MS で 98% の感度で迅速かつ簡便に検出する方法を確立した。
5. 岩淵らは、ヒトの好中球はラクトシルセラミド(LacCer)が抗酸菌のリポアラビノマンナン(LAM)のマンナンコアと選択的に結合することで病原性の有無に関係なく抗酸菌を貪食することを見いだした。この結合には、マンナンコアのマンノース α ,2 側鎖が必須であり、食胞に取り込まれた結核菌や非結核性抗酸菌は ManLAM のマンナンキャップが食胞膜上で LacCer の脂質ラフト形成を阻害することで、殺菌回避することを明らかにした *48。従来の結核治療薬が標的としてきた機構とは異なっており、今回の成果を応用することで、新たな多剤耐性結核治療薬や非結核性抗酸菌感染症治療薬の開発に繋がること期待される。
6. 奈良らは、有効な治療薬が存在しないトリパノソーマ感染症の新規治療薬開発を目的として研究を行った。シャーガス病の病原体クルーズトリパノソーマにおいて、タンパクの翻訳後修飾に重要な役割を持つ SUMO が原虫の鞭毛タンパク(PFR1)に結合することで鞭毛形成と発育型転換に重要な役割を担っている可能性を示した *202。また、原虫細胞内のカルシウム濃度の上昇が宿主細胞への侵入に必須である点に注目し、このカルシウム濃度の上昇を担う本体がイノシトール 3 リン酸受容体(IP3R)であること、IP3R 欠損原虫では細胞侵入能のみならず分裂・増殖、発育期転換、マウスに対する病原性の全てが低下することを明らかにした *165。さらに トリパノソーマ感染症の創薬標的分子の同定を目指し、カルシウムチャンネルの一種、イノシトールトリリン酸受容体(IP3R)が有望な治療薬標的であることを明らかにした *165,19,72,73。特に、IP3R に対するアンチセンス核酸が中南米で広く流行するシャーガス病の病原体クルーズトリパノソーマの感染・増殖を抑制することを見だし、アンチセンス医薬を用いたシャーガス病治療法の開発に着手している *20,116。
7. 長岡らは、ヒト cathelicidin である LL-37 が、敗血症においてピロトーシスを抑制することによって、敗血症の病態を改善することを見出した *26,122。ピロトーシスは、カスパーゼ-1 依存的なプログラム細胞死であり、炎症性サイトカインの放出をとまなうことから、敗血症における過剰な炎症反応の原因として注目されている。一方、デフェンシンや cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチドは、生体を微生物感染から守るために働いている。今後、LL-37 のような抗菌ペプチドを用いて、宿主細胞の細胞死を制御することによ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

て、敗血症の治療に応用可能な抗菌物質が開発されることが期待される。

8. 山本らは、ウイルスの変異に対応する、ウイルス遺伝子に比べ変異を起こしにくい宿主因子を標的とした予防法・治療法の開発を目的として研究を行い、インフルエンザウイルスの増殖を阻害する化合物として、シクロスポリン A(CsA)を同定した。さらにその誘導体である PSC833 に抗インフルエンザウイルス活性があることを見出した *163,5(特許)。またインフルエンザウイルスの保存性の高い領域を標的とする増殖阻害剤を同定することができた *15,69,4(特許)。さらに、鶏卵馴化変異を起こさないという利点を持つ細胞培養ワクチンを、高効率で製造可能な細胞の開発に成功した *164,3(特許)。これらの成果は、インフルエンザウイルスの感染制御に寄与すると期待できる。
9. 八木田らは、免疫系を活性化あるいは免疫抑制経路を阻害する抗体の作製と種々のマウス感染モデルでの感染抵抗性増強の検討を行ない、以下の成果を得た。1. 抗原提示細胞上の CD70 と T 細胞上の CD27 を介した副刺激シグナルがヘルパー T 細胞依存性のメモリー CTL 誘導に重要であり、CD27 に対するアゴニスト抗体の投与によってヘルパー T 細胞非依存性にメモリー CTL 誘導が可能であることを示した *67,194,205,207。2. 黄色ブドウ球菌は、マクロファージ上の抑制性受容体 PIR-B を介してマクロファージの活性化を抑制する事を見出した *219。3. RANKL 阻害抗体の投与によって腸管の M 細胞を一過性に除去する手法を開発し、M 細胞がノロウイルスや結核菌感染などに関わることを示した *47,79,115。4. リステリアやフィラリア感染における PD-1 を介した免疫抑制経路の役割を明らかにした *190,195。5. 新規免疫チェックポイント分子 VISTA に対する阻害抗体を樹立し、その投与による免疫増強効果を明らかにした *112(学会発表),209(学会発表)。
10. 渡辺らは、切除不能進行・再発胃癌に対する化学療法(S1+CDDP)施行時のプロバイオティクス併用による重篤な感染症の予防効果の有効性を検討するため、酪酸菌を用いたプロバイオティクス群とプラセボ群の二重盲検無作為比較試験を行った。発熱や消化器症状の発症や血清 DAO 活性の測定を行い、消化器症状との関連を検討した。副作用の頻度については、既報の試験とほぼ同等であった。今後登録症例が満了になり次第、キーオープンを行い、プラセボとの比較を検討する予定である。本研究に先立ち、消化器癌内視鏡治療における発熱および菌血症の可能性について検討した。約45%の症例に37℃以上の発熱を認めたとが、そのうち計 50 例に16SrRNA遺伝子解析を行ったが、菌血症は1例も認めなかった *132。
11. 清水らは、NICU の鼻腔 MRSA 保菌者を対象として、便中 MRSA の解析を行った。全対象者の糞便から MRSA が検出され、鼻腔由来株と比較した結果、同一の MRSA クローンであることが確認された *143。また、新生児における vancomycin 脳室内投与量の検討では、5mg/回にて十分な髄腔内濃度が維持可能であることが確認されたが、投与間隔は髄液濃度をモニタリングすることが重要であることを報告した *81。
12. 池田らは、感染防御に重要な働きをする皮膚の再生を目的として研究を行なった。脂肪組織由来幹細胞を IV 型コラーゲン上で線維芽細胞と共培養し、all-trans レチノイン酸と bone morphognetic protein-4 にて刺激することで表皮角化細胞へ高効率に分化させる誘導法を見出した *71,6(特許)。また、同条件下で表皮基底膜部係留線維の主成分である VII 型コラーゲンの発現が上昇することも確認した(論文投稿中)。以上より、脂肪組織由来幹細胞を用いて難治性皮膚潰瘍の上皮化を促進し、潰瘍部における感染を制御出

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

来る可能性がある。その他、表皮バリア機能に関する研究をおこなった。

13. 内藤らは、多施設コーホート研究により日本の HIV 感染者の合併症や内服治療と年齢との関係を検討した。270 病院の 105 万名の患者データから、抗 HIV 薬を投与されていた 1455 名を抽出し解析を行った。患者年齢が上がるごとに合併症の数の上昇が認められ、特に糖尿病、高血圧、脂質異常症の 3 疾患が多かった。8.0%に悪性腫瘍を認め、そのうち HIV 関連悪性腫瘍が 60%を占めた。高齢化する HIV 感染者の長期管理において生活習慣病が重要であることが明らかになった。また、本研究から得られた合併悪性腫瘍のデータは、今後の診療に重要な指針になると考えられた。
14. 上原らは、米国 Mayo Clinic と共同して、ブドウ球菌の Small Colony Variant(SCV)による慢性感染症の研究を行なった。SCV を形成する Staphylococcus 属は人工関節感染症の慢性に関与しているとされる。SCV と、大きなコロニーを形成するその親株との遺伝子点突然変異について直接コロニーから DNA を抽出して比較したところ、核酸代謝や電子伝達系、菌の発育に関連する遺伝子に変異が見いだされた。現在論文投稿準備中である。
15. 堀らは、Cost-effective な入院時 Active Surveillance の構築多剤耐性グラム陰性菌 (ESBL・MBL 産生菌)の急増に対して、1. 他病院からの流入対策、2. 転院直後のスクリーニング技術開発の 2 点をテーマに研究を続けてきた。1. については、(i)当院への 90 日以内の転院元のデータベース化(件)と、(ii)入院後 48 時間以内に多剤耐性菌が分離された患者の突合を行っている。これまでのところ、登録 1226 件中 MBL 産生菌は検出件数が 1 例/2 年間と極端に少なく、ハイリスク病院の特定は出来ていない。また ESBL 産生菌は大腸菌に多く見られ市中に蔓延が進んだことから、市中からの持込みが他病院からの輸入を圧倒するようになった。従って、2. に研究の軸足を移して進め、院外からの流入が増加しつつあった ESBL 産生グラム陰性菌に対しての AS 法を開発し、導入することを目標としていた。しかしながら、ESBL 産生グラム陰性菌はすでに大腸菌の 20%近くを占める状態になり、希少な輸入耐性菌を積極的にスクリーニングして探し出す臨床的意義が薄れてきており昨年から開発を中止している。最近はカルバペネム耐性菌によるアウトブレイクも報告されてきているが、そもそもカルバペネム耐性菌は院内での分布が優位であり院外からの流入は非常にまれである。また本邦においては、今もって発生は限定的であり、cost-effectiveness を論じるほどの症例も起きていない。従って、本プロジェクトは現在休止状態にある。MRSA における Active surveillance(AS)の導入効果については、PCR ベースの検査法で検証を行い報告した *181。
16. 腸管に豊富に存在し、増殖が腸内細菌に依存する mucosal associated invariant T (MAIT)細胞は、TNF α や IFN γ などの炎症性サイトカインを大量に産生し、ヒトの炎症性腸疾患患者末梢血で活性化が亢進し、炎症腸管粘膜局所に集積することを、三宅らは発見した。また炎症性腸疾患の動物モデルを用いて、MAIT 細胞を抑制するリガンドを投与すると、病態が軽減すること *18 から、増加する炎症性腸疾患制御の可能性を見出した。
17. 美田らは、アフリカでの初めて *in-vitro*アルテミシニン耐性マラリア原虫を発見した(投稿中)。一方で、ルメファントリンの併用療法は高い効果があることを見いだした *1。また耐性遺伝子 Kelch1 には強い純化選択がかかっていることを見いだした *41、42。ミューテータネズミマラリアを作製し *23、121、ピペラキン耐性原虫を単離、全ゲノム解析により

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

責任遺伝子変異(pfprt の N331I)を同定、逆遺伝学的にも証明した(投稿準備中)。葉酸拮抗剤への耐性進化を明らかにした *138。マalaria診断機器の原理を検証し *64、パナソニックとともに装置を開発中で、2年以内に上市の予定である。

18. **桑原、佐々木**らは、イヌおよびクマ科で高い保菌率を示した *Staphylococcus schleiferi* のメチシリン耐性株について、ゲノム完全長配列を NCBI に登録し、論文報告した *91。当該菌株は、SCC_{mec} 上に CRISPR/Cas 遺伝子を搭載しており、類似エレメントをもつブドウ球菌 6 種 7 株との CRISPR 配列構造比較から、SCC_{mec} 水平伝播経路を推定し、進化の過程で種間伝播も起こしてきたことを示唆する学会発表を行なった *242(学会発表)。また MRSA 感染症制御の新展開を探り、診断・治療ターゲット分子の探索を目指して、本属全菌種全ゲノム解析を実施した。次世代シーケンサーを用い *Staphylococcus* 属全 43 種の全ゲノム配列を取得した結果、本属は *Bacillus* 属、*Streptococcus* 属に比して高いゲノム共通性を保持し、無機イオン輸送系遺伝子を最も多く保持していることが明らかになった。また、MRSA の責任遺伝子 *mecA* のファミリー遺伝子には *mecA*、*mecB*、*mecC* があるが、これらの祖先配列は垂直伝播によって *Staphylococcus* 属、*Macrococcus* 属そして 2 属の中間属にそれぞれ引き継がれ、後に水平伝播能を獲得したことが系統解析により示唆された *118。

中野、伊藤、菊池らは、平成 26 年 3 月 31 日をもって本プロジェクトを離れたが、中間報告までの時点で次のような成果をあげている。

19. **中野**らは、細胞死抑制に関与する cFLIP と呼ばれる遺伝子の腸管上皮特異的な遺伝子欠損マウスを樹立し、腸管上皮細胞の恒常性維持における cFLIP の役割を検討した。腸管上皮特異的 cFLIP 欠損マウスはメンデルの法則に従い出生するものの、出生直後から腸管上皮細胞の著明なアポトーシスが亢進し、消化管出血により致死となることが明らかとなった。腸管上皮の細胞死への TNFR1 シグナルの関与を検討するために、*Tnfr1* 欠損マウスと交配したところ、完全ではないものの一部のマウスは成獣まで成長し、脱肛や大腸の短縮を伴う典型的な慢性腸炎を発症することが明らかとなった。以上より cFLIP は腸上皮の恒常性維持に必須の役割をはたしていることが初めて明らかとなった。
20. **菊池**らは、近年、微生物同定に導入が進む MALDI-TOF MS を用い、多剤耐性菌として世界中の病院感染に蔓延拡大している *Acinetobacter* の同定への応用について検討した。*Acinetobacter* の菌種同定は従来の生化学的手法では困難であり、病院感染源の疫学調査にも支障があった。そこで、様々な *Acinetobacter* 123 株について、遺伝子解析による同定と MALDI-TOF MS による同定の比較を行った。*Acinetobacter* は 14 の菌種群に分かれており、少なくとも 1 つのクラスターはこれまでに報告されたとの菌種とも異なっており、新菌種と考えられた。両手法の一致率は 86.2%であったが、両者の系統樹解析はよく一致しており、同定不能の理由はデータベース不足と新菌種が含まれていることであった。*Acinetobacter* の中でも病院感染で分離される頻度の高い *A. baumannii* complex には新菌種を含む多種多様な菌種が含まれており、従来の微生物検査室で菌種同定を行うことは不可能である。MALDI-TOF MS では新しい菌種に対しては対応出来ないと思われていたが、タンパクプロファイルの系統樹解析を用いれば、遺伝子比較と同様に菌種のクラスター分類は可能で、データベース登録により、更に同定精度の向上が期待出来ることが明らかになった *137。菊池らは、さらに、イムノクロマトグラフィー法による腸内細菌群、ブドウ糖非発酵菌の IMP 型メタロ β ラクターマーゼ検出を試みた。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

IMP 型メタロβラクタマーゼ (IMP-MBL) は我が国の伝達性カルバペネム耐性機構の大半を占める。IMP-MBL は 40 を超える種類があり、PCR などの遺伝子手法でも1つの方法で検出するのは難しい。我々は簡便で検査室でも施行可能な IMP-MBL に対するモノクローナル抗体を用いたイムノクロマトグラフィー法の評価を行った。イムノクロマトグラフィー法は全ての IMP-MBL を検出することができ、近年、問題となっている IMP-MBL 保有カルバペネム低感受性菌も全て陽性になった。本手法は機器、特殊な試薬などを必要とせず、通常の微生物検査室で施行可能であり、しばしば病院感染で問題になる IMP-MBL の早期発見、伝播防止に大いに貢献できるものと考えられた *201。この方向の試みは、今後、微生物学講座新規教授、切替照雄の指導のもと推進される。

21. 伊藤らは、全世界の MRSA のタイピングと分子疫学を担当し、タイ、ブラジル、ナイジェリア及び我が国の MRSA クローンを解析した。タイで分離された市中感染型 MRSA から、新規サブタイプのタイプ IX SCC_{mec}を持つ ST9 株を見出した *197。ナイジェリア臨床検体より分離された MRSA、MSSA はともに PVL 遺伝子の保有率が 55.6%、84.9%と高く MRSA と MSSA の染色体タイプ及び保有される PVL ファージの種類が全く異なることを明らかにした。また ブラジルの PVL 陽性 MRSA は ST30 に属し PVL ファージは group 1 に属することが判明した *278(学会発表)。我が国の株としては皮膚科外来患者由来株より分離された MRSA 株を解析し、市中型 MRSA クローンの特徴を明らかにするとともに、新規サブタイプのタイプ IV SCC_{mec}を見出し報告した *279(学会発表)。
22. Asia 諸国の耐性菌感染症への提言については、明らかに、抗菌薬の過剰使用、多目的使用が原因である。畜産、水産、での使用を厳密に禁止することが重要。堀によれば、順天堂では、カルバペネムの厳重な使用制限により、カルバペネム耐性菌は、ほとんどゼロに抑えられている。インドネシアの国費留学生在が加わり、上原の指導のもとに MRSA に関する分子疫学的研究が、引き続き、行われる。

<優れた成果が上がった点>

- 奈良 有効な治療薬が存在しないトリパノソーマの新規創薬標的分子の同定
馬場 黄色ブドウ球菌 DNA トポイソメラーゼを標的とする新規抗菌薬アッセイ系を確立
山本 インフルエンザウイルスの新規増殖阻害薬標的分子の同定
美田 ピペラキン耐性原虫を単離、全ゲノム解析により責任遺伝子変異を同定
平松 キノロン耐性 MRSA に対する復帰抗生物質 (RA) の合成
松尾 hVISA, sVISA の変異遺伝子を網羅的に同定

<課題となった点>

復帰抗生物質の作成は、多くの段階を経て、完成まで長い時間と高額のコストが発生する

<自己評価の実施結果と対応状況>

研究の専門領域が多岐にわたるため、研究者互いの学問レベルの評価は、困難であった。研究者チームは、成果を 2 年に 1 報以上、一流誌に論文を発表することが求められた。業績一覧に記載されている通り、すべての研究グループが、それぞれの分野で、レベルの高い業績を挙げた。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

2 名の外部委員から評価をもらい、基盤整備の効果が発揮され当初の計画以上に研究が進

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

展しているとの評価を得た。(別添)

・国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター・センター長・黒田誠氏：

学内の研究基盤の特徴を生かしたメンバーで構成され、細菌・ウイルス・寄生虫の多様な病原体に対して総合的な基礎・臨床研究開発が推進されている。特筆すべき成果として、創薬標的の同定(トリパノソーマ原虫の標的分子等)および抗微生物薬開発(抗 MRSA 薬、モノクローナル抗体)が挙げられ、アルテミシニン耐性マラリア原虫発見等の国際協力を絡めた優れた研究成果も得られている。過去5年間で原著論文 232 報が論文掲載され、積極的かつ有効な若手指導が実施できていたことから、本事業の目的である研究基盤の支援はおよそ達成されたと考えられる。基礎研究による薬剤耐性感染症の治療法開発が主体であり、今後、先進医療を提供する大学病院の特徴を活用した薬剤耐性検査法および予防法開発への進展が期待される。

・自治医科大学医学部感染・免疫学講座細菌学部門・教授・崔龍洙氏：

本研究プロジェクトの主体である感染制御科学研究センターは、現在の健康被害の主たる課題である耐性菌感染症、薬剤耐性寄生虫感染症、薬剤耐性インフルエンザなどに順天堂大学の実績ある研究者が分担研究者として動員されて、それぞれ、優れた業績をあげつつある。さらに、内科、皮膚科などの臨床科からユニークな興味深い感染症へのアプローチが試みられている。本センターは、日本で最初に英国の ICD を導入したセンターであり、その後も継続して院内感染対策に常に独創的な試みが見られている。今回は、耐性菌に有効な抗菌剤の発見もあり、今後の研究の発展に大きな期待が持てる。

<研究期間終了後の展望>

より優れた property を持つ復帰抗生物質の設計・合成を継続する。抗ウイルス剤、抗原虫剤も引き続き研究する。

<研究成果の副次的効果>

難治感染症の克服が感染症研究センターの使命であり、今回の創薬プロジェクトの成功は、感染症研究の振興だけでなく、実際に病原体を死滅させる化合物を見出し、今後の実用化に向けての活動を支える研究環境をもたらした。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|-----------------------|---------------------|----------------------|
| (1) <u>復帰抗生物質</u> | (2) <u>MRSA</u> | (3) <u>バンコマイシン耐性</u> |
| (4) <u>トリパノソーマ</u> | (5) <u>インフルエンザ</u> | (6) <u>結核菌</u> |
| (7) <u>多剤耐性グラム陰性菌</u> | (8) <u>アシネトバクター</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

22, 91, 92 (Genome Announc.)以外、全て査読有り。

- *Balikagala B, Mita T, Ikeda M, Sakurai M, Yatsushiro S, Takahashi N, Tachibana SI, Auma M, Ntege EH, Ito D, Takashima E, Palacpac NM, Egwang TG, Onen JO, Kataoka M, Kimura E, Horii T, Tsuboi T. Absence of in vivo selection for K13 mutations after artemether-lumefantrine treatment in Uganda. *Malar J.* 16(1):23. 2017.
- Bautista-López N, Ndao M, Camargo F, Nara T, Jardim A, Annoura T, Hardie D, Borchers C.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- Characterization and diagnostic application of *Trypanosoma cruzi* trypomastigote excreted-secreted antigens shed in exosomes released from infected mammalian cells. *J Clin Microbiol.* 55:744–758. 2017.
3. Chiba A, Tamura N, Yoshikiyo K, Murayama G, Kitagaichi M, Yamaji K, Takasaki Y, Miyake S. Activation status of mucosal-associated invariant T cells reflects disease activity and pathology of systemic lupus erythematosus. *Arthritis Res Ther.* 14;19(1):58. 2017.
 4. Hu Z, Murakami T, Tamura H, Reich J, Kuwahara-Arai K, Iba T, Tabe Y, Nagaoka I. Neutrophil extracellular traps (NETs) induces the IL-1b production by macrophages in combination with lipopolysaccharide. *Int J Mol Med* 39: 549–558 2017.
 5. Inaoka DK, Iida M, Hashimoto S, Tabuchi T, Kuranaga T, Balogun EO, Honma T, Tanaka A, Harada S, Nara T, Kita K, Inoue M. Design and synthesis of potent substrate-based inhibitors of the *Trypanosoma cruzi* dihydroorotate dehydrogenase. *Bioorg Med Chem.* 25:1465–1470. 2017.
 6. Ishikawa D, Sasaki T, Osada T, Kuwahara-Arai K, Haga K, Shibuya T, Hiramatsu K, Watanabe S. Changes in Intestinal Microbiota Following Combination Therapy with Fecal Microbial Transplantation and Antibiotics for Ulcerative Colitis. *Inflammatory Bowel Diseases.* 23(1):116–125. 2017.
 7. Kikuchi K, Matsuda M, Iguchi S, Mizutani T, Hiramatsu K, Tega-Ishii M, Sansaka K, Negishi K, Shimada K, Umemura J, Notake S, Yanagisawa H, Takahashi H, Yabusaki R, Araoka H, Yoneyama A. Potential Impact of Rapid Blood Culture Testing for Gram-Positive Bacteremia in Japan with the Verigene Gram-Positive Blood Culture Test. *Can J Infect Dis Med Microbiol.* 2017:4896791. 2017.
 8. Miyoshi N, Isogai M, Hiramatsu K, Sasaki T. Activity of tick antimicrobial peptide from *Ixodes persulcatus* (persulcatusin) against cell membranes of drug-resistant *Staphylococcus aureus*. *J Antibiot.* 70(2):142–146. 2017.
 9. Mizuno M, Noto D, Kaga N, Chiba A, Miyake S. The dual role of short fatty acid chains in the pathogenesis of autoimmune disease models. *PLoS One.* 24;12(2):e0173032. 2017.
 10. Singh M, Matsuo M, Sasaki T, Morimoto Y, Hishinuma T, Hiramatsu K. In Vitro Tolerance of A Drug-Naïve *Staphylococcus aureus* FDA209P towards Vancomycin. *Antimicrob Agents Chemother.* 24;61(2). 2017.
 11. Sugiyama H, Yoshida I, Ueki M, Tanabe K, Manaka A, Hiramatsu K. In vitro antibacterial activity of α -methoxyimino acylide derivatives against macrolide-resistant pathogens and mutation analysis in 23S rRNA. *J Antibiot (Tokyo).* 70(3):264–271. 2017.
 12. Takehara K, Murakami T, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I, Sakamoto K. Evaluation of the effect of recombinant thrombomodulin on a lipopolysaccharide-induced murine sepsis model. *Exp Ther Med.* In press. 2017.
 13. Tan XE, Neoh HM, Looi ML, Chin SF, Cui L, Hiramatsu K, Hussin S, Jamal R. Activated ADI pathway: the initiator of intermediate vancomycin resistance in *Staphylococcus aureus*. *Can J Microbiol.* 63(3):260–264. 2017.
 14. Tanaka Y, Sato Y, Sasaki T. Feline coronavirus replication is affected by both cyclophilin A and cyclophilin B. *J Gen Virol.* 98(2):190–200. 2017.
 15. *Fudo S*, Yamamoto N*, Nukaga M, Odagiri T, Tashiro M, Hoshino T (*These authors contributed equally to this work). Two Distinctive Binding Modes of Endonuclease Inhibitors to the N-Terminal Region of Influenza Virus Polymerase Acidic Subunit. *Biochemistry.* 55:2646–60. 2016.
 16. Fujinaga S, Ozawa K, Sakuraya K, Yamada A, Shimizu T. Late-onset adverse events after a single dose of rituximab in children with complicated steroid-dependent nephrotic syndrome. *Clin Nephrol* 85:340–5. 2016.
 17. Fukui S, Uehara Y, Fujibayashi K, Takahashi O, Hisaoka T, Naito T. Bacteraemia predictive factors among general medical inpatients: a retrospective cross-sectional survey in a Japanese university hospital. *BMJ Open* 6: e010527. 2016.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

18. *Haga K, Chiba A, Shibuya T, Osada T, Ishikawa D, Kodani T, Nomura O, Watanabe S, Miyake S. MAIT cells are activated and accumulated in the inflamed mucosa of ulcerative colitis. J Gastroenterol Hepatol. 31(5):965–72. 2016.
19. *Hashimoto M, Doi M, Kurebayashi N, Furukawa K, Hirawake–Mogi H, Ohmiya Y, Sakurai T, Mita T, Mikoshiba K, Nara T. Inositol 1,4,5–trisphosphate receptor determines intracellular Ca²⁺ concentration in *Trypanosoma cruzi* throughout its life cycle. FEBS Open Bio. 6:1178–1185. 2016.
20. *Hashimoto M, Nara T, Mita T, Mikoshiba K. Morpholino antisense oligo inhibits trans–splicing of pre–inositol 1,4,5–trisphosphate receptor mRNA of *Trypanosoma cruzi* and suppresses parasite growth and infectivity. Parasitol Int. 65:175–179. 2016.
21. Hayashi E, Chiba A, Tada k, Haga K, Kitagaichi M, Nakajima S, Kusaoi M, Sekiya F, Ogasawara M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y, Miyake S. Involvement of Mucosal–associated Invariant T cells in Ankylosing Spondylitis. J Rheumatol. 43(9):1695–703. 2016.
22. Hishinuma T, Katayama Y, Matsuo M, Sasaki T, Hiramatsu K. Complete Genome Sequence of Vancomycin–Intermediate *Staphylococcus aureus* Strain MI (HIP5827). Genome Announc. 17;4(2) pii: e00123–16. 2016.
23. *Honma H, Niiura M, Kobayashi F, Horii T, Mita T, Endo H, Hirai M. Mutation tendency of mutator *Plasmodium berghei* with proofreading–deficient DNA polymerase delta. Scientific reports. 6:36971. 2016.
24. Hoshika Y, Takahashi F, Togo S, Hashimoto M, Nara T, Kobayashi T, Nurwidya F, Kataoka H, Kurihara M, Kobayashi E, Ebana H, Kikkawa M, Ando K, Nishino K, Hino O, Takahashi K, Seyama K. Haploinsufficiency of the folliculin gene leads to impaired functions of lung fibroblasts in patients with Birt–Hogg–Dubé syndrome. Physiol Rep. 4:e13025. 2016.
25. Hosoda T, Uehara Y, Matsuda N, Kawase Y, Tanei M, Haba Y, Nakamura A, Tabe Y, Naito T, Ohsaka A. Performance evaluation of a novel fully automated real–time reverse transcriptase–polymerase chain reaction kit for the detection of norovirus. Rinsho Byori 64: 1347–1352. 2016.
26. *Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Reich J, Kuwahara–Arai K, Iba T, Nagaoka I. Antimicrobial cathelicidin peptide LL–37 inhibits the pyroptosis of macrophages and improves the survival of polybacterial septic mice. Int Immunol 28: 245–253 2016.
27. Hu Z, Nagaoka I. Modulation of macrophage cell death, pyroptosis by host defense peptide LL–37. Juntendo Med J 62: 98–104 2016.
28. Iba T, Hamakubo T, Nagaoka I, Sato K, Thachil J. Physiological levels of pentraxin 3 and albumin attenuate vascular endothelial cell damage Induced by histone H3 in vitro. Microcirculation 23: 240–247 2016.
29. Iguchi S, Mizutani T, Hiramatsu K. Rapid Acquisition of Linezolid Resistance in Methicillin–Resistant *Staphylococcus aureus*: Role of Hypermutation and Homologous Recombination. PLoS One. 16;11(5):e0155512. 2016.
30. Ikeda N, Shoji H, Suganuma H, Ohkawa N, Kantake M, Murano Y, Sakuraya K, Shimizu T. Effects of insulin–like growth factor–I during early postnatal period in intrauterine growth–restricted rats. Pediatr Int 58:353–8. 2016.
31. Inaoka DK, Iida M, Tabuchi T, Honma T, Lee N, Hashimoto S, Matsuoka S, Kuranaga T, Sato K, Shiba T, Sakamoto K, Balogun EO, Suzuki S, Nara T, da Rocha JR, Montanari CA, Tanaka A, Inoue M, Kita K, Harada S. The Open Form Inducer Approach for Structure–Based Drug Design. PLoS One. 11:e0167078. 2016.
32. Ishibashi T, Yaguchi A, Terada K, Ueno–Yokohata H, Tomita O, Iijima K, Kobayashi K, Okita H, Fujimura J, Ohki K, Shimizu T, Kiyokawa N. Ph–like ALL–related novel fusion kinase ATF7IP–PDGFRB exhibits high sensitivity to tyrosine kinase inhibitors in murine cells. Exp Hematol. 44:177–88. 2016.
33. Kadowaki A, Miyake S, Saga R, Chiba A, Mochizuki H, Yamamura T. Gut environment–induced

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- intraepithelial autoreactive CD4⁺ T cells suppress central nervous system autoimmunity via LAG-3. *Nat Commun.* 20;7:11639. 2016.
34. Kamijo M, Wada A, Mineki R, Sakanishi T, Ikeda S. Prostaglandin E receptor 4 inhibition restores UVB-induced downregulation of ATP2A2/SERCA2 in cultured normal human keratinocytes. *J Dermatol Sci.* 81(1):69-71. 2016.
 35. Kamijo S, Suzuki M, Hara M, Shimura S, Ochi H, Maruyama N, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Suto H, Ichikawa S, Ikeda S, Ogawa H, Okumura K, Takai T. Subcutaneous allergic sensitization to protease allergen is dependent on mast cells but not IL-33: Distinct mechanisms between subcutaneous and intranasal routes. *J Immunol.* 196(9):3559-69. 2016.
 36. Kayayama Y, Sekine M, Hishinuma T, Aiba Y, Hiramatsu K. Complete reconstitution of the VISA phenotype of Mu50 in Vancomycin-Susceptible *Staphylococcus aureus*. *Antimicrob Agents Chemother.* 60(6):3730-3743, 2016.
 37. Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Chieosilapatham P, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H. Angiogenic peptide (AG)-30/5C activates human keratinocytes to produce cytokines/chemokines and to migrate and proliferate via MrgX receptors. *J Dermatol Sci.* 83(3):190-9. 2016.
 38. Kitatani K, Iwabuchi K, Snider A, Riboni L. Sphingolipids in Inflammation: From Bench to Bedside. *Mediators of Inflamm.* 2016: 7602526 2016.
 39. Kobayashi I, Takahashi F, Nurwidya F, Nara T, Hashimoto M, Murakami A, Yagishita S, Tajima K, Hidayat M, Shimada N, Suina K, Yoshioka Y, Sasaki S, Moriyama M, Moriyama H, Takahashi K. Oct4 plays a crucial role in the maintenance of gefitinib-resistant lung cancer stem cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 473:125-132. 2016.
 40. Meng L, Bai Z, He S, Mochizuki K, Purushe J, Sun H, Wang J, Yagita H, Mineishi S, Fung H, Yanik GA, Carcchio R, Fan X, Crisalli LM, Hexner EO, Reshef R, Zhang Y, Zhang Y. The Notch ligand DLL4 defines a capability of human dendritic cells in regulating Th1 and Th17 differentiation. *J Immunol* 196: 1070-1080 2016.
 41. *Mita T, Culleton R, Takahashi N, Nakamura M, Tsukahara T, Hunja CW, Win ZZ, Htike WW, Marma AS, Dysoley L, Ndounga M, Dzodzomenyo M, Akhwale WS, Kobayashi J, Uemura H, Kaneko A, Hombhanje F, Ferreira MU, Bjorkman A, Endo H, Ohashi J. Little Polymorphism at the K13 Propeller Locus in Worldwide *Plasmodium falciparum* Populations Prior to the Introduction of Artemisinin Combination Therapies. *Antimicrob Agents Chemother.* 60(6):3340-7. 2016.
 42. *Mita T, Tachibana S, Hashimoto M, Hirai M. Plasmodium falciparum kelch 13: a potential molecular marker for tackling artemisinin-resistant malaria parasites. *Expert Rev Anti Infect Ther.* 14(1):125-35. 2016.
 43. Morales J, Hashimoto M, Williams TA, Hirawake-Mogi H, Makiuchi T, Tsubouchi A, Kaga N, Taka H, Fujimura T, Koike M, Mita T, Bringaud F, Concepción JL, Hashimoto T, Embley TM, Nara T. Differential remodelling of peroxisome function underpins the environmental and metabolic adaptability of diplomonads and kinetoplastids. *Proc Biol Sci.* 283:20160520. 2016.
 44. Morita F, Hirai Y, Suzuki K, Uehara Y, Mitsuhashi K, Amano A, Naito T. Infective endocarditis and Sjögren's syndrome diagnosed simultaneously. *IDCases* 22: 6-8. 2016.
 45. Murakami T, Hu Z, Tamura H, Nagaoka I. Release mechanism of high mobility group nucleosome binding protein 1 from lipopolysaccharide-stimulated macrophages. *Mol Med Rep* 13: 3115-3120 2016.
 46. Nagaoka I. Have host defense peptides been acting in innate immunity since the trilobites of the Cambrian period 540 million years ago? *Juntendo Med J* 62: 96-97 2016.
 47. *Nair VR, Franco LH, Zacharia VM, Khan HS, Stamm CE, You W, Marciano DK, Yagita H, Levine B, Shiloh MU. Microfold cells actively translocate Mycobacterium tuberculosis to initiate infection. *Cell Rep* 16: 1253-1258 2016.
 48. *Nakayama H, Kurihara H, Morita YS, Kinoshita T, Mauri L, Prinetti A, Sonnino S, Yokoyama N, Ogawa H, Takamori K, Iwabuchi K. Lipoarabinomannan binding to lactosylceramide in lipid rafts is essential for the phagocytosis of mycobacteria by human neutrophils. *Sci Signal.* 11;9(449):ra101.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

2016.

49. Nishizaki N, Nakagawa M, Hara S, Oda H, Kantake M, Obinata K, Uehara Y, Hiramatsu K, Shimizu T. Effect of PMX-DHP for sepsis due to ESBL-producing *Escherichia coli* in an extremely low-birthweight infant. *Pediatr Int* 58: 411–414. 2016.
50. Nishizaki Y, Yamagami S, Inoue H, Uehara Y, Kobayashi S, Daida H. Reactive arthritis caused by urinary tract infection. *Intern Med* 55: 1195–1198. 2016.
51. Pongvongsa T, Nonaka D, Iwagami M, Nakatsu M, Phongmany P, Nishimoto F, Kobayashi J, Hongvanthon B, Brey PT, Moji K, Mita T, Kano S. Household clustering of asymptomatic malaria infections in Xepon district, Savannakhet province, Lao PDR. *Malar J*. 15(1):508. 2016.
52. Shimura S, Takai T, Iida H, Maruyama N, Ochi H, Kamijo S, Nishioka I, Hara M, Matsuda A, Saito H, Nakae S, Ogawa H, Okumura K, Ikeda S. Epicutaneous allergic sensitization by cooperation between allergen protease activity and mechanical skin barrier damage in mice. *J Invest Dermatol*. 136(7):1408–17. 2016.
53. Sueyoshi K, Sumi Y, Inoue Y, Kuroda Y, Ishii K, Nakayama H, Iwabuchi K, Kurishita Y, Shigemitsu H, Hamachi I, Tanaka H. Fluorescence imaging of ATP in neutrophils from patients with sepsis using organelle-localizable fluorescent chemosensors. *Ann Intensive Care*. 6(1):64. 2016.
54. Suzuki A, Uehara Y, Saita M, Inui A, Isonuma H, Naito T. Raltegravir and abacavir/lamivudine in Japanese treatment-naïve and treatment-experienced patients with HIV Infection: a 48-week retrospective pilot analysis. *Jpn J Infect Dis* 69: 33–38. 2016.
55. Suzuki K, Hirai Y, Morita F, Uehara Y, Oshima H, Mitsuhashi K, Amano A, Naito T. A case of infective endocarditis along with a ruptured valve caused by *Streptococcus agalactiae* in an immunocompetent man. *IDCases* 6: 94–96. 2016.
56. Suzuki K, Murakami T, Hu Z, Tamura H, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I. Human host defense cathelicidin peptide LL-37 enhances the lipopolysaccharide uptake by liver sinusoidal endothelial cells without cell activation. *J Immunol* 196: 1338–1347 2016.
57. Suzuki K, Nagaoka I. The effect of human host defense peptide LL-37 on endothelial cells. *Juntendo Med J* 62: 105–111 2016.
58. Tabe Y, Hatanaka Y, Nakashiro M, Sekihara K, Yamamoto S, Matsushita H, Kazuno S, Fujimura T, Ikegami T, Nakanaga K, Matsumoto H, Ueno T, Aoki J, Yokomizo T, Konopleva M, Andreeff M, Miida T, Iwabuchi K, Sasai K. Integrative genomic and proteomic analyses identifies glycerol-3-phosphate acyltransferase as a target of low-dose ionizing radiation in EBV infected-B cells. *Int J Radiat Biol*. 92(1):24–34. 2016.
59. Tada H, Shimizu T, Nagaoka I, Takada H. Vitamin D3 analog maxacalcitol (OCT) induces hCAP-18/LL-37 production in human oral epithelial cells. *Biomed Res* 37: 199–205 2016.
60. Takamiya S, Hashimoto M, Mita T, Yokota T, Nakajima Y, Yamakura F, Sugio S, Fujimura T, Ueno T, Yamasaki H. Bioinformatic identification of cytochrome b5 homologues from the parasitic nematode *Ascaris suum* and the free-living nematode *Caenorhabditis elegans* highlights the crucial role of *A. suum* adult-specific secretory cytochrome b(5) in parasitic adaptation. *Parasitol Int*. 65(2):113–20. 2016.
61. Takamiya S, Mita T. Large-scale purification of active liquid-cultured *Caenorhabditis elegans* using a modified Baermann apparatus. *Parasitol Int*. 65(5 Pt B):580–583. 2016.
62. Tamura H, Reich J, Nagaoka I. Bacterial endotoxin assays relevant to host defense peptides. *Juntendo Med J* 62: 132–140 2016.
63. Tanaka Y, Amano A, Morisaki M, Sato Y, Sasaki T. Cellular peptidyl-prolyl cis/trans isomerase Pin1 facilitates replication of feline coronavirus. *Antiviral Res*. 7:126:1–7 2016.
64. *Yatsushiro S, Yamamoto T, Yamamura S, Abe K, Obana E, Nogami T, Hayashi T, Sesei T, Oka H, Okello-Onen J, Odongo-Aginya EI, Alai MA, Olia A, Anywar D, Sakurai M, Palacpac NM, Mita T, Horii T, Baba Y, Kataoka M. Application of a cell microarray chip system for accurate, highly sensitive, and rapid diagnosis for malaria in Uganda. *Scientific reports*. 6:30136. 2016.
65. Chiricozzi E, Ciampa MG, Brasile G, Compostella F, Prinetti A, Nakayama H, Ekyalongo RC,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- Iwabuchi K, Sonnino S, Mauri L. Direct interaction, instrumental for signaling processes, between LacCer and Lyn in the lipid rafts of neutrophil-like cells. J Lipid Res, 56:129–41. 2015.
66. Croxford JL, Miyake S. Immunoregulation of multiple sclerosis by gut environmental factors. Clin Exp Neuroimmunol. 6(4):362–369 2015.
67. *Dong H, Franklin NA, Ritchea SB, Yagita H, Glennie MJ, Bullock TN. CD70 and IFN-1 selectively induce Eomesdermin or T-bet and synergize to promote CD8+ T-cell responses. Eur J Immunol. 45: 3289–3301 2015.
68. Ekyalongo RC, Nakayama H, Kina K, Kaga N, Iwabuchi K. Organization and functions of glycolipid-enriched microdomains in phagocytes. Biochim Biophys Acta, 1851:90–7. 2015.
69. *Fudo S*, Yamamoto N*, Nukaga M, Odagiri T, Tashiro M, Neya S, Hoshino T (*These authors contributed equally to this work). Structural and computational study on inhibitory compounds for endonuclease activity of influenza virus polymerase. Bioorg Med Chem. 1;23(17):5466–75. 2015.
70. Hasegawa T, Ikeda S. Adipose-derived stromal/stem cells as potential source of skin regeneration. Stem Cell Transl Investig. 2:e787 2015.
71. *Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, Iida H, Ikeda S. Keratinocyte progenitor cells reside in human subcutaneous adipose tissue. PLoS One. 10(2):e0118402. 2015.
72. *Hashimoto M, Morales J, Uemura H, Mikoshiba K, Nara T. A novel method for inducing amastigote-to-trypomastigote transformation in vitro in Trypanosoma cruzi reveals the importance of inositol 1,4,5-trisphosphate receptor. PLoS One. 10:e0135726. 2015.
73. *Hashimoto M, Nara T, Enomoto M, Kurebayashi N, Yoshida M, Sakurai T, Mita T, Mikoshiba K. A dominant negative form of inositol 1,4,5-trisphosphate receptor induces metacyclogenesis and increases mitochondrial density in Trypanosoma cruzi. Biochem Biophys Res Commun. 466:475–480. 2015.
74. Hirai M, Mita T. Challenging Malaria Control. Juntendo Medical Journal. 61(4):370–7. 2015.
75. Ishii K, Tabuchi F, Matsuo M, Tatsuno K, Sato T, Okazaki M, Hamamoto H, Matsumoto Y, Kaito C, Aoyagi T, Hiramatsu K, Kaku M, Moriya K, Sekimizu K. Phenotypic and genomic comparisons of highly vancomycin-resistant Staphylococcus aureus strains developed from multiple clinical MRSA strains by in vitro mutagenesis. Sci Rep. 25;5:17092. 2015.
76. Iwabuchi K, Masuda H, Kaga N, Nakayama H, Matsumoto R, Iwahara C, Yoshizaki F, Tamaki Y, Kobayashi T, Hayakawa T, Ishii K, Yanagida M, Ogawa H, Takamori K. Properties and Functions of Lactosylceramide from Mouse Neutrophils. Glycobiology. 25: 655–68, 2015.
77. Iwabuchi K, Nakayama H, Oizumi A, Suga Y, Ogawa H, Takamori K. Role of Ceramide from Glycosphingolipids and Its Metabolites in Immunological and Inflammatory Responses in Humans. Mediators Inflamm. 2015:120748. 2015.
78. Iwabuchi K. Involvement of glycosphingolipid-enriched lipid rafts in inflammatory responses. Front Biosci (Landmark Ed). 20:325–34, 2015 2015.
79. *Jesus M, Rodriguez AE, Yagita H, Ostroff GR, Mantis NJ. Sampling of Candida albicans and Candida tropicalis by Langerin-positive dendritic cells in mouse Peyer's patches. Immunol Lett. 168: 64–72. 2015.
80. Kamachi F, Isshiki T, Harada N, Akiba H, Miyake S. ICOS promotes group 2 innate lymphoid cell activation in lungs. Biochem Biophys Res Commun. 463(4):739–45 2015.
81. *Matsunaga N, Hisata K, Shimizu T. An investigation into the vancomycin concentration in the cerebrospinal fluid due to vancomycin intraventricular administration in newborns: a study of 13 cases. Medicine 94:e922. 2015.
82. *Matsuo M, Hishinuma T, Katayama Y, Hiramatsu K. A mutation of RNA polymerase β subunit (RpoC) converts heterogeneously vancomycin intermediate S. aureus (hVISA) into 'slow-VISA' (sVISA). Antimicrob Agents Chemother. 59(7):4215–25. 2015.
83. Mita T, Jombart T. Patterns and dynamics of genetic diversity in Plasmodium falciparum: what past human migrations tell us about malaria. Parasitol Int. 64(3):238–43. 2015.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

84. Mita T. Current Research Topics in Tropical Diseases; Towards Successful Control and Elimination. Juntendo Medical Journal. 61(4):358–9. 2015.
85. Miyake S, Kim S, Suda W, Oshima K, Nakamura M, Matsuoka T, Chihara N, Tomita A, Sato W, Kim S, Morita H, Hattori M, Yamamura T. Dysbiosis in the Gut Microbiota of Patients with Multiple Sclerosis, with a Striking Depletion of Species Belonging to Clostridia XIVa and IV Clusters. PLoS One. 10(9):e0137429. 2015.
86. *Morimoto Y, Baba T, Sasaki T, Hiramatsu K. Apigenin as an Anti-Quinolone-Resistance Antibiotic. Int J Antimicrob Agents. 46(6):666–73. 2015.
87. Murai K, Culleton R, Hisaoka T, Endo H, Mita T. Global distribution of polymorphisms associated with delayed Plasmodium falciparum parasite clearance following artemisinin treatment: genotyping of archive blood samples. Parasitol Int. 64(3):267–73. 2015.
88. Murate M, Abe M, Kasahara K, Iwabuchi K, Umeda M, Kobayashi T. Transbilayer lipid distribution in nano scale. J Cell Sci. 128:1627–3820. 2015.
89. Nara T. Current situation of Chagas disease in non-endemic countries. Juntendo Med J 61: 389–395. 2015.
90. *Ohsawa H, Baba T, Enami J, Hiramatsu K. Successful selection of an infection-protective anti-Staphylococcus aureus monoclonal antibody and its protective activity in murine infection models. Microbiol Immunol. 59:183–92. 2015.
91. *Sasaki T, Tsubakishita S, Kuwahara-Arai K, Mastuo M, Lu YJ, Tanaka Y, Hiramatsu K. Complete Genome Sequence of a Methicillin-Resistant Staphylococcus schleiferi Strain TSCC54, of Canine Origin. Genome Announc. 29;3(5) pii: e01268–15. 2015.
92. Singh M, Sasaki T, Matsuo M, Morimoto Y, Aiba Y, Hiramatsu K. Complete Genome Sequence of a Drug-naive Classical Staphylococcus aureus Strain FDA209P. Genome Announc. 12;3(6) pii: e01343–15. 2015.
93. Smithrithee R, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Ushio H, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H. Human β -defensin-3 increases the expression of interleukin-37 through CCR6 in human keratinocytes. J Dermatol Sci. 77(1):46–53. 2015.
94. Sugimura T*, Takahashi H*, Jounai K, Ohshio K, Kanayama M, Tazumi K, Tanihata Y, Miura Y, Fujiwara D, Yamamoto N(*These authors contributed equally to this work). Effects of oral intake of pDC-stimulative lactic acid bacterial strain on pathogenesis of influenza-like illness and immunological response to influenza virus. Br J Nutr. 14;114(5):727–33. 2015.
95. Suzuki M, Saito N, Naritaka N, Nakano S, Minowa K, Honda Y, Ohtsuka Y, Yamataka A, Shimizu T. Scoring system for the prediction of severe acute pancreatitis in children. Pediatr Int 57:113–8. 2015.
96. Tajiri H, Nishi J, Ushijima K, Shimizu T, Ishige T, Shimizu M, Tanaka H, Brooks S. A role for fosfomycin treatment in children for prevention of haemolytic-uraemic syndrome accompanying Shiga toxin-producing Escherichia coli infection. Int J Antimicrob Agents 46:586–9. 2015.
97. Takenaka S-I, Kaieda S, Kawayama T, Matsuoka M, Kaku Y, Kinoshita T, Sakazaki Y, Okamoto M, Tominaga M, Kanasaki K, Chiba A, Miyake S, Ida H, Hoshino T. IL-38: A new factor in rheumatoid arthritis. Biochem Biophys Rep. 4:386–391. 2015.
98. Tanabe K, Zollner G, Vaughan JA, Sattabongkot J, Khuntirat B, Honma H, Mita T, Tsuboi T, Coleman R. Plasmodium falciparum: genetic diversity and complexity of infections in an isolated village in western Thailand. Parasitol Int. 64(3):260–6. 2015.
99. Tanaka Y, Sasaki T, Matsuda R, Uematsu Y, Yamaguchi T. Molecular epidemiological study of feline coronavirus strains in Japan using RT-PCR targeting nsp14 gene. BMC Veterinary Research 11:57. 2015.
100. Tanaka Y, Sato Y, Takahashi D, Matsumoto H, Sasaki T. Treatment of a case of feline infectious peritonitis with cyclosporin A. Vet Rec Case Rep. 3:e000134. 2015.
101. Tsukahara T, Ogura S, Sugahara T, Sekihara M, Furusawa T, Kondo N, Mita T, Endo H, Hombhanje F. The Choice of Healthcare Providers for Febrile Children after Introducing

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- Non-professional Health Workers in a Malaria Endemic Area in Papua New Guinea. *Front Public Health*. 2015;3:275. 2015.
102. Tsutsui-Takeuchi M, Ushio H, Fukuda M, Yamada T, Niyonsaba F, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S. Roles of retinoic acid-inducible gene-I-like receptors (RLRs), Toll-like receptor (TLR) 3 and 2'-5' oligoadenylate synthetase as viral recognition receptors on human mast cells in response to viral infection. *Immunol Res*. 2015 61(3):240-9. 2015.
 103. Uehara Y, Ito T, Ogawa Y, Hirotaki S, Shoji T, Tame T, Horikoshi Y, Hiramatsu K. Molecular epidemiologic study of community-associated methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* with Panton-Valentine leukocidin gene among family members in Japan. *J Infect Chemother* 21: 700-702. 2015.
 104. Yamamoto N. An overview of Ebola virus disease: History, pathogenesis, and treatment. *Juntendo Medical Journal*, 61(4): 350-472. 2015.
 105. Yamazaki S, Nakano N, Honjo A, Hara M, Maeda K, Nishiyama C, Kitaura J, Ohtsuka Y, Okumura K, Ogawa H, Shimizu T. The Transcription Factor Ehf Is Involved in TGF-beta-Induced Suppression of Fc epsilon RI and c-Kit Expression and Fc epsilon RI-Mediated Activation in Mast Cells. *J Immunol* 195:3427-35. 2015.
 106. Yoshihara N, Ueno T, Takagi A, Oliva Trejo JA, Haruna K, Suga Y, Komatsu M, Tanaka K, Ikeda S. The significant role of autophagy in the granular layer in normal skin differentiation and hair growth. *Arch Dermatol Res*. 307(2):159-69. 2015.
 107. Hiramatsu K, Morimoto Y. Farewell Lecture: Future Chemotherapy Preventing Emergence of Multi-Antibiotic Resistance. *Juntendo Med J*. 61(3) 249-256. 2015.
 108. Akiyama T, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Nguyen TT, Ushio H, Fujimura T, Ueno T, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S. The human cathelicidin LL-37 host defense peptide upregulates tight junction-related proteins and increases human epidermal keratinocyte barrier function. *J Innate Immun*. 6(6):739-53. 2014.
 109. Amari Y, Uehara Y, Watanabe Y, Inui A, Sugihara E, Yokokawa H, Isonuma H, Naito T. Status of antimicrobial use among dentists in Japan. *J Gen Hosp Med* 6: 8-15, 2014. 2014.
 110. Ando N, Okumura A, Kobayashi S, Negishi Y, Hattori A, Okanishi T, Abe S, Ikeno M, Igarashi A, Saitoh S, Shimizu T. Fulminant encephalopathy with marked brain edema and bilateral thalamic lesions. *Neuropediatrics* 45:256-60. 2014.
 111. Araki M, Matsuoka T, Miyamoto K, Kusunoki S, Okamoto T, Murata M, Miyake S, Aranami T, Yamamura T. Efficacy of the anti-IL-6 receptor antibody tocilizumab in neuromyelitis optica: A pilot study. *Neurology*, 82(15):1302-1306. 2014.
 112. Balogun EO, Inaoka DK, Shiba T, Kido Y, Tsuge C, Nara T, Aoki T, Honma T, Tanaka A, Inoue M, Matsuoka S, Michels PAM, Kita K, Harada S. Molecular basis for the reverse reaction of African human trypanosomes glycerol kinase. *Mol Microbiol*. 94:1315-1329. 2014.
 113. Barnor JS, Yamamoto N, Brandful J, Ampofo W, Bonney K, Bonney E, Odoom JK, Aidoo1 S, Alale M, Ntim1 NA, Amoah YO, Ofori SB, Ndzinu1 J, Aziati ID, Addo NA, Nyarko A, Ido E, Ishikawa K, Yamaoka S. Establishment of in-house quantitative real-time RT-PCR assay for HIV-1 viral load measurement: application to evaluate efficacy of ART in Ghanaian patients in an urban setting. *J AIDS Clin Res* 5: 305. 2014.
 114. Bian Z, Dai J, Nakano H, Guan H, Yuan Y, Gan L, Zhou H, Zong J, Zhang Y, Li F, Yan L, Shen D, Li H, Tang Q. Disruption of Tumor Necrosis Factor Receptor Associated Factor 5 Exacerbates Pressure Overload Cardiac Hypertrophy and Fibrosis. *J Cell Biochem*. 115(2):349-58. 2014.
 115. *Gonzalez-Hernandez MB, Liu T, Payne HC, Stencel-Baerenwald J, Ikizler M, Yagita H, Dermody TS, Williams IR, Wobus CE. Efficient norovirus and reovirus replication in the mouse intestine requires micfold (M) cells. *J Virol* 88: 6934-6943. 2014.
 116. *Hashimoto M, Nara T, Hirawake H, Morales J, Enomoto M, Mikoshiba K. Antisense oligonucleotides targeting parasite inositol 1,4,5-trisphosphate receptor inhibits mammalian host cell invasion by *Trypanosoma cruzi*. *Sci Rep*. 4:4231. 2014.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

117. Higashihara Y, Kato J, Nagahara A, Izumi K, Konishi M, Kodani T, Serizawa N, Osada T, Watanabe S. Phase I clinical trial of peptide vaccination with URLC10 and VEGFR1 epitope peptides in patients with advanced gastric cancer. *Int J Oncol.* 44(3):662–8. 2014.
118. *Hiramatsu K, Katayama Y, Matsuo M, Sasaki T, Morimoto Y, Sekiguchi A, Baba T. Multi-drug-resistant *Staphylococcus aureus* and future chemotherapy. *J Infect Chemother.* 20(10):593–601. 2014.
119. Hiramatsu K, Kayayama Y, Matsuo M, Aiba Y, Saito M, Hishinuma T, Iwamoto A. Vancomycin-intermediate resistance in *Staphylococcus aureus*. *J Glob Antimicrob Resist.* 2(4):213–224. 2014.
120. Hirotsu M, Shiozawa A, Ono N, Miwa M, Kikuchi K, Ikeda K. Fungal extracts detected in eosinophilic chronic rhinosinusitis induced cytokines from the nasal polyp cells. *Laryngoscope* 124: E347–E353. 2014.
121. *Honma H, Hirai M, Nakamura S, Hakimi H, Kawazu S, Palacpac NM, Hisaeda H, Matsuoka H, Kawai S, Endo H, Yasunaga T, Ohashi J, Mita T, Horii T, Furusawa M, Tanabe K. Generation of rodent malaria parasites with a high mutation rate by destructing proofreading activity of DNA polymerase delta. *DNA Res.* 21(4):439–46. 2014.
122. *Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I. Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages by dual mechanism. *PLOS One* 9(1): e85765. 2014.
123. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Tabe Y, Nagaoka I. Combination of antithrombin and recombinant thrombomodulin modulates neutrophil cell-death and decreases circulating DAMPs levels in endotoxemic rats. *Thromb Res* 134: 169–173 2014.
124. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Tabe Y, Nagaoka I. Is the neutrophil a ‘prima donna’ in the procoagulant process during sepsis? *Critical Care* 18: 230 2014.
125. Iba T, Miki T, Hashiguchi N, Yamada A, Nagaoka I. Combination of antithrombin and recombinant thrombomodulin attenuates leukocyte-endothelial interaction and suppresses the increase of intrinsic damage-associated molecular patterns in endotoxemic rats. *J Surg Res* 187: 581–586 2014.
126. Iba T, Murai M, Nagaoka I, Tabe Y. Neutrophil extracellular traps, damage-associated molecular patterns, and cell death during sepsis. *Acute Med Surg* 1:2–9 2014.
127. Iba T, Nagaoka I, Yamada A, Nagayama M, Miki T. Effect of hemoperfusion using polymyxin B-immobilized fibers on acute lung injury in a rat sepsis model. *Int J Med Sci* 11: 255–261 2014.
128. Iba T, Yamada A, Hashiguchi N, Nagaoka I. New therapeutic options for patients with sepsis and disseminated intravascular coagulation. *Pol Arch Med Wewn* 124: 321–318. 2014.
129. Iida H, Takai T, Hirasawa Y, Kamijo S, Shimura S, Ochi H, Nishioka I, Maruyama N, Ogawa H, Okumura K, Ikeda S. Epicutaneous administration of papain induces IgE and IgG responses in a cysteine protease activity-dependent manner. *Allerol Int.* 2014 63(2):219–26. 2014.
130. Ikeda N, Shoji H, Murano Y, Mori M, Matsunaga N, Sukanuma H, Ikeno M, Hisata K, Hirayama S, Ueno T, Miida T, Shimizu T. Effects of breastfeeding on the risk factors for metabolic syndrome in preterm infants. *J Dev Orig Health Dis* 5:459–64. 2014.
131. Ito T, Kuwahara-Arai K, Katayama Y, Uehara Y, Han X, Kondo Y, Hiramatsu K. Staphylococcal Cassette Chromosome mec (SCCmec) Analysis of MRSA. *Methods Mol Biol.* 1085:131–48. 2014.
132. *Izumi K, Osada T, Sakamoto N, Kodani T, Higashihara Y, Ritsuno H, Shibuya T, Nagahara A, Ogihara T, Kikuchi K, Watanabe S. Frequent occurrence of fever in patients who have undergone endoscopic submucosal dissection for colorectal tumor, but bacteremia is not a significant cause. *Surg Endosc.* (10):2899–904. 2014.
133. Kamachi F, Harada N, Usui Y, Sakanishi T, Ishii N, Okumura K, Miyake S, Akiba H. OX40 ligand regulates splenic CD8(–) dendritic cell-induced Th2 responses in vivo. *Biochem Biophys Res Commun.* 444(2):235–40 2014.
134. Kawasaki Y, Matsubara K, Ishihara H, Nigami H, Iwata A, Kawaguchi K, Fukaya T, Kawamura Y,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- Kikuchi K. *Corynebacterium propinquum* as the first cause of infective endocarditis in childhood. *J Infect Chemother* 20: 317–319. 2014.
135. Kiatsurayanon C, Niyonsaba F, Smithrithee R, Akiyama T, Ushio H, Hara M, Okumura K, Ikeda S, Ogawa H. Host defense (Antimicrobial) peptide, human β -defensin-3, improves the function of the epithelial tight-junction barrier in human keratinocytes. *J Invest Dermatol*. 134(8):2163–73. 2014.
136. Kishii K, Kikuchi K, Matsuda N, Yoshida A, Okuzumi K, Uetera Y, Yasuhara H, Moriya K. Evaluation of matrix-assisted laser desorption ionization-time of flight mass spectrometry for species identification of *Acinetobacter* strains isolated from blood cultures. *Clin Microbiol Infect*. 20: 424–430. 2014.
137. *Kishii K, Kikuchi K, Matsuda N, Yoshida A, Okuzumi K, Uetera Y, Yasuhara H, Moriya K. Antimicrobial susceptibility profile of *Acinetobacter* species isolated from blood cultures in two Japanese university hospitals. *Microbiol Immunol*. 58: 142–146. 2014.
138. *Mita T, Ohashi J, Venkatesan M, Marma AS, Nakamura M, Plowe CV, Tanabe K. Ordered accumulation of mutations conferring resistance to sulfadoxine-pyrimethamine in the *Plasmodium falciparum* parasite. *J Infect Dis*. 209(1):130–9. 2014.
139. Miyake S. Novel type of regulatory B cell in central nervous system autoimmunity. *Clin Exp Neuroimmunol*. 5(2):110–111. 2014.
140. Murakami A, Takahashi F, Nurwidya F, Kobayashi I, Minakata K, Hashimoto M, Nara T, Kato M, Tajima K, Shimada N, Iwakami S, Moriyama M, Moriyama H, Koizumi F, Takahashi K. Hypoxia increases gefitinib-resistant lung cancer stem cells through the activation of insulin-like growth factor 1 receptor. *PLoS One*. 9:e86459. 2014.
141. Nakamura M, Matsuoka T, Chihara N, Miyake S, Sato W, Araki M, Okamoto T, Lin Y, Ogawa M, Murata M, Aranami T, Yamamura T. Differential effects of fingolimod on B-cell populations in multiple sclerosis. *Mult Scler*. 20(10):1371–80. 2014.
142. Nakao A, Hisata K, Matsunaga N, Fujimori M, Yoshikawa N, Komatsu M, Kikuchi K, Takahashi H, Shimizu T. The clinical utility of a near patient care rapid microarray-based diagnostic test for influenza and respiratory syncytial virus infections in the pediatric setting. *Diagn Microbiol Infect Dis* 78:363–7. 2014.
143. *Nakao A, Ito T, Han X, Lu YJ, Hisata K, Tsujiwaki A, Matsunaga N, Komatsu M, Hiramatsu K, Shimizu T. Intestinal carriage of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* in nasal MRSA carriers hospitalized in the neonatal intensive care unit. *Antimicrob Resist Infect Control* 3:14. 2014.
144. Nara T. Chagas Disease: Clear and Present Danger. *Juntendo Med J* 60: 362–365. 2014.
145. Natsuaki Y, Egawa G, Nakamizo S, Ono S, Hanakawa S, Okada T, Kusuba N, Otsuka A, Kitoh A, Honda T, Nakajima S, Tsuchiya S, Sugimoto Y, Ishii K, Tsutsui H, Yagita H, Iwakura Y, Kubo M, Ng LG, Hashimoto T, Fuentes J, Guttman-Yassky E, Miyachi Y, Kabashima K. Perivascular leukocyte clusters are essential for efficient activation of effector T cells in the skin. *Nat Immunol* 15: 1064–1071. 2014.
146. Noto D, Sakuma H, Takahashi K, Yamada M, Yamamura T, Miyake S. Development of a culture system to induce microglia-like cells from hematopoietic cells. *Neuropathol Appl Neurobiol* 40(6):697–713. 2014.
147. Nurwidya F, Takahashi F, Kobayashi I, Murakami A, Kato M, Minakata K, Nara T, Hashimoto M, Yagishita S, Baskoro H, Hidayat M, Shimada N, Takahashi K. Treatment with insulin-like growth factor 1 receptor inhibitor reverses hypoxia-induced epithelial-mesenchymal transition in non-small cell lung cancer. *Biochem Biophys Res Commun*. 455: 332–338. 2014.
148. Ogawa Y, Saraya T, Koide T, Kikuchi K, Ohkuma K, Araki K, Makino H, Yonetani S, Takizawa H, Goto H. Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* enterocolitis sequentially complicated with septic arthritis: a case report and review of the literature. *BMC Research Notes*. 7: 21. 2014.
149. Oizumi A, Nakayama H, Okino N, Iwahara C, Kina K, Matsumoto R, Ogawa H, Takamori K, Ito M,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- Suga Y, Iwabuchi K. Pseudomonas-derived ceramidase induces production of inflammatory mediators from human keratinocytes via sphingosine-1-phosphate. *PLoS One*. 25;9(2):e89402. 2014.
150. *Saito M, Katayama Y, Hishinuma T, Iwamoto A, Aiba Y, Kuwahara-Arai K, Cui L, Matsuo M, Aritakac N, Hiramatsu K. Slow VISA' (sVISA), a novel phenotype of vancomycin resistance, obtained in vitro from hVISA strain Mu3. *Antimicrob Agents Chemother*. 58(9):5024-35. 2014.
151. Shima S, Kawamura N, Ishikawa T, Masuda H, Iwahara C, Niimi Y, Ueda A, Iwabuchi K, Mutoh T. Anti-neutral Glycolipids Antibodies In Encephalomyeloradiculoneuropathy. *Neurology*, 82(2):114-8. 2014.
152. Tabata A, Sato Y, Maya K, Nakano K, Kikuchi K, Wiley RA, Ohkura K, Tomoyasu T, Nagamune H. A streptolysin S homologue is essential for b-haemolytic *Streptococcus constellatus* subsp. *constellatus* cytotoxicity. *Microbiology*. 160: 980-991. 2014.
153. Takahashi H, Tsubouchi A, Murai K, Yamanouchi M, Tanei M, Sakamoto R, Uehara Y, Fan CK, Naito T. Seroprevalence of *Toxoplasma gondii* infection among HIV- infected patients in Tokyo, Japan. *Clin Res HIV/AIDS* 1: 1007-1010. 2014.
154. Takai T, Chen X, Xie Y, Vu AT, Le TA, Kinoshita H, Kawasaki J, Kamijo S, Hara M, Ushio H, Baba T, Hiramatsu K, Ikeda S, Ogawa H, Okumura K. TSLP Expression Induced via Toll-Like Receptor Pathways in Human Keratinocytes. *Methods Enzymol*. 535:371-87. 2014.
155. Tanei M, Yokokawa H, Murai K, Sakamoto R, Amari Y, Boku S, Inui A, Fujibayashi K, Uehara Y, Isonuma H, Kikuchi K, Naito T. Factors influencing the diagnostic accuracy of the rapid influenza antigen detection test (RIADT): a cross-sectional study. *BMJ Open* 4: e003885. 2014.
156. Wakabayashi M, Hasegawa T, Yamaguchi T, Funakushi N, Suto H, Ueki R, Kobayashi H, Ogawa H, Ikeda S. Yokukansan, a traditional Japanese medicine, adjusts glutamate signaling in cultured keratinocytes. *Biomed Res Int*. 364092. 2014.
157. Yamanouchi M, Uehara Y, Yokokawa H, Hosoda T, Watanabe Y, Shiga T, Inui A, Otsuki Y, Fujibayashi K, Isonuma H. Naito T. Analysis of 256 cases of classic fever of unknown origin. *Intern Med* 53: 2471-2475. 2014.
158. Takai T, Chen X, Xie Y, Vu AT, Le TA, Kinoshita H, Kawasaki J, Kamijo S, Hara M, Ushio H, Baba T, Hiramatsu K, Ikeda S, Ogawa H, Okumura K. TSLP expression induced via Toll-like receptor pathways in human keratinocytes. *Methods Enzymol*. 535:371-87. 2014.
159. *Aiba Y, Katayama Y, Hishinuma T, Murakami-Kuroda H, Cui L, Hiramatsu K. Mutation of RNA polymerase β -subunit gene promotes hetero-to-homo conversion of β -lactam resistance of MRSA. *Antimicrob Agents Chemother*. 57(10):4861-4871. 2013.
160. Ashida H, Nakano H, Sasakawa C. Shigella IpaH0722 E3 ubiquitin ligase effector targets TRAF2 to inhibit PKC-NF- κ B activity in invaded epithelial cells. *PLoS Pathog*, 9:e1003409. 2013.
161. Balogun EO, Inaoka DK, Shiba T, Kido Y, Nara T, Aoki T, Honma T, Tanaka A, Inoue M, Matsuoka S, Michels PA, Harada S, Kita K. Biochemical characterization of highly active *Trypanosoma brucei* gambiense glycerol kinase, a promising drug target. *J Biochem*. 154:77-84. 2013.
162. Boku S, Naito T, Murai K, Tanei M, Inui A, Nishimura H, Isonuma H, Takahashi T, Kikuchi K. Near point-of-care administration by the attending physician of the rapid influenza antigen detection immunochromatography test and the fully automated respiratory virus nucleic acid test: contribution to patient management. *Diagn Microbiol Infect Dis*. 76: 445-449. 2013.
163. *Hamamoto I, Harazaki K, Inase N, Takaku H, Tashiro M, Yamamoto N. Cyclosporin A inhibits the propagation of influenza virus by interfering with a late event in the virus life cycle. *Jpn J Infect Dis* 66: 276-283. 2013.
164. *Hamamoto I, Takaku H, Tashiro M, Yamamoto N. High yield production of influenza virus in Madin Darby canine kidney (MDCK) cells with stable knockdown of IRF7. *PLoS One* 8: e59892. 2013.
165. *Hashimoto M, Enomoto M, Morales J, Kurebayashi N, Sakurai T, Hashimoto T, Nara T, Mikoshiba K. Inositol 1,4,5-trisphosphate receptor regulates replication, differentiation, infectivity and

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- virulence of the parasitic protist Trypanosoma cruzi. Mol Microbiol. 87:1133–1150. 2013.
166. Hiramatsu K, Ito T, Tsubakishita S, Sasaki T, Takeuchi F, Morimoto Y, Katayama Y, Matsuo M, Kuwahara-Arai K, Hishinuma T, Baba T. Genomic Basis for Methicillin Resistance in *Staphylococcus aureus*. *Infect Chemother.* 45(2):117–36. 2013.
 167. Iba T, Hashiguchi N, Nagaoka I, Tabe Y, Murai M. Neutrophil cell death in response to infection and its relation to coagulation. *J Intensive Care* 1: 13. 2013.
 168. Iba T, Nagaoka I, Boulat M. The anticoagulant therapy for sepsis-associated disseminated intravascular coagulation. *Thrombosis Research* 131: 383–389. 2013.
 169. Katayama Y, Baba T, Sekine M, Fukuda M, Hiramatsu K. Beta-hemolysin promotes skin colonization of *Staphylococcus aureus*. *J Bacteriol.* 195: 1194–1203. 2013.
 170. Ko T, Mahara K, Ota M, Kato Y, Takanashi S, Kikuchi K, Umemura J, Sumiyoshi T, Tomoike H. A case of prosthetic valve endocarditis caused by *Streptococcus constellatus*, as a rare agent of endocarditis. *Heart Lung* 42: 379–381. 2013.
 171. Kushibuchi I, Kobayashi M, Kusaka T, Tsukagoshi H, Ryo A, Yoshida A, Ishii H, Saraya T, Kurai D, Yamamoto N, Kanou K, Saitoh M, Noda M, Kuroda M, Morita Y, Kozawa K, Oishi K, Tashiro M, Kimura H. Molecular evolution of attachment glycoprotein (G) gene in human respiratory syncytial virus detected in Japan 2008–2011. *Infect Genet Evol* 18: 168–173, 2013.
 172. Lim KT, Hanifah YA, Mohd Yusof MY, Ito T, Thong KL. Comparison of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* strains isolated in 2003 and 2008 with an emergence of multidrug resistant ST22: SCCmec IV clone in a tertiary hospital, Malaysia. *J Microbiol Immunol Infect.* 46(3):224–33. 2013.
 173. Ly DL, Waheed F, Lodyga M, Speight P, Masszi A, Nakano H, Hersom M, Pedersen SF, Szaszi K, Kapus A. Hyperosmotic stress regulates the distribution and stability of myocardin-related transcription factor, a key modulator of the cytoskeleton. *Am J Physiol Cell Physiol*, 304:115–127. 2013.
 174. *Matsuo M, Cui L, Kim J, Hiramatsu K. Comprehensive identification of mutations responsible for heterogeneous vancomycin-intermediate *Staphylococcus aureus* (hVISA)-toVISA conversion in laboratory-generated VISA strains derived from hVISA clinical strain Mu3. *Antimicrob Agents Chemother.* 57(12):5843–53. 2013.
 175. Nagashima H, Okuyama Y, Asao A, Kawabe T, Yamaki S, Nakano H, Croft M, Ishii N, So T. The adaptor TRAF5 limits the differentiation of inflammatory CD4(+) T cells by antagonizing signaling via the receptor for IL-6. *Nat Immunol.* 15:449–456. 2013.
 176. Nakayama H, Ogawa H, Takamori K, Iwabuchi K. GSL-enriched membrane microdomains in innate immune responses. *Arch Immunol Ther Exp (Warsz).* 61(3):217–28. 2013.
 177. Nakazawa T, Obinata K, Nagata Y, Ebara K, Suzuki K, Shimizu T. A case of *Morganella morganii* meningoenzephalitis. *J Infect Dis Ther* 1:118 2013.
 178. Niizuma T, Obinata K, Ikari H, Kamata A, Lee T, Kinoshita K, Shimizu T. False positive of an immunochromatography kit for detection of norovirus in neonatal feces. *J Infect Chemother* 19:171–173. 2013.
 179. Nishizaki Y, Yamagami S, Joki Y, Takahashi S, Sesoko M, Yamashita H, Yokoyama T, Uehara Y, Daida H. Japanese features of native valve endocarditis caused by coagulase-negative staphylococci: case reports and a literature review. *Intern Med* 52: 567–572. 2013.
 180. Nozawa K, Fujishiro M, Kawasaki M, Yamaguchi A, Ikeda K, Morimoto S, Iwabuchi K, Yanagida M, Ichinose S, Morioka M, Ogawa H, Takamori K, Takasaki Y, Sekigawa I. Inhibition of connective tissue growth factor ameliorates rheumatoid arthritis in a murine model. *Arthritis Rheum.* 65(6):1477–86, 2013.
 181. *Ohkushi D, Uehara Y, Iwamoto A, Misawa S, Kondo S, Shimizu K, Hori S, Hiramatsu K. An effective active surveillance method for controlling nosocomial MRSA transmission in a Japanese hospital. *J Infect Chemother* 19: 871–875. 2013.
 182. Oka F, Naito T, Oike M, Saita M, Inui A, Uehara Y, Mitsuhashi K, Isonuma H, Hisaoka T, Shimbo T.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- Influence of smoking on HIV infection among HIV-infected Japanese men. *J Infect Chemother* 19: 542–544. 2013.
183. Saraya T, Ohkuma R, Kikuchi K, Tamura M, Honda K, Yamada A, Araki K, Ishii H, Makino H, Takei H, Karita S, Fujiwara M, Takizawa H, Goto H. Cytomegalovirus pneumonia in a patient with interstitial pneumonia and *Nocardia asiatica* presenting as cavity lung lesions. *Intern. Med.* 52: 593–597. 2013.
 184. Shiba T, Kido Y, Sakamoto K, Inaoka DK, Tsuge C, Tatsumiya R, Takahashi G, Balogun EO, Nara T, Aoki T, Honma T, Tanaka A, Inoue M, Matsuoka S, Saimoto H, Moore A, Harada S, Kita K. Structure of the trypanosome cyanide-insensitive alternative oxidase, a promising drug target. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 110:4580–4585. 2013.
 185. Shindo R, Kakehashi H, Okumura K, Kumagai Y, Nakano H. Critical contribution of oxidative stress to TNF α -induced necroptosis downstream of RIPK1 activation. *Biochem Biophys Res Commun.* 436:212–216. 2013.
 186. Speight P, Nakano H, Kelley T. J, Hinz B, Kapus A. Differential topical susceptibility to TGF β in intact and injured regions of the epithelium: key role in myofibroblast transition. *Mol Biol Cell.* 24:3226–3236. 2013.
 187. Tabata A, Nakano K, Ohkura K, Tomoyasu T, Kikuchi K, Wiley R, Nagamune H. Novel twin streptolysin S-like peptides in the sag operon homologue of β -hemolytic *Streptococcus anginosus*. *J. Bacteriol.* 195: 1090–1099. 2013.
 188. Tsukagoshi H, Yokoi H, Kobayashi M, Kushibuchi I, Okamoto-Nakagawa R, Yoshida A, Morita Y, Noda M, Yamamoto N, Sugai K, Oishi K, Kozawa K, Kuroda M, Shirabe K, Kimura H. Genetic analysis of attachment glycoprotein (G) gene in new genotype ON1 of human respiratory syncytial virus detected in Japan. *Microbiol Immunol* 57: 655–659. 2013.
 189. Uehara Y, Kuwahara-Arai K, Hori S, Kikuchi K, Yanai M, Hiramatsu K. Investigation of nasal meticillin-resistant *Staphylococcus aureus* carriage in a haemodialysis clinic in Japan. *J Hosp Infect* 84: 81–84. 2013.
 190. *Van der Werf N, Redpath NA, Azuma M, Yagita H, Taylor MD. Th2 cell-intrinsic hypo-responsiveness determines susceptibility to helminth infection. PLoS Pathog 9(3): e1003215 2013.
 191. Vicco MH, Ferini F, Rodeles L, Cardona P, Bontempi I, Lioi S, Beloscar J, Nara T, Marcipar I, Bottasso OA. Assessment of cross-reactive host-pathogen antibodies in patients with different stages of chronic chagas disease. *Rev Esp Cardiol.* 66:791–796. 2013.
 192. Wang L, Lu Y, Guan H, Jiang D, Guan Y, Zhang X, Nakano, H, Zhou Y, Zhang Y, Yang L, Li H. Tumor necrosis factor receptor-associated factor 5 is an essential mediator of ischemic brain infarction. *J Neurochem.* 126:400–414. 2013.
 193. Watanabe K, Iwahara C, Nakayama H, Iwabuchi K, Matsukawa T, Yokoyama K, Yamaguchi K, Kamiyama Y, Inada E. Sevoflurane Suppresses TNF- α -Induced Inflammatory Responses in Small Airway Epithelial Cells under Anoxia/Reoxygenation Conditions. *Bri J Anaesth.* 110(4): 637–45. 2013.
 194. *Welten SP, Redeker A, Franken KL, Benedict CA, Yagita H, Wensveen FM, Borst J, Melief CJ, van Lier RA, van Gisbergen KP, Arens R. CD27/CD70 costimulation controls T cell immunity during acute and persistent cytomegalovirus infection. J Virol 87: 6851–6865 2013.
 195. *Xu D, Fu HH, Obar JJ, Park JJ, Tamada K, Yagita H, Lefrancois L. A potential new pathway for PD-L1 costimulation of the CD8 T cell response to *Listeria monocytogenes* infection. PLoS One 8(2): e56539 2013.
 196. Kaito C, Saito Y, Ikuo M, Omae Y, Mao H, Nagano G, Fujiiyuki T, Numata S, Han X, Obata K, Hasegawa S, Yamaguchi H, Inokuchi K, Ito T, Hiramatsu K, Sekimizu K. Mobile genetic element SCCmec-encoded psm-mec RNA suppresses translation of agrA and attenuates MRSA virulence. *PLoS Pathog.* 9(4):e1003269. 2013.
 197. *Lulitanond A, Ito T, Li S, Han X, Ma XX, Engchanil C, Chanawong A, Wilailuckana C, Jiwakanon N,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- Hiramatsu K. ST9 MRSA strains carrying a variant of type IX SCCmec identified in the Thai community. BMC Infect Dis. 11;13:214. 2013.
198. Mariem BJ, Ito T, Zhang M, Jin J, Li S, Ilhem BB, Adnan H, Han X, Hiramatsu K. Molecular characterization of methicillin-resistant Pantone-valentine leukocidin positive Staphylococcus aureus clones disseminating in Tunisian hospitals and in the community. BMC Microbiol. 7;13:2. 2013.
 199. Tomoyasu T, Imaki H, Masuda S, Okamoto A, Kim H, Waite RD, Whiley RA, Kikuchi K, Hiramatsu K, Tabata A, Nagamune H. LacR mutations are frequently observed in Streptococcus intermedius and are responsible for increased intermedilysin production and virulence. Infect Immun. 81(9):3276–86. 2013.
 200. Zhang M, Ito T, Li S, Misawa S, Kondo S, Miida T, Ohsaka A, Hiramatsu K. Analysis of Staphylococcal Cassette Chromosome mec in BD GeneOhm™ MRSA Assay negative strains. Antimicrob Agents Chemother. 57(6):2890–1. 2013.
 201. *Notake S, Matsuda M, Tamai K, Yanagisawa H, Hiramatsu K, Kikuchi K. Detection of IMP metallo-β-lactamase in carbapenem-non-susceptible Enterobacteriaceae and glucose non-fermenting Gram-negative rods by immunochromatography assay. J Clin Microbiol. 51(6):1762–8 2013.
 202. *Annoura T, Makiuchi T, Sariego I, Aoki T, Nara T. SUMOylation of paraflagellar rod protein, PFR1, and its stage-specific localization in Trypanosoma cruzi. PLoS One. 7:e37183. 2012.
 203. Chang MO, Suzuki T, Yamamoto N, Watanabe M, Takaku H. HIV-1 Gag-virus-like particles inhibit HIV-1 replication in dendritic cells and T cells through IFN-α-dependent upregulation of APOBEC3G and 3F. J Innate Immun 4: 570–579. 2012.
 204. Chu TB, Liao CW, Nara T, Huang YC, Chou CM, Liu YH, Fan CK. Enterobius vermicularis infection is well controlled among preschool children in nurseries of Taipei City, Taiwan. Rev Soc Bras Med Trop. 45:646–648. 2012.
 205. *Dong H, Franklin NA, Roberts DJ, Yagita H, Glennie MJ, Bullock TN. CD27 stimulation promotes the frequency of IL-7 receptor-expressing memory precursors and prevents IL-12-mediated loss of CD8+ T cell memory in the absence of CD4+ T cell help. J Immunol 188: 3829–3838. 2012.
 206. Fan CK, Lee LW, Liao CW, Huang YC, Lee YL, Chang YT, da Costa AD, Gil V, Chi LH, Nara T, Tsubouchi A, Akinwale OP. Toxoplasma gondii infection: relationship between seroprevalence and risk factors among primary schoolchildren in the capital areas of Democratic Republic of São Tomé and Príncipe, West Africa. Parasit Vectors. 5:141. 2012.
 207. *Feau S, Garcia Z, Arens R, Yagita H, Borst J, Schoenberger SP. The CD4+ T-cell help signal is transmitted from APC to CD8+ T-cells via CD27–CD70 interactions. Nat Commun 3: 948. 2012.
 208. Fu L, Kitamura T, Iwabuchi K, Ichinose S, Yanagida M, Ogawa H, Watanabe S, Maruyama T, Suyama M, Takamori K. Interplay of neuropilin-1 and semaphorin 3A after partial hepatectomy in rats. World J Gastroentero 18: 5034–41. 2012.
 209. Fujishiro M, Nozawa K, Kawasaki M, Yamaguchi A, Iwabuchi K, Yanagida M, Suzuki F, Miyazawa K, Fukui H, Kaneko K, Ogawa H, Takamori K, Takasaki Y, Sekigawa I. Regenerating gene (REG) 1 alpha promotes pannus progression in patients with rheumatoid arthritis. Mod Rheumatol. 22(2): 228–37. 2012.
 210. Fukuda M, Ushio H, Kawasaki J, Niyonsaba F, Takeuchi M, Baba T, Hiramatsu K, Okumura K, Ogawa H. Expression and Functional Characterization of Retinoic Acid-Inducible Gene-I-Like Receptors of Mast Cells in Response to Viral Infection. J Innate Immun. 5: 163–173. 2012.
 211. *Hiramatsu K, Igarashi M, Morimoto Y, Baba T, Umekita M, Akamatsu Y. Curing bacteria of antibiotic resistance: reverse antibiotics, a novel class of antibiotics in nature. Int J Antimicrob Agents. 39: 478–85. 2012.
 212. Iwabuchi K, Nakayama H, Sasuda H, Kina K, Ogawa H, Takamori K. Membrane microdomains in immunity –Glycosphingolipid-enriched domain-mediated innate immune responses– BioFactors, 38: 275–83. 2012.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

213. Kamata A, Obinata K, Niizuma T, Kinoshita K, Shimizu T. The validity of the criteria for primary infection of *Chlamydomonas pneumoniae* in children by measuring ELISA IgM antibodies. *J Infect Chemother* 18:308–12. 2012.
214. Kashiwada T, Kikuchi K, Abe S, Kato H, Hayashi H, Morimoto T, Kamio K, Usuki J, Takeda S, Tanaka K, Imanishi K, Yagi J, Azuma A, Gemma A. Staphylococcal enterotoxin B toxic shock syndrome induced by community-acquired methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (CA-MRSA). *Intern. Med.* 50: 3085–3088. 2012.
215. Kina K, Masuda H, Nakayama H, Iwahara C, Nagatsuka Y, Hirabayashi Y, Ogawa H, Takamori K, Iwabuchi K. The novel neutrophil differentiation marker phosphatidylglucoside is involved in Fas-dependent apoptosis. *Inflammation and Regeneration* 32: 213–221. 2012.
216. Klionsky DJ, 他 1251 名 (Nakano H, 772 番目) Guidelines for the use and interpretation of assays for monitoring autophagy *Autophagy*. 2012; 8: 445–544. 2012.
217. Minakata K, Takahashi F, Nara T, Hashimoto M, Tajima K, Murakami A, Nurwidya F, Yae S, Koizumi F, Moriyama H, Seyama K, Nishio K, Takahashi K. Hypoxia induces gefitinib resistance in non-small-cell lung cancer with both mutant and wild-type epidermal growth factor receptors. *Cancer Sci.* 103:1946–1954. 2012.
218. Minami T, Kuwahara K, Nakagawa Y, Takaoka M, Kinoshita H, Nakao K, Kuwabara Y, Yamada Y, Yamada C, Shibata J, Usami S, Yasuno S, Nishikimi T, Ueshima K, Sata M, Nakano H, Seno T, Kawahito Y, Sobue K, Kimura A, Nagai R, Nakao K. Reciprocal expression of MRTF-A and myocardin is crucial for pathological vascular remodelling in mice. *EMBO J.* 31: 4428–4440. 2012.
219. *1Nakayama M, Kurokawa K, Nakamura K, Lee BL, Sekimizu K, Kubagawa H, Hiramatsu K, Yagita H, Okumura K, Takai T, Underhill DM, Aderem A, Ogasawara K. Inhibitory receptor paired Ig-like receptor B is exploited by *Staphylococcus aureus* for virulence. *J Immunol* 189: 5903–5911 2012.
220. Nguyen TT, Niyonsaba F, Ushio H, Akiyama T, Kiatsurayanon C, Smithrithee R, Ikeda S, Okumura K, Ogawa H. Interleukin-36 cytokines enhance the production of host defense peptides psoriasin and LL-37 by human keratinocytes through activation of MAPKs and NF- κ B. *J Dermatol Sci.* 68(1):63–6. 2012.
221. Noguchi K, Ishibashi K, Miyokawa K, Hokari M, Kanno T, Hirano T, Yamamoto N, Takaku H. HIV-1 Suppressive Sequences Are Modulated by Rev Transport of Unspliced RNA and Are Required for Efficient HIV-1 Production. *PLoS One* 7: e51393. 2012.
222. Piao JH, Yagita H, Okumura K, Nakano H. Aberrant accumulation of interleukin-10-secreting neutrophils in TRAF2-deficient mice. *Immunol Cell Biol.* 90: 881–888. 2012.
223. Piao X, Komazawa-Sakon S, Nishina T, Koike M, Piao JH, Ehlken H, Kurihara H, Hara M, Van Rooijen N, Schutz G, Ohmuraya M, Uchiyama Y, Yagita H, Okumura K, He YW, Nakano H c-FLIP maintains tissue homeostasis by preventing apoptosis and programmed necrosis. *Sci Signal.* 18;5(255):ra93. 2012.
224. Tabe Y, Jin L, Iwabuchi K, Wang R, Ichikawa N, Miida T, Cortes J, Andreeff M, Konopleva M. Role of stromal microenvironment in nonpharmacological resistance of CML to imatinib through Lyn/CXCR4 interactions in lipid rafts. *Leukemia* 26: 883–92. 2012.
225. Tsujimoto N, Saraya T, Kikuchi K, Takata S, Kurihara Y, Hiraoka S, Makino H, Yonetani S, Araki K, Ishii H, Takizawa H, Goto H. High-resolution CT findings of patients with pulmonary nocardiosis. *J. Thorac. Dis.* 4: 577–582. 2012.
226. Watanabe S, Higashib H, Ogawa H, Takamoria K, Iwabuchi K. Involvement of ganglioside GT1b in glutamate release from neuroblastoma cells. *Neuroscience Letter.* 517: 140–3. 2012.
227. Yoshida A, Kiyota N, Kobayashi M, Nishimura K, Tsutsui R, Tsukagoshi H, Hirano E, Yamamoto N, Ryo A, Saitoh M, Harada S, Inoue O, Kozawa K, Tanaka R, Noda M, Okabe N, Tashiro M, Mizuta K, Kimura H. Molecular epidemiology of the attachment glycoprotein (G) gene in respiratory syncytial virus in children with acute respiratory infection in Japan in 2009/2010. *J Med Microbiol* 61: 820–829. 2012.
228. Cui L, Neoh HM, Iwamoto A, Hiramatsu K. Coordinated phenotype switching with large-scale

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

chromosome flip-flop inversion observed in bacteria. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 19;109(25):E1647-56. 2012.

229. Ito T, Hiramatsu K, Tomasz A, de Lencastre H, Perreten V, Holden MT, Coleman DC, Goering R, Giffard PM, Skov RL, Zhang K, Westh H, O'Brien F, Tenover FC, Oliveira DC, Boyle-Vavra S, Laurent F, Kearns AM, Kreiswirth B, Ko KS, Grundmann H, Sollid JE, John JF Jr, Daum R, Soderquist B, Buist G; International Working Group on the Classification of Staphylococcal Cassette Chromosome Elements (IWG-SCC). Guidelines for reporting novel *mecA* gene homologues. *Antimicrob Agents Chemother*. 56(10):4997-9. 2012.

230. Matsuda N, Matsuda M, Notake S, Yokokawa H, Kawamura Y, Hiramatsu K, Kikuchi K. Evaluation of a simple protein extraction method for species identification of clinically relevant staphylococci by matrix-assisted laser desorption ionization-time of flight mass spectrometry. *J Clin Microbiol*. 50(12):3862-6. 2012.

231. Sasaki T, Tsubakishita S, Tanaka Y, Ohtsuka M, Hongo I, Fukata T, Kabeya H, Maruyama S, Hiramatsu K. Population genetic structures of *Staphylococcus aureus* isolates from cats and dogs in Japan. *J Clin Microbiol*. 2012 Jun;50(6):2152-5. 2012.

232. Yamakawa J, Aminaka M, Okuzumi K, Kobayashi H, Katayama Y, Kondo S, Nakamura A, Oguri T, Hori S, Cui L, Ito T, Jin J, Kurosawa H, Kaneko K, Hiramatsu K. Heterogeneously vancomycin-intermediate *Staphylococcus aureus* (hVISA) emerged before the clinical introduction of vancomycin in Japan: a retrospective study. *J Infect Chemother* 18:406-9. 2012.

<図書>

1. 奈良武司. 原虫症および寄生虫症. 臨床微生物検査ハンドブック第5版. 三輪書店 (印刷中) 2017.
2. Nakayama H, Iwabuchi K. Molecular mechanisms underlying the immunological activities of glycosphingolipid-enriched lipid rafts in phagocytes. Reference Modules entitled Chemistry, Molecular Sciences and Chemical Engineering. Elsevier in press 2017.
3. Croxford JL, Miyake S. Animal Models for the Study of Neuroimmunological Disease. *Neuroimmunological Diseases*. Kusunoki S ed. Springer, Japan, 33-54 (292 頁) 2016.
4. Nakayama H, Iwabuchi K. Glycosphingolipid-Receptor Interactions in the Innate Immune Responses. *Glycoscience: Biology and Medicine* Taniguchi N, Endo T, Hart GW, Seeberger PH, Wong CH. Springer Japan, 699-705 (1568 頁) 2015.
5. 美田敏宏. 特集未来への投資 マラリア撲滅へ「薬剤耐性マラリア拡大の解明と対策」. 国際人流. 入管協会 340. 12-6, 223-5. 2015.
6. Chiba A, Miyake S. Basic techniques for studies of iNKT cells and MAIT cells. *Arthritis Research Methods and Protocols*. Shiozawa S ed. Springer, London, 75-84. 2014.
7. 山田俊幸, 大戸斉, 渥美達也, 三宅幸子, 山内一由編 免疫系のしくみと働き 新版 臨床免疫学第3版. 南江堂 1-25 (340 頁) 2014.
8. 山田俊幸, 大戸斉, 渥美達也, 三宅幸子, 山内一由編 細胞表面分子とサイトカイン 新版 臨床免疫学第3版. 南江堂 1-25 (340 頁) 2014.
9. 奈良武司 監訳. Section 17 原虫および蠕虫感染症:概論、Part 8 感染症 ハリソン内科学第5版 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1416(3132 頁) 2017.
10. 奈良武司 監訳. Section 18 原虫感染症、Part 8 感染症 ハリソン内科学第5版 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1417-1463(3132 頁) 2017.
11. 奈良武司 監訳. Section 19 蠕虫感染症、Part 8 感染症 ハリソン内科学第5版 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1464-1490(3132 頁) 2017.
12. 奈良武司 監訳. 245e: 寄生虫感染症の診断、246e: 寄生虫感染症の治療薬、250e: マラリアおよび *Babesia* 感染症の血液塗抹アトラス、255e: 蠕虫感染総論、Section 17 原虫および蠕虫感染症:概論、Part 8 感染症 ハリソン内科学第5版 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、e チャプター(3132 頁) 2017.
13. 奈良武司 監訳. 247: アメーバ症および自由生活性アメーバ感染症、248: マラリア、249: *Babesia*

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- 感染症、251:リーシュマニア症、252:Chagas 病およびアフリカトリパノソーマ症、254:腸管寄生原虫感染症とトリコモナス症、259:住血吸虫症およびその他の吸虫感染症、260:条虫感染症、Section 17 原虫および蠕虫感染症:概論、Part 8 感染症 ハリソン内科学第5版 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1417-1463(3132 頁) 2017.
14. 奈良武司 監訳. 259:住血吸虫症およびその他の吸虫感染症、Section 19 蠕虫感染症、Part 8 感染症 ハリソン内科学第 5 版 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1478-1485(3132 頁) 2017.
 15. 奈良武司 監訳. 260:条虫感染症、Section 19 蠕虫感染症、Part 8 感染症 ハリソン内科学第 5 版 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1485-1490(3132 頁) 2017.
 16. 佐々木崇, 平松啓一. ブドウ球菌感染症 人獣共通感染症 改訂3版 木村哲、喜田宏編 医薬ジャーナル社 228-235 (550 頁) 2016.
 17. 奈良武司. シャーガス病(アメリカトリパノソーマ症). 人獣共通感染症 改訂3版 医薬ジャーナル社、大阪、416-419(552 頁) 2016.
 18. 山本典生. 今後出現が予想される新型インフルエンザウイルスは? 内科 南江堂 116(6), 1087-1090(362 頁) 2015.
 19. 鈴木香, 長岡功. Cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチド LL-37 によるエンドトキシン除去作用. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡功, 谷徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 1-6(100 頁) 2015.
 20. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. ピロトーシスに対する抗菌ペプチドLL-37 の作用. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡功, 谷徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 86-88(100 頁) 2015.
 21. 多田浩之, 松下健二, 松山考司, 長岡功, 高田春比古. Porphyromonas gingivalis ジンジパインによるヒト歯肉上皮細胞の IL-33 誘導を介した CAP18/LL-37 ダウンレギュレーション機構. エンドトキシン・自然免疫研究 18 -自然免疫における生体防御ペプチドの多様性. 長岡功, 谷徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 93-97(100 頁) 2015.
 22. 森田芙路子, 上原由紀. 予防抗微生物薬 血液腫瘍領域の感染症 原田壮平編, 最新医学社 175-186 (243 頁) 2015.
 23. 美田敏宏. 旅行者下痢症とその対策. 改訂版アジア旅行者のための感染症対策. 改訂第 1 版. 連合出版社. 29-57. (223 頁) 2015.
 24. 奈良武司. トリパノソーマ症. 別冊骨格筋症候群(第 2 版)、上巻 日本臨牀、日本臨牀社、大阪、276-280(467 頁) 2015.
 25. 美田敏宏. 肺寄生虫症. EBM を活かす呼吸器診療. 高橋和久, 児玉裕三. メジカルビュー社 223-5 (541 頁) 2015.
 26. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージ系細胞のピロトーシスの制御. エンドトキシン・自然免疫研究 17 -エンドトキシン・自然免疫の展開:新しい機序、診断、応用. 谷徹, 横地高志 編集, 医学図書出版, 東京, 73-75(105 頁) 2014.
 27. 上原由紀. バンコマイシンとテイコプラニン “実践的”抗菌薬の選び方・使い方 細川直登編, 医学書院 163-169 (221 頁) 2014.
 28. 上原由紀. 胆道感染症 ワンランク上の検査値の読み方・考え方-ルーチン検査から病態変化を見抜く- 本田孝行編, 医学書院 148-153(368 頁) 2014.
 29. 美田敏宏. マラリア/バベシア. 今日の治療指針2014. 医学書院 東京、256-7, (1900 頁) 2014.
 30. 山本典生, 田代真人. 新型インフルエンザ予防接種 Q&A 小児内科 東京医学社 45, 549-551 2013.
 31. 上原由紀. 企画にあたって 臨床感染症ブックレット 8 巻 感染症の予防や制御に必要なことを実践する. 上原由紀, 前崎繁文, 大曲貴夫編 文光堂 5(168 頁) 2013.
 32. 上原由紀. 感染経路別予防策(3)-接触感染予防策- 臨床感染症ブックレット 8 巻 感染症の予防や制御に必要なことを実践する. 上原由紀, 前崎繁文, 大曲貴夫編 文光堂 20-26(168 頁) 2013.
 33. 上原由紀. 感染対策の効果を判定するには? 臨床感染症ブックレット 8 巻 感染症の予防や

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

制御に必要なことを実践する. 上原由紀, 前崎繁文, 大曲貴夫編 文光堂 161-163(168 頁) 2013.

34. 橋本宗明, 奈良武司. トリパノソーマ症. 別冊感染症症候群(第 2 版)、上巻 日本臨牀. 日本臨牀社、大阪、650-653(812 頁) 2013.

35. 美田敏宏, 北潔. 検査値を読む: 寄生虫卵・虫体検査. 内科 111: 1049, 2013 南山堂 2013.

36. 山本典生, 田代真人. 細胞培養インフルエンザワクチン Bio Clinica 北隆館 28: 41-45 2013.

37. 奈良武司 監訳. Section 17 原虫および蠕虫感染症: 概論, Part 8 感染症 ハリソン内科学第 4 版(原著第 18 版) 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1465-1470(3376 頁) 2013.

38. 奈良武司 監訳. Section 18 原虫感染症、Part 8 感染症 ハリソン内科学第 4 版(原著第 18 版) 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1471-1515(3376 頁) 2013.

39. 奈良武司 監訳. Section 19 蠕虫感染症、Part 8 感染症 ハリソン内科学第 4 版(原著第 18 版) 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1516-1542(3376 頁) 2013.

40. 奈良武司 訳. e25: 寄生虫感染症の診断検査、e26: 寄生虫感染症治療薬の薬理学、Section 17 原虫および蠕虫感染症: 概論, Part 8 感染症 ハリソン内科学第 4 版(原著第 18 版) 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、e チャプター(3376 頁) 2013.

41. 奈良武司 訳. 208: 寄生虫感染症の治療薬、Section 17 原虫および蠕虫感染症: 概論, Part 8 感染症 ハリソン内科学第 4 版(原著第 18 版) 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1465-1542(3376 頁) 2013.

42. 奈良武司 訳. 209: アメーバ症および自由生活性アメーバ感染症、210: マラリア、211: Babesia 症、212: Leishmania 症、213: Chagas 病および Trypanosoma 症、215: 腸管寄生原虫感染症と Trichomonas 症、Section 18: 原虫感染症、Part 8 感染症 ハリソン内科学第 4 版(原著第 18 版) 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1471-1515(3376 頁) 2013.

43. 奈良武司 訳. e27: マラリアおよび Babesia 症の血液塗抹アトラス、Section 18: 原虫感染症、Part 8 感染症 ハリソン内科学第 4 版(原著第 18 版) 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、e チャプター(3376 頁) 2013.

44. 奈良武司 訳. 219: 住血吸虫症およびその他の吸虫感染症、220: 条虫感染症、Section 19: 蠕虫感染症、Part 8 感染症 ハリソン内科学第 4 版(原著第 18 版) 福井次矢、黒川清監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル、東京、1530-1542(3376 頁) 2013.

45. 奈良武司. ヌクレオチド代謝. 岩波生物学辞典第 5 版 巖佐庸、倉谷滋、斎藤成也、塚谷裕一編、岩波書店、東京(2192 頁) 2013.

46. 山本典生. 細胞培養法による新型インフルエンザワクチン製造におけるバイオセーフティと GMP クリーンテクノロジー 日本工業出版 22:1-5. 2012.

47. 上原由紀. 白血球 感度と特異度からひもとく感染症診療の Decision Making 細川直登編, 文光堂 16-20(368 頁) 2012.

48. 渡辺純夫, 永原章仁, 北條麻理子. 消化管疾患 診療マニュアル 日本医学館(692 頁) 2014.

49. 仁科隆史, 中野裕康. 実験医学増刊号「活性酸素・ガス状分子による恒常性制御と疾患」山本雅之監修, 赤池孝章, 一條秀憲, 森泰生編 羊土社, 123-129(219 頁) 2012.

50. 大塚宜一, 清水俊明. 周産期診療ワークブック. 日本周産期, 新生児医学会教育, 研修委員会(編) メジカルビュー社, 東京. 359-361(461 頁) 2012.

51. 平松啓一. 標準微生物学 第 11 版. 平松啓一(監修), 中込治(編集), 神谷茂(編集), 医学書院(688 頁) 2012.

<学会発表>

1. 佐々木崇. 皮膚科臨床への微生物学的貢献 ~抗菌薬からマイクロバイオームまで~ 第 20 回 日本獣医皮膚科学会学術大会・総会. 2017 年 3 月(埼玉) 招聘講演
2. 馬場理, 杉山遙夏, 佐々木崇, 森本ゆふ, 平松啓一. Did reverse antibiotics affect bacterial

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- differentiation? 第 90 回日本細菌学会総会 2017 年 3 月 (仙台)
3. 村上泰介, 鈴木香, 長岡功. Involvement of Mas-related genes X2 in the internalization of LL-37 into mast cells. 第 90 回日本細菌学会総会 2017 年 3 月 (仙台)
 4. 杉山遙夏, 馬場理, 平松啓一. Quinolone resistance of human nasal and oral bacteria. 第 90 回日本細菌学会総会 2017 年 3 月 (仙台)
 5. 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. ヒト抗菌ペプチド LL-37 は血管内皮細胞にオートファジーを誘導する. 第 90 回日本細菌学会総会 2017 年 3 月 (仙台)
 6. 佐々木崇, 桑原京子, 呂宇傑, 石川大, 中島章人, 平松啓一. 実験動物マウスと健常人における Bacteroidales 腸内細菌叢比較. 第 90 回日本細菌学会総会 2017 年 3 月 (宮城)
 7. 森本ゆふ, 馬場理, 松田真理, 平松啓一. 復帰抗生物質 Nybomycin はキノロン耐性 E. faecalis に抗菌活性を示す. 第 90 回日本細菌学会総会 2017 年 3 月 (仙台)
 8. Mita T, Ikeda M, Kaneko M, Balikagala B, Tachibana S, Sakurai-Yatsushiro M, Yatsushiro S, Takahashi N, Hashimoto M, Katuru O, Olia A, Obwoya P, Auma M, Anywar D, Odongo-Aginya E, Hirai M, Palacpac N, Kataoka M, Tsuboi T, Kimura E, Horii T. Detection of artemisinin-resistant Plasmodium falciparum isolates with ex-vivo ring-stage survival assay in Uganda. Keystone Symposia. 2017 年 2 月 (Kampala, Uganda)
 9. *T Baba. Possible Agent for MDR Gonorrhoeae – Reverse Antibiotics for N. Gonorrhoeae. 19th International Union against Sexually Transmitted Infections Asia –Pacific Conference. 2016 年 12 月 (岡山) 招聘講演
 10. 前田佑一郎, 長谷川敏男, 和田章乃, 深井達夫, 坂本淳, 池田志孝. Differentiation potential of adipose-derived stromal/stem cells into keratinocytes. 日本研究皮膚科学会第 41 回年次学術大会・総会. 2016 年 12 月 (仙台)
 11. Asanuma H, Tateishi K, Hasegawa H, Maeyama J, Iho S, Yamamoto S, Fujihashi K, Yamamoto N. Effectiveness of A Novel Nasal Influenza Vaccine Consist of HA VLP and CpG-ODN G9.1. 第 45 回日本免疫学会学術集会. 2016 年 12 月 (沖縄)
 12. Nakano N, Honjo A, Yamazaki S, Ohtsuka Y, Yagita H, Shimizu T, Okumura K, Ogawa H. Inhibition of Notch signaling suppresses food allergen-induced mucosal mast cell hyperplasia. 第 45 回日本免疫学会学術集会. 2016 年 12 月 (沖縄)
 13. Nomura A, Noto D, Murayama G, Chiba A, Miyake S. Innate immune response in the brain of lupus-prone FcyR II B-/-Yaa mice-implication to the mechanism of neuropsychiatric SLE. 第 45 回日本免疫学会学術集会. 2016 年 12 月 (沖縄)
 14. Kamei M, Chiba A, Takashi N, Haga K, Miyake S. MAIT cells exacerbate the disease course of oxazolone colitis. 第 45 回日本免疫学会学術集会. 2016 年 12 月 (沖縄)
 15. Matsuoka S, Ishii Y, Yagita H. Non-apoptotic, non-necrotic novel cell death (Anapocosis) of lymphoma cells induced by therapeutic mAbs. 第 45 回日本免疫学会学術集会. 2016 年 12 月 (沖縄)
 16. Toda H, Murayama G, Chiba A, Miyake S. Protective role of mucosal-associated invariant T Cells in an imiquimod-induced psoriasis model. 第 45 回日本免疫学会学術集会. 2016 年 12 月 (沖縄)
 17. Murayama G, Chiba A, Amano H, Yamaji K, Tamura N, Miyake S. Role of Mucosal-associated Invariant T(MAIT) Cells In Lupus Dermatitis. 第 45 回日本免疫学会学術集会. 2016 年 12 月 (沖縄)
 18. Isshiki T, Akiba H, Nakayama M, Harada N, Okumura K, Miyake S. TIM-3 regulates pulmonary fibrosis through apoptotic cell clearance. 第 45 回日本免疫学会学術集会. 2016 年 12 月 (沖縄)
 19. Chiba A, Murayama G, Kitagaichi M, Tamura N, Yamaji K, Takasaki Y, Miyake S. Activation Status of Mucosal-Associated Invariant T Cells Sensitively Reflects Disease Activity of Systemic Lupus Erythematosus. 2016 ACR/ARHP Annual Meeting. 2016 年 11 月 (Washington, DC, USA)
 20. Murayama G, Chiba A, Toda H, Yamaji K, Tamura N, Miyake S. Protective Role of Mucosal-Associated Invariant T(MAIT) Cells in an Imiquimod-Induced Psoriasis Model. 2016 ACR/ARHP Annual Meeting. 2016 年 11 月 (Washington, DC, USA)
 21. Murayama G, Chiba A, Amano H, Yamaji K, Tamura N, Miyake S. The Role of Mucosal-Associated

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- Invariant T(MAIT) Cells in Lupus Dermatitis. 2016 ACR/ARHP Annual Meeting. 2016 年 11 月 (Washington, DC, USA)
22. 岩渕和久. ラクトシルセラミドと微生物の糖-糖相互作用を介したヒト好中球による貪食と結核菌による殺菌回避の分子機構. Glyco Tokyo 2016. 2016 年 11 月 (東京) 招聘講演
 23. Ruzicka D, Imai K, Takahashi K, Naito T. Prevalence of chronic disease comorbidities and treatments in Japanese HIV infected adults between 2010 and 2016- a cross sectional study. The 30th Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research. 2016 年 11 月 (鹿児島)
 24. 三宅幸子. リウマチの治療薬を理解するための免疫学. 第 1 回自己免疫セミナー. 2016 年 11 月 (東京) 招聘講演
 25. 前田佑一郎, 長谷川敏男, 和田章乃, 池田志孝. Differentiation potential of adipose-derived stem cells into keratinocytes. 第 30 回表皮細胞研究会. 2016 年 11 月 (青森)
 26. Uehara Y, Sasaki T, Tande A, Greenwood-Quaintance K, Perez K, Hiramatsu K, Patel R. Identification of mutations in Staphylococcus epidermidis small colony variants associated with prosthetic joint infection by direct whole genome sequencing from colonies. IDweek 2016. 2016 年 10 月 (New Orleans, USA)
 27. Ebata-Murayama G, Chiba A, Amano H, Yamaji K, Tamura N, Miyake S. Role of Mucosal-associated Invariant T (MAIT) Cells In Lupus Dermatitis. The 13th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity. 2016 年 10 月 (京都)
 28. Miyake S. Gut microbiota and autoimmunity. The 13th International Workshop on Autoantibodies and Autoimmunity. 2016 年 10 月 (京都) 招聘講演
 29. 馬場理, 佐々木崇, 森本ゆふ, 杉山遙夏, 平松啓一. 環境中のキノロン自然耐性/感受性菌についての考察. 第 31 回日本微生物生態学会総会. 2016 年 10 月 (横須賀)
 30. 山本典生, 立石恒一郎, 長谷川秀樹, 前山順一, 伊保澄子, 山本三郎, 藤橋浩太郎, 浅沼秀樹. CpG-ODN G9.1 併用経鼻インフルエンザ VLP ワクチンの有効性に関する検討. 第 20 回日本ワクチン学会学術集会. 2016 年 10 月 (東京)
 31. 浅沼秀樹, 立石恒一郎, 山本典生, 佐藤佳代子, 長谷川秀樹, 前山順一, 伊保澄子, 山本三郎, 藤橋浩太郎, 小田切孝人. 新規粘膜アジュバントとしての CpG-ODN G9.1 の経鼻インフルエンザワクチンへの応用. 第 20 回日本ワクチン学会学術集会. 2016 年 10 月 (東京)
 32. 三宅幸子. 免疫応答を制御する免疫システムと免疫療法への応用. 第 23 回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム. 2016 年 10 月 (石川) 招聘講演
 33. 横山紀子, 石井久美子, 小林俊秀, 加藤幸成, 井ノ口仁一, 岩渕和久. 抗体や毒素を用いたスフィンゴ糖脂質の脂質マイクロドメインの構造と機能解析について. 第 9 回セラミド研究会. 2016 年 10 月 (東京)
 34. 中山仁志, 横山紀子, 岩渕和久. 結核菌による LacCer を介した食胞成熟回避機構について. 第 9 回セラミド研究会. 2016 年 10 月 (東京)
 35. Hu Z, Suzuki K, Murakami T, Reich J, Tamura H, Nagaoka I. Neutrophil extracellular traps (NETs) induces the IL-1 β production by macrophages in combination with lipopolysaccharide. 14th Biennial Meeting International Endotoxin and Innate Immunity Society. 2016 年 9 月 (Hamburg, Germany)
 36. Suzuki K, Murakami T, Nagaoka I. The mechanism for a cathelicidin peptide LL-37-mediated LPS uptake by liver sinusoidal endothelial cells. 14th Biennial Meeting International Endotoxin and Innate Immunity Society. 2016 年 9 月 (Hamburg, Germany)
 37. Iwabuchi K, Nakayama H. Lactosylceramide is a key player in immunological functions of human neutrophils. Cell Symposium: 100 year of Phagocytes. Cell Symposium: 100 year of Phagocytes. 2016 年 9 月 (Sicily, Italy)
 38. Tsuji R, Suzuki H, Fujii T, Yamamoto N, Yamamoto N. Inhibitory effects of Lactococcus lactis JCM5805 against DENV proliferation via the increase of interferon stimulatory genes expression in vitro. International Congress for Tropical Medicine and Malaria. 2016 年 9 月 (Brisbane, Australia)
 39. Nakayama H, Yokoyama N and Iwabuchi K. Human neutrophils phagocytose mycobacteria

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- through interactions between LacCer and α ,2-monomannose side. The Society For Leukocyte Biology's 49th Annual Meeting and "Neutrophil 2016", 2016 年 9 月 (Verona, Italy)
40. Iwabuchi K, Ishii K, Yokoyama N, Nakayama H. Organization and immunological functions of Lactosylceramide-enriched lipid rafts. The Society For Leukocyte Biology's 49th Annual Meeting and "Neutrophil 2016". 2016 年 9 月 (Verona, Italy)
 41. 福島真一, 乾啓洋, 堀賢, 内藤俊夫. 高齢化社会において HIV 患者の医療費に影響を及ぼす因子の解析. 第 13 回日本病院総合診療医学会学術総会. 2016 年 9 月 (東京)
 42. 片山由紀. 「難治性 MRSA 感染症の克服」第 17 回 Pharmaco-Hematology シンポジウム. 2016 年 9 月 (東京) 招聘講演
 43. 中南秀将, 伊藤輝代, 韓笑, 伊藤歩, 松尾美記, 上原由紀, 平松啓一, 野口雅久. sasX を保有する黄色ブドウ球菌の新規ゲノムアイランドの解析. 第 28 回微生物シンポジウム. 2016 年 9 月 (愛知)
 44. 岩渕和久, 中山仁志, 横山紀子, 石井久美子. 結核菌による LacCer を利用したヒト好中球の食胞成熟回避機構について. 第 35 回日本糖質学会年会. 2016 年 9 月 (高知)
 45. 村山豪, 千葉麻子, 山路健, 田村直人, 三宅幸子. ループモデルにおける MAIT 細胞に関する解析. 第 44 回日本臨床免疫学会総会. 2016 年 9 月 (東京)
 46. 三宅幸子. 炎症性疾患と MAIT 細胞. 第 44 回日本臨床免疫学会総会. 2016 年 9 月 (東京) 招聘講演
 47. 岩渕和久. 好中球の細胞膜ダイナミクスと生体防御機構. 第 60 回日本医真菌研究会. 2016 年 9 月 (東京) 招聘講演
 48. 中山仁志, 横山紀子, 石井久美子, 鹿毛まどか, 栗原秀剛, 岩渕和久. ヒト好中球における LPS 依存性の貪食は LacCer の脂質ラフトに会合した CD14 だけが関与する. 第 89 回日本生化学会年会. 2016 年 9 月 (仙台)
 49. Mori M, Uehara Y, Sasaki T, Kikuchi K, Hiramatsu K. Accumulation of mutations associated with decreased vancomycin susceptibility on methicillin-resistant Staphylococcus aureus strains isolated from a patient during vancomycin treatment. 17th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infection (ISSSI) 2016 年 8 月 (Seoul, Korea)
 50. Hiramatsu M, Matsuo M, Sasaki T, Morimoto Y, Hishinuma T, Hiramatsu K. Genetic determinant involved in fluoroquinolone tolerance in Staphylococcus aureus. 17th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infection (ISSSI) 2016 年 8 月 (Seoul, Korea)
 51. Matsuo M, Hiramatsu K. Identification of a novel gene involved in high-level beta-lactam resistance in Staphylococcus aureus. 17th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infection (ISSSI) 2016 年 8 月 (Seoul, Korea)
 52. Zuo H, Uehara Y, Hiramatsu K. Molecular epidemiology of methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) among Japanese inpatient isolates from the 1980s. 17th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infection (ISSSI) 2016 年 8 月 (Seoul, Korea)
 53. Katayama Y. Potential Pitfall in Vancomycin Therapy against MRSA infection by slow-VISA. 17th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infection (ISSSI) 2016 年 8 月 (Seoul, Korea) 招聘講演
 54. 片山由紀, 畦地拓哉, 宮崎元康, 高田徹, 相羽由詞, 関根美和, 花木秀明. MRSA 感染症の再燃と致死性の関与が推測される新規表現型の MRSA "slow-VISA" の検出. MRSA フォーラム 2016. 2016 年 7 月 (岐阜)
 55. 三宅幸子. 腸管での免疫調節と炎症性疾患. 第 34 回日本骨代謝学会学術集会/第 3 回アジア太平洋骨代謝学会議. 2016 年 7 月 (大阪) 招聘講演
 56. 岩渕和久, 中山仁志, 横山紀子, 石井久美子. 結核菌がヒト好中球による殺菌を回避する機構について. 第 9 回スフィンゴテラピー研究会. 2016 年 7 月 (金沢)
 57. Chiba A, Tamura N, Yoshikiyo K, Murayama G, Kitagaichi M, Yamaji K, Takasaki Y, Miyake S. Activation Status of Mucosal-Associated Invariant T Cells Reflects Disease Activity of Systemic Lupus Erythematosus. 16th Annual Meeting of the Federation of Clinical Immunology Societies (FOCIS 2016) 2016 年 6 月 (Boston, USA)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

58. Kadowaki A, Saga R, Miyake S, Yamamura T. Gut Intraepithelial Autoreactive CD4+T Cells Influenced by Environment Suppress Central Nervous System Autoimmunity Via LAG-3. 16th Annual Meeting of the Federation of Clinical Immunology Societies (FOCIS 2016) 2016年6月 (Boston, USA)
59. Saika R, Sakuma H, Noto D, Yamaguchi S, Yamamura T, Miyake S. MicroRNA-101a Regulates Microglial Development and Inflammation. 16th Annual Meeting of the Federation of Clinical Immunology Societies (FOCIS 2016) 2016年6月 (Boston, USA)
60. Katayama Y. The Mechanism of Resistance to Vancomycin in slow-VISA Possibly Responsible for Recurrent MRSA Infection. ASM Microbe 2016 (ASM 2016 / ICAAC 2016) - American Society For Microbiology. 2016年6月 ((Boston, USA)
61. 三宅幸子. 自己免疫疾患と腸内細菌. 第20回腸内細菌学会. 2016年6月 (東京) 招聘講演
62. 畦地拓哉, 片山由紀, 松尾美記, 宮崎元康, 高田徹, 相羽由詞, 花木秀明. MRSA 感染症再燃の関与が推測される slow-VISA の臨床分離株からの検出. 第64回日本化学療法学会総会. 2016年6月 (神戸)
63. 片山由紀, 相羽由詞, 関根美和, 松尾美記, 菱沼知美, 平松啓一. The Mechanism of Resistance to Vancomycin in 'slow-VISA Possibly Responsible for Recurrent MRSA Infection. 第64回日本化学療法学会総会. 2016年6月 (神戸)
64. 松尾美記, 相羽由詞, 片山由紀, 平松啓一. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)におけるβラクタム薬高度耐性に関与する因子の網羅的同定. 第64回日本化学療法学会総会. 2016年6月 (神戸)
65. Iwabuchi K, Nakayama H. Role of Lactosylceramide-enriched lipid rafts in innate immune response of human phagocytes. 1st Japan-Korea Lipid Biology Joint Meeting. 2016年5月 (Cheju Island, Korea)
66. 美田敏宏. 細胞チップを応用した超高感度マリアラ診断装置の開発. 先端医療振興財団・臨床研究情報センター. 2016年5月 (神戸) 招聘講演
67. 門脇淳, 三宅幸子, 佐賀亮子, 千葉麻子, 望月秀樹, 山村隆. Gut intraepithelial myelin responsive CD4+T cells suppress CNS autoimmunity via LAG-3. 第57回日本神経学会学術大会. 2016年5月 (兵庫)
68. 能登大介, 佐藤和貴郎, 荒木学, 三宅幸子, 林幼偉, 岡本智子, 村田美穂, 山村隆. Investigator-Initiated Clinical Trial(first-in-human,Phase I)of invariant NKT cell ligand OCH. 第57回日本神経学会学術大会. 2016年5月 (兵庫)
69. 雑賀玲子, 佐久間啓, 能登大介, 佐賀亮子, 山口修平, 山村隆, 三宅幸子. MicroRNA-101a regulates microglial morphology and phenotype. 第57回日本神経学会学術大会. 2016年5月 (兵庫)
70. 三宅幸子. 多発性硬化症における腸内細菌叢解析. 第57回日本神経学会学術大会. 2016年5月 (兵庫) 招聘講演
71. 池口亮太郎, 佐藤和貴郎, 岡本智子, 村田美穂, 清水優子, 北川一夫, 山村隆, 三宅幸子. 慢性炎症性脱髄性多発神経炎における自然リンパ球に関する研究. 第57回日本神経学会学術大会. 2016年5月 (兵庫)
72. 林絵利, 三宅幸子. 他5名. 強直性脊椎炎におけるMAIT細胞の解析. 第113回日本内科学会総会・講演会. 2016年4月 (東京)
73. 千葉麻子, 田村直人, 村山豪, 北垣内みえ, 山路健, 高崎芳成, 三宅幸子. MAIT細胞の活性化状態は全身性エリテマトーデスの疾患活動性と病態を反映している. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016年4月 (神奈川)
74. 三宅幸子. リウマチ医のための免疫学ABC. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016年4月 (神奈川) 招聘講演
75. 村川洋子, 村島温子, 金子佳代子, 中川夏子, 船久保ゆう, 中島亜矢子, 阿部麻美, 窪田綾子, 河野肇, 三輪裕介, 住田孝之, 原岡ひとみ, 三宅幸子, 宮前多佳子. 日本リウマチ学会男女共同参画委員会の取り組み-男女共同参画に関するアンケート結果についてII. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2016年4月 (神奈川)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

76. 畦地拓哉, 片山由紀, 松尾美記, 高田徹, 花木秀明. 臨床分離株における難治性 MRSA 感染症再燃に寄与する slow-VISA(バンコマイシン中間耐性黄色ブドウ球菌)の検出. 第 90 回日本感染症学会総会・学術講演会. 2016 年 4 月 (仙台)
77. 橋本宗明, 戸井基道, 呉林一広なごみ, 古川功治, 茂木一平 訳 浩子, 近江谷克裕, 櫻井隆, 美田敏宏, 御子柴克彦, 奈良武司. Inositol 1,4,5-trisphosphate receptor determines intracellular Ca²⁺ concentration in Trypanosoma cruzi throughout its life cycle. 第 85 回日本寄生虫学会大会. 2016 年 3 月 (宮崎)
78. 池田美恵, 金子恵, 橋真一郎, Mawagali Betty Balikagala, 櫻井美樹, 八代聖基, 橋本宗明, Alex Olia, Anywar Dennis, Auma Mary, Palacpac Nirianne MQ, 平井誠, 片岡正俊, 木村英作, Aginya Emmanuel, 坪井敬文, 堀井俊宏, 美田敏宏. アフリカ大陸におけるアルテミシニン耐性マラリアの出現. 第 85 回日本寄生虫学会大会. 2016 年 3 月 (宮崎)
79. 奈良武司, 平訳浩子, 角田宗一郎, 細谷英里奈, 三井颯太, 美田敏宏. クルーズトリパノソーマに「休眠現象」は存在するのか? 第 85 回日本寄生虫学会大会. 2016 年 3 月 (宮崎)
80. 平井誠, 池田美恵, 橋真一郎, 美田敏宏. ミューテーターマラリア原虫ライブラリーから薬剤耐性原虫の単離. 第 85 回日本寄生虫学会大会. 2016 年 3 月 (宮崎)
81. 橋真一郎, 平井誠, 美田敏宏. 全世界の熱帯熱マラリア原虫株を用いたアルテミシニン耐性進化の集団遺伝学的解析. 第 85 回日本寄生虫学会大会. 2016 年 3 月 (宮崎)
82. 高宮信三郎, 橋本宗明, 山崎浩, 美田敏宏. 分泌型シトクロム b の寄生線虫類における分布. 第 85 回日本寄生虫学会大会. 2016 年 3 月 (宮崎)
83. 佐々木崇, 呂宇傑, 平松啓一. CRISPR 領域の配列解析による SCCmec type V の進化的伝播経路の探索. 第 89 回日本細菌学会総会. 2016 年 3 月 (大阪)
84. Baba T, T Sasaki, Y Morimoto K Hiramatsu. On environmental quinolone-resistant bacteria. 第 89 回日本細菌学会総会. 2016 年 3 月 (大阪)
85. 細田浩司, 中村果歩, 胡忠双, 李燕, 田村弘志, 長岡功. 抗菌ペプチド LL-37 は NET 形成を増加させマウス CLP 敗血症モデルの生存期間を延長する. 第 89 回日本細菌学会総会. 2016 年 3 月 (大阪)
86. 呂宇傑, 佐々木崇, 桑原京子, 平松啓一. 次世代シーケンサーを用いたブドウ球菌属特異的細菌叢解析法の構築. 第 89 回日本細菌学会総会. 2016 年 3 月 (大阪)
87. 松尾美記, 平松啓一. 黄色ブドウ球菌の β ラクタム薬高度耐性化に関与する新規遺伝子の同定. 第 89 回日本細菌学会総会. 2016 年 3 月 (大阪)
88. 美田敏宏. 細胞チップを応用した超高感度マラリア診断装置の開発. 革新的医療技術創出拠点プロジェクト. プロジェクト連携シンポジウム(医療機器) 2016 年 1 月 (東京) 招聘講演
89. 三宅幸子. よくわかる免疫学. 第 12 回 MS NMO フォーラム. 2015 年 12 月 (東京) 招聘講演
90. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. NETs (neutrophil extracellular traps) induces the the IL-1b production by macrophages. 第 21 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会. 2015 年 12 月 (東京)
91. 三宅幸子. 免疫の基礎と最近のトピックス～腸内環境と免疫～ 第 2 回 Ichinomiya RA Network Seminar. 2015 年 12 月 (愛知) 招聘講演
92. 松尾美記, 菱沼知美, 片山由紀, 平松啓一. A mutation of RNA polymerase β subunit (RpoC) converts heterogeneously vancomycin-intermediate Staphylococcus aureus (hVISA) into “slow-VISA” (sVISA) 第 38 回日本分子生物学会・第 88 回日本生化学大会合同大会. 2015 年 12 月 (神戸)
93. 松尾美記, 菱沼知美, 片山由紀, 平松啓一. RNA ポリメラーゼ β サブユニット(RpoC)の変異は heterogeneously Vancomycin-Intermediate Staphylococcus aureus (hVISA) から “slow VISA” へ変換する. 第 38 回日本分子生物学会・第 88 回日本生化学大会合同大会. 2015 年 12 月 (神戸)
94. 胡忠双, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. マクロファージ系細胞における IL-1 β 産生に対する NETs (neutrophil extracellular traps)の作用. 第 38 回日本分子生物学会・第 88 回日本生化学大会合同大会. 2015 年 12 月 (神戸)
95. 中山仁志, 横山紀子, 栗原秀剛, 岩淵和久. ラクトシルセラミドの脂質マイクロドメインはヒト好中球における LPS 誘導性炎症応答を仲介する. 第 38 回日本分子生物学会・第 88 回日本生化学大会合同大会. 2015 年 12 月 (神戸)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

96. 三宅幸子. 多発性硬化症と腸管免疫. 第 38 回日本分子生物学会・第 88 回日本生化学大会合同大会. 2015 年 12 月 (兵庫) 招聘講演
97. 村手源英, 阿部充宏, 笠原浩二, 岩渕和久, 梅田真郷, 小林俊秀. 細胞膜の脂質二重層を校正する各種の脂質が示す非対称分布とその破綻. 第 38 回日本分子生物学会・第 88 回日本生化学大会合同大会. 2015 年 12 月 (神戸) 招聘講演
98. 美田敏宏. ウガンダにおけるマラリア対策を見据えた包括的熱帯熱マラリア薬剤耐性研究. 第 56 回日本熱帯医学会大会. 2015 年 12 月 (大阪)
99. 美田敏宏. 臨床医から熱帯医学への転身:薬が効かないマラリアをどう制圧するか. 肝細胞研究ジャーナルクラブ 第 110 回記念特別講演会. 2015 年 12 月 (東京) 招聘講演
100. Murayama G, Chiba A, Tamura N, Yamaji K, Takasaki Y, Miyake S. Hyperactivated status of mucosal-associated invariant T cells due to activation potency of monocytes in systemic lupus. 2015 ACR/ARHP Annual Meeting. 2015 年 11 月 (San Francisco, USA)
101. Iwabuchi K. Role of Lactosylceramide-enriched lipid microdomains in innate immune response of human phagocytes. 7th Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology Conference. 2015 年 11 月 (Sendai, Japan)
102. Haga K, Chiba A, Shibuya T, Osada T, Ishikawa D, Kotani T, Nomura O, Watanabe S, Miyake S. MAIT cells are activated and accumulated in the mucosa of ulcerative colitis. CD1-MR1 2015. 2015 年 11 月 (Mantra Lorne, Australia.)
103. Sakaguchi K, Kawasaki A, Kamachi F, Chiba A, Akiba H, Shimizu T, Miyake S. Breast milk conditions intestinal immune system and gut barrier of the infant. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2015 年 11 月 (北海道)
104. Noto D, Araki M, Sato W, Lin Y, Miyake S, Yamamura T. First-in-Human phase 1 study of invariant NKT cell ligand OCH. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2015 年 11 月 (北海道)
105. Lin Y, Miyake S, Yamamura T. Hybrid Treg possessed high antigen-specificity and stabilized in under antigen stimulation. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2015 年 11 月 (北海道)
106. Chiba A, Murayama G, Tamura N, Takasaki Y, Miyake S. Hyperactivation of MAIT cells due to activation potency of lupus monocytes. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2015 年 11 月 (北海道)
107. Kamachi F, Isshiki T, Harada N, Akiba H, Miyake S. ICOS promotes group 2 innate lymphoid cell activation in lungs. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2015 年 11 月 (北海道)
108. Haga K, Chiba A, Miyake S. MAIT cells are activated and accumulated in the inflamed mucosa of ulcerative colitis. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2015 年 11 月 (北海道)
109. Saika R, Sakuma H, Noto D, Saga R, Yamamura T, Miyake S. MicroRNA-101a regulates microglial morphology and inflammation. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2015 年 11 月 (北海道)
110. Kadowaki A, Saga R, Sato W, Lin Y, Miyake S, Yamamura T. Regulation of CNS autoimmune diseases by the gut specific CD4+T cells. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2015 年 11 月 (北海道)
111. Nakajima A, Habu S, Miyake S. The effect of dietary fiber during pregnancy on Foxp3+tTregs of offspring. The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2015 年 11 月 (北海道)
112. *Kondo Y, Ohno T, Bhingare AC, Yagita H, Harada K, Azuma M. Combinational immune checkpoint blockade therapy with VISTA and CTLA-4 enhances anti-tumor responses. 日本免疫学会学術集会. 2015 年 11 月 (札幌)
113. 三宅幸子. 腸管在住リンパ球による免疫調節. 第 15 回難治性免疫疾患先端治療開発研究会. 2015 年 11 月 (東京) 招聘講演

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

114. 鈴木香, 村上泰介, 胡忠双, 長岡功. 肝類洞内皮細胞による血液浄化作用に対するヒト生体防御ペプチド LL-37 の効果. 第 2 回日本血管血流学会学術集会. 2015 年 11 月 (東京)
115. Motozono C, Tsuji-Kawahara S, Takamura S, Yagita H, Miyazawa M. Vaccine-elicited preferential induction of germinal center follicular helper T cells is associated with protection against retroviral infection. 第 44 回日本免疫学会学術集会. 2015 年 11 月 (札幌)
116. Suzuki H, Jounai K, Ohshio K, Fujii T, Yamamoto N, Fujiwara D. Oral administration of *L. lactis* JCM5805 enhances acquired immune responses against influenza virus antigen. 第 63 回日本ウイルス学会学術集会. 2015 年 11 月 (福岡)
117. Uehara Y, Sasaki T, Hiramatsu K, Kawada M, Furuichi M, Imajo E, Sato Y, Tanno S. Analysis of the regional endemic of ST834 community-associated methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* by conventional molecular epidemiology methods and whole genome sequencing methods. IDweek 2015. 2015 年 10 月 (San Diego, USA)
118. 馬場理, 森本ゆふ, 平松啓一. 植物由来フラボン類のアピジェニンがキノロン系薬剤に対する復帰抗生物質である. 第 98 回日本細菌学会関東支部総会・東京歯科大学. 2015 年 10 月 (東京)
119. 三宅幸子. 腸内細菌と自己免疫疾患. 日本大学大学院医学研究科特別講義. 2015 年 10 月 (東京) 招聘講演
120. 三宅幸子. 免疫の基礎と最近のトピックス～腸管免疫の話題. 第 15 回仙台 MS セミナー. 2015 年 10 月 (宮城) 招聘講演
121. 雑賀玲子, 佐久間啓, 能登大介, 佐賀亮子, 山口修平, 山村隆, 三宅幸子. miR-101a は MAPK phosphatase-1 を標的とし、ミクログリア様細胞の分化と活性化を調節する. 第 43 回日本臨床免疫学会総会. 2015 年 10 月 (兵庫)
122. 芳賀慶一, 千葉麻子, 澁谷智義, 長田太郎, 石川大, 小谷知弘, 渡辺純夫, 三宅幸子. 潰瘍性大腸炎における MAIT 細胞に関する検討. 第 43 回日本臨床免疫学会総会. 2015 年 10 月 (兵庫)
123. 三宅幸子. 腸内細菌叢と自己免疫. 第 43 回日本臨床免疫学会総会. 2015 年 10 月 (兵庫) 招聘講演
124. 門脇淳, 佐賀亮子, 佐藤和貴郎, 林幼偉, 三宅幸子, 山村隆. 腸管特異的 CD4⁺T 細胞による中枢神経炎症疾患の制御. 第 43 回日本臨床免疫学会総会. 2015 年 10 月 (兵庫)
125. 片山由紀, 菱沼知美, 松尾美記, 相羽由詞, 平松啓一. 難治性 MRSA 感染症の再燃に關与している slow-VISA (バンコマイシン中間耐性黄色ブドウ球菌) について. 第 64 回日本感染症学会東日本地方会総会学術集会 第 62 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同総会. 2015 年 10 月 (札幌)
126. 岩瀬和久, 中山仁志, 横山紀子, 石井久美子, 小林俊秀. ラクトシルセラミドの脂質マイクロドメインの構造と機能解析について. 第 8 回セラミド研究会. 2015 年 10 月 (札幌)
127. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. The role of NETs (neutrophil extracellular traps) in the IL-1 β production by macrophages. 第 98 回日本細菌学会関東支部総会. 2015 年 10 月 (東京)
128. 片山由紀, 菱沼知美, 松尾美記, 相羽由詞, 佐々木崇, 関根美和, 平松啓一. 新規 VISA 表現型の slow-VISA による難治性 MRSA 感染症の再燃について. 第 98 回日本細菌学会関東支部総会. 2015 年 10 月 (東京)
129. Suzuki K, Murakami T, Moribayashi T, Nagaoka I. A novel mechanism for the human host defense peptide LL-37-Induced mast cell degranulation. 48th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease. 2015 年 9 月 (Raleigh, USA)
130. Murakami T, Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. Mechanism for the lipopolysaccharide-induced release of high mobility group nucleosome-binding domain-1 from murine macrophage like RAW264.7. 48th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease. 2015 年 9 月 (Raleigh, USA)
131. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. NETs (neutrophil extracellular traps) induce IL-1 β production by macrophages in the presence of lipopolysaccharide. 48th Annual Meeting of the Society for Leukocyte Biology -Immunity in Health and Disease. 2015 年 9 月 (Raleigh, USA)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

132. Yamaguchi T, Ando R, Matsuo M, Hiramatsu K, Matsumoto T, Tateda K. Association between cell growth and vancomycin resistance in clinical *Staphylococcus aureus* strain. ICAAC/ICC 2015. 2015 年 9 月 (San Diego, USA)
133. 松尾美記, 菱沼知美, 片山由紀, 平松啓一. RNA ポリメラーゼ β サブユニット(RpoC)の変異による“slow VISA”耐性発現. 第 60 回日本ブドウ球菌研究会. 2015 年 9 月 (東京)
134. 片山由紀, 菱沼知美, 松尾美記, 相羽由詞, 佐々木崇, 関根美和, 平松啓一. 難治性 MRSA 感染症の克服. 第 60 回日本ブドウ球菌研究会. 2015 年 9 月 (東京)
135. 平松啓一. 企画講演「抗生物質が効かない？」第 75 回日本寄生虫学会東日本支部大会. 2015 年 9 月 (東京) 招聘講演
136. 三宅幸子. 腸管免疫と多発性硬化症. 第 13 回岩手県神経免疫疾患セミナー. 2015 年 9 月 (岩手) 招聘講演
137. 佐久間啓, 鈴木智典, 五十嵐鮎子, 神山邦子, 林雅晴, 三宅幸子. CD11b陽性細胞を除去した混合グリア培養におけるミクログリアの再増殖. 第 27 回日本神経免疫学会学術集会. 2015 年 9 月 (岐阜)
138. 雑賀玲子, 佐久間啓, 能登大介, 佐賀亮子, 山口修平, 山村隆, 三宅幸子. miR-101a はミクログリア様細胞の分化と M1M2 シフトを調節する. 第 27 回日本神経免疫学会学術集会. 2015 年 9 月 (岐阜)
139. 門脇淳, 佐賀亮子, 佐藤和貴郎, 林幼偉, 三宅幸子, 山村隆. 腸管特異的 CD4+T 細胞による中枢神経炎症性疾患の制御. 第 27 回日本神経免疫学会学術集会. 2015 年 9 月 (岐阜)
140. 片山由紀. 「難治性 MRSA 感染症の克服」第 60 回ブドウ球菌研究会. 2015 年 9 月 (東京) 招聘講演
141. 片山由紀, 相羽由詞, 関根美和, 松尾美記, 菱沼知美, 平松啓一. 難治性 MRSA 感染症の再燃に寄与する slow-VISA のバンコマイシン耐性化機構について. 第 89 回日本細菌学会総会. 2015 年 9 月 (大阪) 招聘講演
142. Mita T. Baseline polymorphisms of artemisinin-resistant marker, Pfk13-propeller, in geographically widespread *Plasmodium falciparum* parasite populations: genotyping of archive blood samples. Scientific Workshop to Explore e-ASIA Research Collaboration Opportunities Focused on Emerging Infectious Disease and Cancer Priorities in South East Asia and the Pacific Rim. 2015 年 8 月 (Yangon, Myanmar, Uganda) 招聘講演
143. Miyake S. Immunoregulation by gut environmental factors. The Inaugural Asia-Pacific School of Neuroimmunology Meeting. 2015 年 8 月 (東京) 招聘講演
144. 片山由紀. 「難治 MRSA 感染症の再燃と薬剤耐性化のメカニズムについて」腫瘍血液感染症内科主催セミナー. 2015 年 8 月 (福岡) 招聘講演
145. 三宅幸子. 腸管免疫と神経炎症. 千里ライフサイエンスセミナー. 2015 年 7 月 (大阪) 招聘講演
146. 千葉麻子, 三宅幸子. 11 カラーフローサイトメーターを用いたヒト末梢血単核球の解析. 第 25 回日本サイトメトリー学会学術集会. 2015 年 7 月 (東京)
147. 村上泰介, 田村弘志, 長岡功. LPS 刺激 RAW264.7 細胞からの HMGN1 の放出機序. 第 26 回日本生体防御学会学術総会. 2015 年 7 月 (東京)
148. Hu Z, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. The role of NETs (neutrophil extracellular traps) in the IL-1 β production by macrophages. 第 26 回日本生体防御学会学術総会. 2015 年 7 月 (東京)
149. 前田佑一郎, 長谷川敏男, 飯田秀雄, 坂本淳, 和田章乃, 池田志孝. 脂肪組織由来幹細胞による表皮再生医療の可能性. 第 33 回日本美容皮膚科学会総会・学術大会. 2015 年 7 月 (大阪)
150. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. NETs (Neutrophil extracellular traps) と LPS による共刺激がマクロファージからの IL-1 β 放出を誘導する. 第 62 回トキシシンポジウム. 2015 年 7 月 (志摩)
151. 鈴木香, 村上泰介, 長岡功. ヒト抗菌ペプチド LL-37 によるかゆみ誘発(マスト細胞の活性化). 第 62 回トキシシンポジウム. 2015 年 7 月 (志摩)
152. 細田浩司, 胡忠双, 田村弘志, 長岡功. 炎症増強因子 TREM-1 のリガンド同定の試み. 第 62 回トキシシンポジウム. 2015 年 7 月 (志摩)
153. Iwabuchi K, Nakayama H. Role of Lactosylceramide-enriched lipid rafts in innate immune

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- response of human phagocytes. 12th International Conference on Innate Immunity. 2015年6月 (Chania, Greece)
154. Kadowaki A, Miyake S, Saga R, Yamamura T. Gut Intraepithelial Autoimmune CD4+ T Cells Exhibit a Potential to Suppress Extraintestinal Autoimmunity in LAG-3 Dependent Manner. 15th Annual Meeting of the Federation of Clinical Immunology Societies (FOCIS 2015) 2015年6月 (San Diego, USA)
 155. Nakamura M, Hirakawa Y, Araki M, Lin Y, Sato W, Okamoto T, Murata M, Miyake S, Yamamura T. IL-6 Signal Blockade May Suppress Plasmablast-mediated Inflammation in Multiple Sclerosis Through Skewing its Differentiating Pathways. 15th Annual Meeting of the Federation of Clinical Immunology Societies (FOCIS 2015) 2015年6月 (San Diego, USA)
 156. Miyake S. Innate control of autoimmunity. NCNP Neuroimmunology International Symposium. 2015年6月 (東京) 招聘講演
 157. 平松啓一. 特別講演「化学療法の将来の在り方」第63回化学療法学会総会. 2015年6月 (東京)
 158. 田淵史晃, 松本靖彦, 石井雅樹, 松尾美記, 平松啓一, 龍野桂太, 岡崎充宏, 森屋恭爾, 関水 和久. 高度バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌に対してバンコマイシンとβ-ラクタム系抗生物質は相乗的に作用する. 第15回東京大学生命科学シンポジウム. 2015年6月 (東京)
 159. 片山由紀, 菱沼知美, 松尾美記, 相羽由詞, 佐々木崇, 関根美和, 平松啓一. なぜ難治性 MRSA 感染症は再燃するのか. 第16回 Pharmaco-Hematology シンポジウム. 2015年6月 (東京)
 160. 岩瀬和久, 中山仁志. ヒト好中球におけるCD14とラクトシルセラミドを介したLPSシグナリング. 第24回 内毒素・LPS研究会. 2015年6月 (東京) 招聘講演
 161. 片山由紀, 菱沼知美, 相羽由詞, 松尾美記, 平松啓一. Characterization of slow VISA Phenotype of Vancomycin Resistance in Staphylococcus aureus. 第63回日本化学療法学会総会. 2015年6月 (東京)
 162. Yuki Katayama, Tomomi Hishinuma, Yoshifumi Aiba, Miwa Sekine, Takashi Sasaki, Miki Matsuo and Keiichi Hiramatsu. Characterization of ‘slow VISA’ derived from hVISA Strain Mu3. 第63回日本化学療法学会総会. 2015年6月 (東京)
 163. 三宅幸子. 腸管免疫と自己免疫. 第6回東京千葉免疫研究会. 2015年6月 (千葉) 招聘講演
 164. Nakayama H, Yokoyama N, Iwabuchi K. Glycosphingolipid-mediated inflammation in human neutrophils. 第9回スフィンゴセラピー研究会. 2015年6月 (金沢)
 165. Uehara Y, Sasaki T, Hiramatsu K, Kawada M, Furuichi M, Imajo E, Sato Y, Tanno S. ST834 methicillin-resistant Staphylococcus aureus with a pathogenicity island similar to SaPIj50 among children in Saitama, Japan. (EI013) 10th International Symposium on Antimicrobial Agents and Resistance (ISAAR) 2015年5月 (Incheon, Korea)
 166. Iida H, Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, Ikeda S. Keratinocyte progenitor cells in human subcutaneous adipose tissue. The Society for Investigative Dermatology 2015 Annual Meeting. 2015年5月 (Atlanta, USA)
 167. 雑賀玲子, 佐久間啓, 能登大介, 山村隆, 三宅幸子. IL-34 induces differentiation of microglia-like cell from hematopoietic cells. 第56回日本神経学会学術大会. 2015年5月 (新潟)
 168. 林幼偉, 三宅幸子, 山村隆. Inverse vaccination for multiple sclerosis model by superior dominant peptide. 第56回日本神経学会学術大会. 2015年5月 (新潟)
 169. 中村雅一, 荒木学, 松岡貴子, 佐藤和貴郎, 林幼偉, 岡本智子, 村田美穂, 荒浪利昌, 三宅幸子, 山村隆. Mechanistic insight into IL-6 signal blockade therapy for multiple sclerosis. 第56回日本神経学会学術大会. 2015年5月 (新潟)
 170. 能登大介, 荒木学, 佐藤和貴郎, 林幼偉, 岡本智子, 村田美穂, 三宅幸子, 山村隆. 免疫修飾薬OCHの医師主導治験におけるバイオマーカー解析. 第56回日本神経学会学術大会. 2015年5月 (新潟)
 171. Miyake S. Immunological assessment for clinical trial of invariant NKT cell ligand. International

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- symposium, Annual meeting of Japanese colleges of Rheumatology. 2015 年 4 月 (愛知) 招聘講演
172. 林絵利, 千葉麻子, 北垣内みえ, 中嶋志穂子, 草生真規雄, 関谷文男, 多田久里守, 小笠原倫大, 山路健, 田村直人, 高崎芳成, 三宅幸子. MAIT 細胞の慢性炎症性関節炎における関与について. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2015 年 4 月 (愛知)
 173. 三宅幸子. リウマチ医のための免疫学 ABC. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2015 年 4 月 (愛知) 招聘講演
 174. 中嶋志穂子, 千葉麻子, 林絵利, 北垣内みえ, 草生真規雄, 今高之, 関谷文男, 小笠原倫大, 山路健, 田村直人, 高崎芳成, 三宅幸子. リウマチ性多発筋痛症における自然リンパ球. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2015 年 4 月 (愛知)
 175. 北垣内みえ, 千葉麻子, 中嶋志穂子, 林絵利, 山路健, 田村直人, 高崎芳成, 三宅幸子. 全身性エリテマトーデス患者における免疫担当細胞と CCR5 の解析. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2015 年 4 月 (愛知)
 176. 三宅幸子. 腸管免疫と自己免疫. 第 59 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2015 年 4 月 (愛知) 招聘講演
 177. Matsuo M, Hishinuma T, Katayama Y, Hiramatsu K. Acquisition and loss of vancomycin resistance in hVISA with rpoC mutation. 第 88 回日本細菌学会総会. 2015 年 3 月 (岐阜)
 178. 馬場理, 森本ゆふ, 平松啓一. Apigenin is an inhibitor of quinolone-resistant DNA topoisomerases. 第 88 回日本細菌学会総会. 2015 年 3 月 (岐阜)
 179. 山口哲央, 松尾美記, 平松啓一, 松本哲哉. Slow growing Vancomycin Intermediate S. aureus strain from clinical isolate. 第 88 回日本細菌学会総会. 2015 年 3 月 (岐阜)
 180. 片山由紀, 菱沼知美, 岩本昭, 相羽由詞, 佐々木崇, 松尾美記. 新規バンコマイシン耐性の表現型である slow-VISA の耐性化機構について. 第 88 回日本細菌学会総会. 2015 年 3 月 (岐阜)
 181. 森本ゆふ, 馬場理, 平松啓一. 第二の復帰抗生物質としての Apigenin の再発見. 第 88 回日本細菌学会総会. 2015 年 3 月 (岐阜)
 182. 相羽由詞, 片山由紀, 菱沼知美, 佐々木崇, 桑原京子, 平松啓一. 黄色ブドウ球菌の rpoB 変異による種々の薬剤感受性への影響. 第 88 回日本細菌学会総会. 2015 年 3 月 (岐阜)
 183. 高宮信三郎, 橋本宗明, 山崎浩, 美田敏宏. Ascaris suum シトクロム b5 ホモログ: 特に膜蛋白型について. 第 84 回日本寄生虫学会大会. 2015 年 3 月 (東京)
 184. Win Zin Zayar, 上村春樹, Wah Win Htike, Khin San San, 北潔, 美田敏宏. Temporal patterns of molecular marker associated with artemisinin resistance before and after the implementation of artemisinin derivatives in Myanmar. 第 84 回日本寄生虫学会大会. 2015 年 3 月 (東京)
 185. 美田敏宏, 高橋延之, 遠藤弘良, 大橋順. アルテミシニン耐性熱帯熱マラリア原虫出現以前の大規模検体を用いた耐性候補遺伝子 K13-propeller のベースライン多型解析. 第 84 回日本寄生虫学会大会. 2015 年 3 月 (東京)
 186. 櫻井美樹, Mawagali Betty Balikagala, 矢代聖基, 池田美恵, Ntege Edward, 佐伯亜美, 本間一, Palacpac Nirianne MQ, 片岡正俊, 坪井敬文, 木村英作, 遠藤弘良, 堀井俊宏, 美田敏宏. ウガンダにおける ex vivo 薬剤感受性試験を用いた熱帯熱マラリア原虫のクロロキン感受性の回復. 第 84 回日本寄生虫学会大会. 2015 年 3 月 (東京)
 187. 金子恵, 池田美恵, Mawagali Betty Balikagala, 櫻井美樹, 矢代聖基, 加納永将, 佐伯亜美, Palacpac Nirianne MQ, 片岡正俊, 坪井敬文, 木村英作, 堀井俊宏, 美田敏宏. ウガンダにおける Ring Stage Survival Assay を用いたアルテミシニン感受性低下熱帯熱マラリア原虫のスクリーニング. 第 84 回日本寄生虫学会大会. 2015 年 3 月 (東京)
 188. 奈良武司, Morales Jorge, 橋本宗明, Williams Tom A, 平沢浩子, 牧内貴志, 坪内暁子, 加賀直子, 高ひかり, 藤村務, 美田敏宏, Bringaud Frederic, Concepcion Juan L, 橋本哲男, Embley T. Martin. キネトプラスチダ類の特異オルガネラ、グリコソームは糖新生起原である. 第 84 回日本寄生虫学会大会. 2015 年 3 月 (東京)
 189. 池田美恵, 平井誠, 美田敏宏. マラリアミューターを用いたピペラキン耐性原虫の迅速単離と耐性機構の解明. 第 84 回日本寄生虫学会大会. 2015 年 3 月 (東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

190. 本間一, 平井誠, 新倉保, 美田敏宏, 小林富美恵, 堀井俊宏, 遠藤弘良. ミューテーターマリア原虫を用いた突然変異蓄積パターンの解析. 第 84 回日本寄生虫学会大会. 2015 年 3 月 (東京)
191. 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. Cell surface HS proteoglycans mediate the uptake of antimicrobial peptide LL-37-LPS complex by LSECs. 第 88 回日本細菌学会総会. 2015 年 3 月 (岐阜)
192. 田淵史晃, 浜本洋, 松尾美記, 岡崎充宏, 垣内力, 関水久. In vitro での変異原処理および薬剤選択による高度バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌の取得. 第 88 回日本細菌学会総会. 2015 年 3 月 (岐阜)
193. 胡忠双, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. NETs (neutrophil extracellular traps) induce the IL-1 β production by macrophages. 第 88 回日本細菌学会総会. 2015 年 3 月 (岐阜)
194. Nagaoka I, Hu Z, Suzuki K, Tamura H. Potential effects of human antimicrobial peptide LL-37 on macrophage pyroptosis and sepsis. 第 88 回日本薬理学会年会. 2015 年 3 月 (名古屋) 招聘講演
195. Haga K, Chiba A, Shibuya T, Osada T, Ishikawa D, Kotani T, Nomura O, Watanabe S, Miyake S. Analysis of innate-like lymphocyte subsets in ulcerative colitis. 10th Congress of European Crohn's and Colitis Organisation (ECCO) 2015 年 2 月 (Barcelona, Spain)
196. 三宅幸子. 腸管免疫による自己免疫調節. 多発性硬化症講演会 in KANSAI. 2015 年 2 月 (大阪) 招聘講演
197. 三宅幸子. 腸内細菌による免疫調節. 第 33 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会. 2015 年 2 月 (東京) 招聘講演
198. Iwabushi K, Shimano K, Satoh M, Gilfillan S, Miyake S, Van Kaer L, Yamamura T. Atherosclerotic lesion development in CD1d/MR1/apolipoprotein E-deficient mice. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2014 年 12 月 (京都)
199. Nakajima A, Negishi N, Tsurui H, Nanno M, Yagita H, Okumura Ko, Miyake S, Habu S. Commensal bacteria regulate thymic Aire expression. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2014 年 12 月 (京都)
200. Lin Y, Miyake S, Yamamura T. Inverse vaccination for autoimmune diseases by sensitization of superior dominant peptide through efficient induction of functionally stable regulatory T cells possessing high antigen-specificity. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2014 年 12 月 (京都)
201. Chiba A, Tamura N, Takasaki Y, Miyake S. Involvement of MAIT cells in human autoimmune diseases. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2014 年 12 月 (京都)
202. Kadowaki A, Miyake S, Chiba A, Saga R, Yamamura T. Regulation of organ specific autoimmunity by gut resident T cells. The 43rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. 2014 年 12 月 (京都)
203. Iida H, Hasegawa T, Sakamoto A, Wada A, Fukai T, Ikeda S. Keratinocyte progenitor cells in human subcutaneous adipose tissue. 日本研究皮膚科学会第 39 回年次学術大会・総会. 2014 年 12 月 (大阪)
204. 三宅幸子. ヒトの免疫性疾患に関与する免疫細胞の解析. ヒューマンイムノロジーフォーラム 2014. 2014 年 12 月 (京都) 招聘講演
205. 三宅幸子. MSにおけるB細胞の役割. 第 11 回多発性硬化症/視神経脊髄炎フォーラム. 2014 年 12 月 (東京) 招聘講演
206. 鈴木香, 村上泰介, 胡忠双, 細田浩司, 長岡功. Cathelicidin ファミリーの抗菌ペプチド LL-37 によるエンドトキシン除去作用. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会. 2014 年 12 月 (東京) 招聘講演
207. 多田浩之, 松下健二, 長岡功, 高田春比古. Porphyromonas gingivalis ジンジパインは IL-33 誘導を介してヒト歯肉上皮細胞の CAP18/LL-37 産生をダウンレギュレーションする. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会. 2014 年 12 月 (東京)
208. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージのピ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- ロトーシス制御. 第 20 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会. 2014 年 12 月 (東京)
209. *Kondo Y, Ohno T, Chenyang Z, Yagita H, Harada K, Azuma M. Anti-tumor effects of mAb against a new immune-checkpoint molecule VISTA/PD-1H. 第 43 回日本免疫学会学術集会. 2014 年 12 月 (京都)
210. Nakajima A, Negishi N, Tsurui H, Nanno M, Yagita H, Okumura K, Miyake S, Habu S. Commensal bacteria regulate thymic Aire expression. 第 43 回日本免疫学会学術集会. 2014 年 12 月 (京都)
211. Hayashi E, Chiba A, Kitagaichi M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y, Miyake S. Involvement of IL-17-producing MAIT cells in the pathogenesis of rheumatoid arthritis. American College of Rheumatology (ACR) 2014 Annual Meeting. 2014 年 11 月 (Boston, USA)
212. Chiba A, Tamura N, Hayashi E, Matsudaira R, Takasaki Y, Miyake S. Reduction of MAIT Cell Frequency Associated with Reduced Cell Proliferation and Enhanced Cell Death in Systemic Lupus Erythematosus. American College of Rheumatology (ACR) 2014 Annual Meeting. 2014 年 11 月 (Boston, USA)
213. Nakayama H, Iwabuchi. Lactosylceramide mediates innate immune responses depending on PAMPs in human neutrophils. Joint Meeting of the Society for Glycobiology (SFG) and the Japanese Society of Carbohydrate Research. 2014 年 11 月 (Honolulu, USA)
214. Kadowaki A, Miyake S, Chiba A, Yamamura T. Regulation of Experimental Autoimmune Encephalomyelitis by Gut Resident T cells. XII International Congress of Neuroimmunology (ISNI) 2014 年 11 月 (Mainz, Germany)
215. 長岡功. 機能性ペプチド (特に生体防御ペプチド) の構造と多様性. ペプチド研究の新潮流. “未来へのバイオ技術”勉強会. バイオインダストリー協会 (JBA) バイオセミナーシリーズ. 2014 年 11 月 (東京) 招聘講演
216. 長岡功, 鈴木香. ヒト抗菌ペプチド LL-37 による血管内皮細胞の LPS に対する反応性の制御. 第 1 回日本血管血流学会学術集会. 2014 年 11 月 (東京) 招聘講演
217. 山本典生, 浜本いつき, 田代真人. シクロスポリン A およびその誘導体のインフルエンザウイルス増殖に与える影響についての解析. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会. 2014 年 11 月 (神奈川)
218. 三宅幸子. AS の免疫病態. 高知 AS カンファレンス. 2014 年 11 月 (高知) 招聘講演
219. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. Antimicrobial peptide LL-37 inhibits pyroptosis of macrophages and protects sepsis in a murine model. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society. 2014 年 10 月 (Salt Lake City, USA)
220. Suzuki K, Hu Z, Tamura H, Nagaoka I. Human host defense peptide LL-37 enhances the LPS uptake by endothelial cells without cell activation: a possible role in the LPS clearance. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society. 2014 年 10 月 (Salt Lake City, USA) 招聘講演
221. 三宅幸子. 腸内細菌による免疫調節—最近の話題— 第 11 回順天堂 Kampo 先端治療研究会. 2014 年 10 月 (東京) 招聘講演
222. 三宅幸子. 腸管免疫による自己免疫制御. 第 41 回日本小児栄養消化器肝臓学会. 2014 年 10 月 (東京) 招聘講演
223. 佐々木崇. 抗菌薬外用剤は意味があるのか? 第 6 回日本獣医耳科研究会. 2014 年 10 月 (大阪) 招聘講演
224. 中山仁志, 玉木友樹, エキャロンゴ ルディ, 岩淵和久. ヒト好中球における CD14 依存性 LPS シグナルはラクトシルセラミドのマイクロドメインにより仲介される. 第 7 回セラミド研究会. 2014 年 10 月 (東京)
225. 中山仁志, 玉木友樹, エキャロンゴ ルディ, 栗原秀剛, 岩淵和久. リポ多糖はヒト好中球におけるラクトシルセラミドを介したシグナル伝達機構を活性化する. 第 87 回日本生化学会. 2014 年 10 月 (京都)
226. 細田浩司, 田村弘志, 長岡功. C/EBP 転写調節遺伝子群によるヒト単球・マクロファージ系細胞における TREM-1 の転写制御. 第 87 回日本生化学会大会. 2014 年 10 月 (京都)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

227. 村上泰介, 田村弘志, 長岡功. LPS 刺激によるマクロファージ細胞からの HMGN1 の放出機構. 第 87 回日本生化学会大会. 2014 年 10 月 (京都)
228. Noto D, Araki M, Sato W, Okamoto T, Murata M, Miyake S, Yamamura T. First-in-human phase 1 study of invariant NKT cell ligand OCH. 2014 JOINT ACTRIMS-ECTRIMS MEETING. 2014 年 9 月 (Boston, USA)
229. Katayama Y, Hishinuma T, Sato M, Iwamoto A, Aiba Y, Sasaki T, Hiramatsu K. Characterization of 'slow VISA', a novel phenotype of vancomycin resistance in *Staphylococcus aureus*. International Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (ICAAC2014) 2014 年 9 月 (Washington, DC, USA)
230. 能登大助, 荒木学, 佐藤和貴郎, 岡本智子, 村田美穂, 三宅幸子, 山村隆. 多発性硬化症を対象とした免疫修飾薬 OCH の医師主導治験. 第 26 回日本神経免疫学会学術集会. 2014 年 9 月 (石川)
231. 門脇淳, 三宅幸子, 千葉麻子, 山村隆. 腸管ミエリン反応性 T 細胞は実験的自己免疫性脳脊髄炎 (EAE) を LAG-3 によって制御する. 第 26 回日本神経免疫学会学術集会. 2014 年 9 月 (石川)
232. 三宅幸子. 自然免疫 ABC. 第 26 回日本神経免疫学会学術集会. 2014 年 9 月 (石川) 招聘講演
233. 門脇淳, 三宅幸子, 千葉麻子, 佐賀亮子, 山村隆. 腸管 T 細胞による自己免疫制御. 第 42 回日本臨床免疫学会総会. 2014 年 9 月 (東京)
234. 三宅幸子. 自己免疫疾患における腸内細菌叢解析. 第 42 回日本臨床免疫学会総会. 2014 年 9 月 (東京) 招聘講演
235. 北垣内みえ, 千葉麻子, 林絵利, 中嶋志穂子, 多田久里守, 田村直人, 山路健, 高崎芳成, 三宅幸子. 関節リウマチ患者における自然リンパ球の解析. 第 42 回日本臨床免疫学会総会. 2014 年 9 月 (東京)
236. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージの細胞死ピロトーシスの制御. 第 61 回トキシンシンポジウム. 2014 年 9 月 (鳴門)
237. 鈴木香, 胡忠双, 田村弘志, 長岡功. 血管内皮細胞による LPS の取り込みに対するヒト抗菌ペプチド LL-37 の促進作用. 第 61 回トキシンシンポジウム. 2014 年 9 月 (鳴門) 招聘講演
238. 高宮信三郎, 橋本宗明, 美田敏宏, 山崎浩. ブタ回虫シトクロム b5 のホモログについて. 第 8 回蠕虫研究会. 2014 年 9 月 (札幌)
239. Takamiya S, Hashimoto M, Mita T, Yokota T, Nakajima Y, Yamakura F, Sugio S, Fujimura T, Ueno T, Yamasaki H. Bioinformatic identification of cytochrome b5 homologues from the parasitic nematode *Ascaris suum* and free-living nematode *Caenorhabditis elegans* highlights the crucial role of *A. suum* adult-specific cytochrome b5 in parasitic adaptation. 13th International Congress of Parasitology. 2014 年 8 月 (Mexico City, Mexico)
240. Katayama Y, Sekine M, Hishinuma T, Hiramatsu K. Complete reconstitution of vancomycin-intermediate resistance of Mu50 in a vancomycin-susceptible *Staphylococcus aureus* strain. 16th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infection (ISSSI) 2014 年 8 月 (Chicago, USA)
241. 岩渕和久, 玉木友樹, 増田浩美, 松本亮, 中山仁志, 小林俊秀, 石井久美子, 早川智広, 小川秀興, 高森建二. 抗体や毒素を用いた糖脂質膜マイクロドメインの構造と機能解析について. 第 33 回日本糖質学会. 2014 年 8 月 (名古屋)
242. *佐々木崇. CRISPR 領域の配列解析による SCCmec type V の進化的伝播経路の探索. 第 59 回日本ブドウ球菌研究会. 2014 年 8 月 (東京) 招聘講演
243. 平松啓一, 森本ゆふ, 菱沼知美, 馬場理, 五十嵐雅之. 復帰抗生物質による多剤耐性黄色ブドウ球菌の治療戦略. 第 59 回日本ブドウ球菌研究会. 2014 年 8 月 (東京)
244. Tsubakishita S, Kuwahara K, Sasaki T, Baba T, Takahashi T, Kikuchi N, Hiramatsu K. Whole genome sequencing of members of the *Staphylococcus sciuri* group. International Union of Microbiological Societies Congress (IUMS) 2014 年 7 月 (Montreal, Canada)
245. 三宅幸子. NKT 細胞を標的とした自己免疫制御. 第 16 回免疫サマースクール. 2014 年 7 月 (香川) 招聘講演

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

246. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. マクロファージの pyroptosis に対する抗菌ペプチド LL-37 の効果. 第 23 回日本 Cell Death 学会学術集会. 2014 年 7 月 (東京)
247. 三宅幸子. 腸管免疫による自己免疫制御. 第 29 回難病治療研究会. 2014 年 7 月 (東京) 招聘講演
248. 林絵利, 千葉麻子, 北垣内みえ, 中嶋志穂子, 草生真規夫, 関谷文男, 多田久里守, 山路健, 田村直人, 高崎芳成, 三宅幸子. 関節リウマチと強直性脊椎炎における免疫病態の相違に関する研究. 第 35 回日本炎症・再生医学会. 2014 年 7 月 (沖縄)
249. 岩渕和久. ラクトシルセラミドの膜ドメインの情報伝達機構について. 第 9 回スフィンゴセラピー研究会. 2014 年 7 月 (金沢)
250. 三宅幸子. 自然リンパ球と自己免疫. 第 9 回リウマチヤングアカデミー. 2014 年 7 月 (北海道) 招聘講演
251. Iwabuchi K. Lactosylceramide is a possible target for prevention of infectious disease. 2nd Microbiology & infectious Diseases Asia Congress. 2014 年 6 月 (Singapore) 招聘講演
252. Miyake S. Gut controls CNS autoimmunity. The 9th IMS-JSI International Symposium on Immunology. 2014 年 6 月 (神奈川) 招聘講演
253. 岩渕和久, 中山 仁志, 松本亮, 増田浩美, 柳田光昭, 加賀直子, 小林俊秀, 早川智宏, 石井久美子, 小川秀興, 高森建二. マウス好中球におけるラクトシルセラミドの膜マイクロドメインについて. 第 56 回日本脂質生化学会大会. 2014 年 6 月 (大阪)
254. 福田稔, 伊藤輝代, 上原由紀, 松田直人, 平松啓一. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の培養皮膚角化上皮細胞に対する細胞障害活性の検討. 第 88 回日本感染症学会・第 62 回日本化学療法学会総会. 2014 年 6 月 (福岡)
255. 中尾彰裕, 伊藤輝代, 久田研, 辻脇篤志, 松永展明, 小松充孝, 平松啓一. 鼻腔 MRSA 保菌児から排泄される糞便中 MRSA の解析. 第 88 回日本感染症学会・第 62 回日本化学療法学会総会. 2014 年 6 月 (福岡)
256. Fukui S, Uehara Y, Naito T, Hisaoka T, Takahasni O. Analysis of predictive factors of bacteremia among inpatients of general medicine. 37th Annual Meeting of Society of General Internal Medicine. 2014 年 5 月 (San Diego, USA)
257. Mita T, Sakurai M, Yatsushiro S, Kataoka M, Horii T. Worldwide distribution of polymorphisms associated with delayed clearance of malaria parasites following artemisinin-based combination therapy. Society for the Advancement of Science in Africa (SASA) Annual Scientific Conference. 2014 年 5 月 (Kampala, Uganda)
258. 中村雅一, 松岡貴子, 荒木学, 林幼偉, 佐藤和貴郎, 岡本智子, 村田美穂, 下地啓五, 佐藤典子, 三宅幸子, 荒浪利昌, 山村隆. 再発寛解型多発性硬化症病態における IL-6 依存性プラズマブラストの関与. 第 55 回日本神経学会学術大会. 2014 年 5 月 (福岡)
259. 荒木学, 佐藤和貴郎, 岡本智子, 村田美穂, 三宅幸子, 山村隆. 多発性硬化症を対象とした免疫修飾薬 OCH の医師主導治験. 第 55 回日本神経学会学術大会. 2014 年 5 月 (福岡)
260. 門脇淳, 三宅幸子, 千葉麻子, 山村隆. 腸管のミエリン反応性 T 細胞は実験的自己免疫性脳脊髄炎 (EAE) を制御する. 第 55 回日本神経学会学術大会. 2014 年 5 月 (福岡)
261. 荒木学, 松岡貴子, 宮本勝一, 楠進, 岡本智子, 村田美穂, 三宅幸子, 荒浪利昌, 山村隆. 視神経脊髄炎に対する抗 IL-6 受容体抗体トシリズマブ治療の有効性の検討. 第 55 回日本神経学会学術大会. 2014 年 5 月 (福岡)
262. 東原良恵, 加藤順子, 長田太郎, 泉健太郎, 芹澤信子, 永原章仁, 渡辺純夫. 胃癌化学療法 (SP 療法) における血清 DAO 活性の推移と消化管毒性との関連. 第 100 回日本消化器病学会総会. 2014 年 4 月 (東京)
263. 美田敏宏. 寄生虫感染症について: 薬剤耐性マラリア. 市民公開フォーラム. 第 3 回日本微生物学連盟. 2014 年 4 月 (東京) 招聘講演
264. 林絵利, 千葉麻子, 多田久里守, 山路健, 田村直人, 高崎芳成, 三宅幸子. 強直性脊椎炎患者における免疫細胞の解析. 第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2014 年 4 月 (東京)
265. 三宅幸子, 千葉麻子. NKT 細胞による自己免疫疾患の制御. 第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2014 年 4 月 (東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

266. 三宅幸子. リウマチ医のための免疫学 ABC. 第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2014 年 4 月 (東京) 招聘講演
267. Murakami T, Tamura H, Nagaoka I. Characterization of release mechanism of HMGN1, an alarmin, from LPS-stimulated RAW264.7 cells. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014. 2014 年 3 月 (東京)
268. Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. Human antimicrobial peptide LL-37 enhances the LPS uptake without cell activation in endothelial cells. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014. 2014 年 3 月 (東京)
269. Hosoda H, Tamura H, Nagaoka I. Regulation of TREM-1 gene expression in LPS-stimulated human monocytes/macrophages. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014. 2014 年 3 月 (東京)
270. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. The effects of antimicrobial peptide LL-37 on the pyroptosis of macrophages and a polymicrobial sepsis model. The 12th Japan-Korea International Symposium on Microbiology 2014. 2014 年 3 月 (東京)
271. 松尾美記, 平松啓一. VISA 株における cmk (cytidylate kinase) 変異によるバンコマイシン耐性機構の解明. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
272. 伊藤輝代, 呂宇傑, 韓笑, 平松啓一. NICU 入院中の MRSA 保菌乳児の糞便から分離される MRSA の解析. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
273. 齋藤充恵, 片山由紀, 菱沼知美, 平松啓一. A Single Amino-Acid Substitution of RNA Polymerase β subunit rpoB(R512P) can promote hVISA-to-VISA phenotypic conversion of Mu3. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
274. Suzuki K, Nagaoka I. Antimicrobial peptide LL-37 enhances the LPS uptake without cell activation in endothelial cells. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
275. 片山由紀, 齋藤充恵, 菱沼知美, 岩本昭, 平松啓一. Characterization of A Novel Class of VISA Phenotype 'slow VISA' derived from hVISA Strain Mu3. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
276. 馬場理, 森本ゆふ, 平松啓一. Effects of nybomycin onto ATP-dependent reactions by DNA topoisomerases. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
277. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. The effects of LL-37 on the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages and a murine sepsis model. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
278. *Lu Y, 伊藤輝代, 本郷勇, 平松啓一. ブラジルで分離された PVL 陽性株について. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
279. *細谷志乃, 伊藤輝代, Han Shou, Zhang Meng, Lu Yujie, 平松啓一. 外来患者由来 MRSA 株の保持する SCCmec について. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
280. 菊池賢. 臨床微生物領域での MALDI-TOF MS の応用と限界. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
281. 関根美和, 馬場理, 片山由紀, 平松啓一. Greater cytotoxicity of *S. epidermidis* than co-colonizing *S. aureus* against human keratinocytes. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
282. 菊池賢, 井口成一, 水谷友紀, 平松啓一. Streptococcus anginosus group (SAG) の competence factor: ComCDE の多様性. 第 87 回日本細菌学会総会. 2014 年 3 月 (東京)
283. 菊池賢. 微生物自然史に眼を向けられる医師像. 第 25 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2014 年 2 月 (名古屋)
284. 金子萌, 松本千恵子, 伊藤輝代, 内田茂治, 佐竹正博, 田所憲治. 血液製剤から分離された Staphylococcus aureus の遺伝子学的特性の解析. 第 25 回日本臨床微生物学会総会. 2014 年 2 月 (名古屋)
285. 中山仁志, 岩淵和久. 病原性抗酸菌によるラクトシルセラミドを利用した食胞成熟回避機構について. 難治疾患共同研究拠点集会「糖鎖免疫 Glyco-Immunology 2014」2014 年 2 月 (東京)
286. 岩淵和久, 中山仁志. 病原関連分子パターン(PAMPS)とラクトシルセラミドとの糖鎖-糖鎖相互

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- 作用を介した感染・生体防御機構. 難治疾患共同研究拠点集会「糖鎖免疫 Glyco-Immunology 2014」2014年2月(東京)
287. Piao X, Tanaka M, Ohmuraya M, Miyake S, Okumura K, Tanaka M, Nakano H. Generation of mice that amplifies signals released from dying hepatocytes. 第42回日本免疫学会学術集会. 2013年12月(千葉)
288. Nakayama M, Underhill DM, Nakamura K, Yagita H, Okumura K, Takai T, Aderem A, Ogasawara K. Inhibitory receptor PIR-B is exploited by Staphylococcus aureus for virulence. 第42回日本免疫学会学術集会. 2013年12月(千葉)
289. Nakajima A, Negishi N, Tsurui H, Nanno M, Yagita H, Okumura K, Habu S. Involvement of commensal bacteria in thymic Aire expression. 第42回日本免疫学会学術集会. 2013年12月(千葉)
290. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. LPS/ATPで誘導されるピロトーシスに対する抗菌ペプチドLL-37の効果と作用機構. 第19回日本エンドトキシン・自然免疫研究会. 2013年12月(滋賀)
291. 垣内力, 齋藤裕樹, 幾尾真理子, 大前陽輔, 毛瀚, 長野源太郎, 藤幸知子, 沼田俊介, 韓笑, 小幡佳津明, 長谷川節雄, 山口博樹, 猪口孝一, 伊藤輝代, 平松啓一, 関水久. 黄色ブドウ球菌に見出された病原性抑制機構. 第36回日本分子生物学会. 2013年12月(神戸)
292. Hiramatsu K. Plenary Lecture : MRSA as our closest pathogen. 2013 International Interscience Conference on Infection and Chemotherapy (ICIC) 2013年11月(Seoul, Korea) 招聘講演
293. Jacob C, Takala-Harrison S, Silva J, Lanteri C, Saunders D, Bethell D, Tyner S, Se Y, Lon C, Socheat D, Dondorp A, Imwong M, Hien T, Satimai W, Sug-arum R, Mita T, Alam M, Akter J, Fang H, Kyaw M, Han K, Nyunt M, Mayxay M, Newton P, Nosten F, Phyo A, Noedl H, Starzengruber P, Tan J, Ferdig M, Fairhurst R, Miotto O, Manske M, MacInnis B, Kwiatkowski D, White N, Ringwald P, Plowe C. Falciparum malaria in the Greater Mekong Sub-Region: Mapping gene flow and genomic signatures of drug resistance. American Society of Tropical Medicine and Hygiene 62nd Annual Meeting. 2013年11月(Washington DC, USA)
294. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. マクロファージ系細胞のピロトーシスに対する抗菌ペプチドLL-37の制御作用. 第13回日本AS学会/第7回日本血流血管学会 合同学術集会. 2013年11月(東京)
295. 原田勇一, 中村一哉, 浜本いつき, 榎本匡志, 浅沼秀樹, 相内章, 田代真人, 山本典生. マウスモデルを用いた細胞培養型インフルエンザワクチンの有効性の解析. 第17回日本ワクチン学会学術集会. 2013年11月(三重)
296. 杉村哲, 高橋仁, 城内健太, 大塩木乃実, 金山雅也, 田墨恭子, 谷畑葉子, 三浦裕, 藤原大介, 山本典生. L. lactis JCM5805株摂取によるプラズマサイトイド樹状細胞活性化を介したウイルス性呼吸器感染症抑制効果の検証. 第61回日本ウイルス学会学術集会. 2013年11月(神戸)
297. 原田勇一, 中村一哉, 浜本いつき, 浅沼秀樹, 相内章, 田代真人, 奥野良信, 山本典生. マウスにおける細胞培養型インフルエンザワクチンの有効性の解析. 第61回日本ウイルス学会学術集会. 2013年11月(神戸)
298. 中山仁志, 栗原秀剛, 森田康裕, 木下タロウ, 高森建二, 小川秀興, 岩淵和久. 病原性抗酸菌のラクトシルセラミドを利用したヒト好中球食胞成熟回避機構. 第6回セラミド研究会. 2013年11月(北海道)
299. 相羽由詞, 片山由紀, 菱沼知美, 黒田(村上)博子, 崔龍洙, 平松啓一. RNAポリメラーゼβサブユニット遺伝子の変異が黄色ブドウ球菌のβ-ラクタム剤耐性ヘテロ型からホモ型への変換を促進する. 第96回日本細菌学会関東支部総会. 2013年11月(東京)
300. 村井謙治, 高橋延之, 内藤俊夫, 磯沼弘, 久岡英彦, 遠藤弘良, 美田敏宏. 大規模検体を用いたアルテミシニン耐性候補SNPsの地理学的分布. 第54回日本熱帯医学会大会. 2013年10月(長崎)
301. 乾啓洋, 内藤俊夫, 波田野琢, 上原由紀, 磯沼弘, 王子悠. 頭蓋内病変を有する未治療のHIV症例に対するマラビロクの使用経験. 第60回日本化学療法学会東日本支部総会・第62回日本

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- 感染症学会東日本地方学術集会合同学会 2013 年 10 月 (東京)
302. Iwabuchi K. Organization and functions of glycolipid-enriched microdomains in phagocytes. 54th International Conference on the Bioscience of Lipids: Linking Transcription to Physiology in Lipidomics. 2013 年 9 月 (Bari, Italy) 招聘講演
 303. 松尾美記, 崔龍洙, 金智英, 平松啓一. 臨床分離 hetero Vancomycin-Intermediate *S. aureus* (hVISA)株 Mu3 から作製した VISA 株を用いた、hVISA から VISA への変換に関する遺伝子変異の網羅的同定. 第 58 回日本ブドウ球菌研究会. 2013 年 9 月 (東京)
 304. 村上泰介, 田村弘志, 長岡功. Alarmin である HMGN1 は LPS 刺激された壊死性のマクロファージから放出される. 第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 (横浜)
 305. 細田浩司, 田村弘志, 長岡功. C/EBP ファミリーによるヒト単球・マクロファージ系細胞 THP-1 における TREM-1 の転写制御. 第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 (横浜)
 306. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. Dual mechanism of antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 for the inhibition of LPS/ATP-induced pyroptosis. 第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 (横浜)
 307. 中山仁志, 栗原秀剛, 高森建二, 小川秀興, 岩淵和久. ヒトマクロファージにおけるラクトシルセラミドの役割について. 第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 (横浜)
 308. 鈴木香, 山倉文幸, 長岡功. 抗菌ペプチド LL-37 による血管内皮細胞における LPS の取り込み促進メカニズム. 第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 (横浜)
 309. 進藤綾大, 掛橋秀直, 熊谷嘉人, 奥村康, 中野裕康. 抗酸化剤は RIPK1 のリン酸化およびネクロプトーシスを抑制する. 第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 (横浜)
 310. 仁科隆史, 新開泰弘, 熊谷嘉人, 奥村康, 中野裕康. 親電子リガンドによる IL-11 産生機構の解明. 第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 (横浜)
 311. 中野裕康. c-FLIP による生体の恒常性維持における役割. 第 86 回日本生化学会大会. 2013 年 9 月 (横浜)
 312. 松田直人, 内藤俊夫, 上原由紀, 久岡英彦. 北京ユニテットファミリーホスピタルにおけるプライマリーケアについて. 日本病院総合診療医学会学術集会 2013 年 8 月 (広島)
 313. 中山仁志, Chiricozzi E, Mauri L, Prinneti A, Sonnino S, 岩淵和久. ラクトシルセラミドはヒト好中球の細胞膜上で Lyn と直接会合している. 第 32 回日本糖質学会年会. 2013 年 8 月 (大阪)
 314. Piao X, Komazawa-Sakon S, Nishina T, Okumura K, He YW, Nakano H. c-FLIP maintains tissue homeostasis by preventing apoptosis and programmed necrosis. 14th International TNF Conference. 2013 年 7 月 (Quebec, Canada)
 315. Nishina T, Shinkai Y, Kumagai Y, Okumura K, Nakano H. Interleukin-11 is responsible for stress-induced proliferation of intestinal epithelial cells. 14th International TNF Conference. 2013 年 7 月 (Quebec, Canada)
 316. 中野裕康. c-FLIP による細胞の生と死の運命決定機構の解明. 第 22 回日本 Cell Death 学会. 2013 年 7 月 (京都)
 317. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. 抗菌ペプチド LL-37 によるマクロファージピロトーシスの制御. 第 34 回日本炎症・再生医学会. 2013 年 7 月 (京都)
 318. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 森田隆司, 長岡功. 抗菌ペプチド LL-37 は二つのメカニズムによって LPS/ATP で誘導されるピロトーシスを抑制する. 第 60 回トキシシンポジウム. 2013 年 7 月 (兵庫)
 319. 増田浩美, 松本亮, 中山仁志, 加賀直子, 岩淵和久. 抗ラクトシルセラミド抗体の反応特異性について. 第 8 回スフィンゴテラピー研究会. 2013 年 7 月 (石川)
 320. Iwabuchi K. Role of Glycolipids in Innate Immune Response. 22nd International Symposium on Glycoconjugates. 2013 年 6 月 (Dalian, China) 招聘講演
 321. Matsuo M, Cui L, Kim J, Hiramatsu K. A mutation of cmk (cytidylate kinase) gene confers reduced vancomycin susceptibility in *Staphylococcus aureus*. 28th International Congress of Chemotherapy and Infection (ICC) Incorporating the 14th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection. 2013 年 6 月 (横浜)
 322. Hiramatsu K. Molecular Evolution of MRSA and VISA. 28th International Congress of

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- Chemotherapy and Infection (ICC) Incorporating the 14th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection. 2013 年 6 月 (横浜) 招聘講演
323. Hiramatsu K. Nature's way to resolve antibiotic resistance : ISC Hamao Umezawa Memorial Award (HUMA) Lecture. 28th International Congress of Chemotherapy and Infection (ICC) Incorporating the 14th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection. 2013 年 6 月 (横浜) 招聘講演
324. Morimoto Y, Igarashi M, Baba T, Hiramatsu K. Antimicrobial activity of Nybomycin against Escherichia coli. 28th International Congress of Chemotherapy and Infection (ICC) Incorporating the 14th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection. 2013 年 6 月 (横浜)
325. Han X, Ito T, Uehara Y, Zhang M, Hiramatsu K. Characterization of SCCmec elements that carry ccrA3 and ccrB3 genes identified in Staphylococcus epidermidis. 28th International Congress of Chemotherapy and Infection (ICC) Incorporating the 14th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection. 2013 年 6 月 (横浜)
326. Lulitanond A, Ito T, Li S, Han X, Ma XX, Engchanil C, Chanawong A, Wilailackana C, Jiwakanon N, Hiramatsu K. Identification of a variant of type IX SCCmec in ST9 MRSA strains isolated in Thailand. 28th International Congress of Chemotherapy and Infection (ICC) Incorporating the 14th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection. 2013 年 6 月 (横浜)
327. 村井謙治, 鈴木麻衣, 鈴木彰人, 石島聡子, 渡辺由希子, 乾啓洋, 高宮信三郎, 山崎浩, 内藤俊夫, 美田敏宏, 磯沼弘. 駆虫により咽頭違和感が消失した無鉤条虫症の1例. 第 24 回日本臨床寄生虫学会大会. 2013 年 6 月 (奈良)
328. 中山仁志, 栗原秀剛, 森田康裕, 木下タロウ, Alessandro Prinetti, Sandro Sonnino, 小川秀興, 高森建二, 岩淵和久. ヒト好中球における抗酸菌認識・貪食の分子機構について. 第 55 回日本脂質生化学会. 2013 年 6 月 (宮城県松島市)
329. 上原由紀, 伊藤輝代, 荘司貴代, 堀越裕歩, 為智之, 平松啓一 家族内あるいは地域内感染が疑われた市中発生 MRSA 感染症の分子疫学的検討. 第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会. 2013 年 6 月 (横浜)
330. 伊藤輝代 生まれ続ける MRSA. 第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会. 2013 年 6 月 (横浜)
331. 甘利悠, 内藤俊夫, 乾啓洋, 上原由紀, 磯沼弘. 歯科診療所における抗菌薬使用. 第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会. 2013 年 6 月 (横浜)
332. 平松啓一. 特別講演『MRSA の来歴と将来の化学療法』第一回北部福岡感染症研究会. 2013 年 5 月 (福岡) 招聘講演
333. Matsuda N, Matsuda M, Uehara Y, Inui A, Naito T, Kikuchi K, Dambara T, Hiramatsu K. Prevalence of methicillin-resistant Staphylococcus epidermidis in hospital residents: a group cohort study of new residents in a university-affiliated hospital in Tokyo, Japan. 23rd European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases (ECCMID) 2013 年 4 月 (ドイツ)
334. Nagaoka I, Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H. Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages by dual mechanism. The 2013 Cold Spring Harbor Asia Conference. 2013 年 4 月 (Suzhou, China)
335. Piao X, Komazawa-Sakon S, Nishina T, Okumura K, He YW, Nakano H. c-FLIP maintains tissue homeostasis by preventing apoptosis and programmed necrosis. The 2013 Cold Spring Harbor Asia Conference. 2013 年 4 月 (Suzhou, China)
336. 鈴木洋平, 佐藤匡, 高木陽, 上原由紀, 大曲貴夫, 瀬山邦明, 高橋和久. 胸水症例の初期診断における胸水グラム染色および一般細菌培養検査の臨床的意義. 第 53 回日本呼吸器学会学術講演会. 2013 年 4 月 (東京)
337. Uehara Y, Ito T, Hiramatsu K, Kawada M, Furuichi M, Imajo E, Sato Y, Tanno S. An emergence of ST9-related MRSA strains among children in Saitama, Japan. (#C-14) 9th International Symposium on Antimicrobial Agents and Resistance (ISAAR 2013) 2013 年 3 月 (Kuala Lumpur, Malaysia)
338. Morimoto Y, Igarashi M, Baba T, Umekita M, Akamatsu Y, Hiramatsu K. Combined Use of

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

Fluoroquinolone with Nybomycin, a Novel Category of Antibiotics “Reverse Antibiotic”. 9th International Symposium on Antimicrobial Agents and Resistance (ISAAR 2013) 2013 年 3 月 (Kuala Lumpur, Malaysia)

339. Hiramatsu K. Staphylococcus aureus: a model of microbial adaptation to antibiotics. (Plenary lecture) 9th International Symposium on Antimicrobial Agents and Resistance (ISAAR 2013) 2013 年 3 月 (Kuala Lumpur, Malaysia) 招聘講演

340. Tande A, Uehara Y, Hishinuma T, Morimoto Y, Maduka-Ezeh A, Greenwood-Quaintance K, Hiramatsu K, Patel R. Expression of Phenol Soluble Modulins in Clinically Isolated Staphylococcus epidermidis Small Colony Variants. 9th International Symposium on Antimicrobial Agents and Resistance (ISAAR 2013) 2013 年 3 月 (Kuala Lumpur, Malaysia)

341. 松尾美記, 崔龍洙, 金智英, 平松啓一. cmk 遺伝子 (cytidylate kinase) の変異は黄色ブドウ球菌のバンコマイシン耐性に関与する. 第 87 回日本細菌学会総会. 2013 年 3 月 (千葉)

342. 坂本梨乃, 松田直人, 上原由紀, 三橋和則, 内藤俊夫, 菊池賢, 近藤成美. 病院総合医による感染症ホットラインシステムの試み. 日本病院総合診療医学会学術集会 2013 年 3 月 (岐阜)

343. 進藤綾大, 掛橋秀直, 熊谷嘉人, 奥村康, 中野裕康. 酸化ストレスは RIPK1 の下流でネクロプトーシスに関与する. 第 22 回日本 Cell Death 学会. 2013 年 3 月 (京都)

344. Morales J, Hashimoto M, Takamiya S, Tsubouchi A, Makiuchi T, Mita T, Nara T. Independence from glucose-based intermediary and energy metabolisms in Diplonema papillatum, a close relative of trypanosomatids. 第 82 回日本寄生虫学会大会. 2013 年 3 月 (東京)

345. 細田浩司, 田村弘志, 長岡功. Regulation of TREM-1 gene expression by LPS in human monocytes/macrophages. 第 86 回日本細菌学会総会. 2013 年 3 月 (千葉)

346. 村上泰介, 田村弘志, 長岡功. The mechanism for the release of HMGN1, alarmin, from LPS stimulated RAW264.7 cells. 第 86 回日本細菌学会総会. 2013 年 3 月 (千葉)

347. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. マクロファージのピロトーシスにおける抗菌ペプチド LL-37 の役割. 第 86 回日本細菌学会総会. 2013 年 3 月 (千葉)

348. 鈴木香, 長岡功. 生体防御ペプチドによる LPS シグナルの制御. 第 86 回日本細菌学会総会. 2013 年 3 月 (千葉) 招聘講演

349. 須釜規夫, 岡庭明日生, 金谷直子, 上原由紀. 当院における感染対策の取り組みと効果 VRE アウトブレイクを経験して. 日本環境感染学会総会. 2013 年 2 月 (横浜)

350. Kikuchi K. Implication of Streptococcus intermedius in the pathogenesis of primary biliary cirrhosis. Japan-Russia International Workshop 2013. 2013 年 1 月 (東京)

351. Nakano H. Oxidative stress maintains tissue homeostasis by inducing compensatory proliferation. International Symposium on Signaling Functions of Reactive Oxygen Species. 2012 年 12 月 (福岡)

352. 中野裕康. c-FLIP maintains tissue homeostasis by preventing apoptosis and necroptosis. 第 35 回日本分子生物学会年会 2012 年 12 月 (福岡)

353. 仁科隆史, 新開泰弘, 熊谷嘉人, 奥村康, 中野裕康. 親電子分子による IL-11 産生機構の解明. 第 35 回日本分子生物学会年会. 2012 年 12 月 (福岡)

354. 福田稔, 馬場理, 河崎純子, 牛尾博子, 前田啓子, 西山千春, 奥村康, 平松啓一, 小川秀興. Some strains of HA-MRSA have potentiality to damage keratinocyte to induce recurrent infection. 第 37 回研究皮膚科学会. 2012 年 12 月 (沖縄)

355. Ohno T, Zhang C, Yagita H, Azuma M. Dual function of PD-1 in CD4+ T cell responses by sublingual mucosa-mediated antigen application. 第 41 回日本免疫学会学術集会. 2012 年 12 月 (神戸)

356. Matsumoto A, Kanai T, Yagita H, Hibi T. ROR γ -dependent NKT cells and innate lymphoid cells regulate hepatic immune responses in a distinct way during the development of the acute hepatitis. 第 41 回日本免疫学会学術集会. 2012 年 12 月 (神戸)

357. Piao X, Ehlken H, Yagita H, Okumura K, He YW, and Nakano H. An essential Role for c-FLIP in maintaining homeostasis of the intestine and the liver by Preventing Apoptosis and programmed Necrosis. 第 41 回日本免疫学会学術集会. 2012 年 12 月 (神戸)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

358. 菊池賢. 臨床微生物領域での MALDI-TOF MS の応用(シンポジウム講演) 第 59 回日本臨床検査医学会総会. 2012 年 12 月 (京都)
359. 鈴木香, 長岡功. 生体防御ペプチド LL-37 による血管内皮細胞の LPS 取り込み促進効果. 第 6 回日本血流血管学会・第 12 回日本 AS 学会合同学術集会. 2012 年 12 月 (東京) 招聘講演
360. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. LPS/ATP で誘導されるマクロファージ系細胞のピロトーシスに対する抗菌ペプチド LL-37 の効果. 第 85 回日本生化学会大会. 2012 年 12 月 (福岡)
361. 村上泰介, 田村弘志, 長岡功. LPS 刺激 RAW264.7 細胞からの新規 Alarmin 分子 HMGN1 の放出機構. 第 85 回日本生化学会大会. 2012 年 12 月 (福岡)
362. 細田浩司, 田村弘志, 長岡功. ヒト単球・マクロファージ系細胞 THP-1 における TREM-1 の転写制御. 第 85 回日本生化学会大会. 2012 年 12 月 (福岡)
363. 中山仁志, 栗原秀剛, 森田康裕, 木下タロウ, 高森建二, 小川秀興, 岩淵和久. ラクトシルセラミドによる抗酸菌由来リポアラビノマンナンの認識機構について. 第 85 回日本生化学会大会. 2012 年 12 月 (福岡)
364. 増田浩美, 松本亮, 中山仁志, 岩淵和久. 抗ラクトシルセラミド抗体の反応特異性によるラクトシルセラミド脂質ドメインの構造解. 第 85 回日本生化学会大会. 2012 年 12 月 (福岡)
365. 鈴木香, 山倉文幸, 長岡功. 血管内皮細胞による LPS の取り込みに対する抗菌ペプチド LL-37 の効果. 第 85 回日本生化学会大会. 2012 年 12 月 (福岡)
366. Iwabuchi K. Role of Lactosylceramide in innate immune responses of phagocytes. Clinical Microbiology & Microbial Genomics. 2012 年 11 月 (San Antonio, USA) 招聘講演
367. 鈴木彰人, 齋田瑞恵, 志賀教克, 乾啓洋, 上原由紀, 大築友紀子, 三橋和則, 内藤俊夫, 磯沼弘. 当院におけるアバカビル・ラミブジン合剤(ABC/3TC)とラルテグラビル(RAL)併用療法の治療成績(naive 症例と switch 症例について). 日本エイズ学会. 2012 年 11 月 (横浜)
368. 井戸栄治, Barnor J, Amoah Y, Aziati I, Afia N, Brandful J, Ampofo W, Ofori S, 山本典生, 石川晃一, Nyarko A, 山岡昇司. ガーナ国コフォリデュア州立病院における現行 ART の有効性に関する評価研究. 第 26 回日本エイズ学会学術集会. 2012 年 11 月 (神奈川)
369. 菊池賢. 輸入真菌症・稀な真菌症. 第 56 回日本医真菌学会総会・学術集会. 2012 年 11 月 (東京)
370. 高橋仁, 原田勇一, 中村一哉, 浜本いつき, Roth B, Trusheim H, 板村繁之, 田代真人, 山本典生. インフルエンザワクチンシードウイルスに求められる遺伝的安定性の検討. 第 60 回日本ウイルス学会学術集会. 2012 年 11 月 (大阪)
371. 原田勇一, 高橋仁, 中村一哉, 浜本いつき, Roth B, Trusheim H, 許斐奈美, 浅沼秀樹, 板村繁之, 田代真人, 山本典生. インフルエンザワクチンシードウイルス分離用細胞の評価. 第 60 回日本ウイルス学会学術集会. 2012 年 11 月 (大阪)
372. 浜本いつき, 原田勇一, 中村一哉, 高橋仁, 許斐奈美, 浅沼秀樹, 田代真人, 山本典生. 無血清培地に馴化させた MDCK 細胞のインフルエンザワクチンシードウイルス分離用細胞としての検討. 第 60 回日本ウイルス学会学術集会. 2012 年 11 月 (大阪)
373. 山本典生, 浅沼秀樹, 佐藤佳代子, 中内美奈, 高橋仁, 許斐奈美, 相内章, 長谷川秀樹, 田代真人. 細胞培養もしくは鶏卵で製造されたインフルエンザワクチンの品質管理試験および免疫応答への影響. 第 60 回日本ウイルス学会学術集会. 2012 年 11 月 (大阪)
374. Hamamoto I, Takaku H, Tashiro M, Yamamoto N. High Yield Production of Influenza A Virus in Madin Darby Canine Kidney (MDCK) Cells with Stable Knockdown of IRF7. 4th Influenza Vaccines for the World. 2012 年 10 月 (Valencia, Spain)
375. Uehara Y, Hori S, Kuwahara-Arai K, Kikuchi K, Hiramatsu K. MRSA Carriage among Hemodialysis Patients in a Japanese Clinic –Prevalence, Molecular Typing and Risk Factors–. Idweek 2012. 2012 年 10 月 (San Diego, USA)
376. Piao X, Komazawa-Sakon S, Nishina T, Koike M, Ehiken H, Uchiyama Y, Yagita H, Okumura K, He YW, Nakano H. An essential Role for c-FLIP in maintaining homeostasis of the intestine and the liver by Preventing Apoptosis and programmed Necrosis. The 12th Biennial International Endotoxin & Innate Immunity Society Meeting (IEIS2012) 2012 年 10 月 (東京)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

377. Murakami T, Tamura H, Nagaoka I. Evaluation of the mechanism for the release of HMGN1, an alarmin, from LPS stimulated RAW264.7 cells. The 12th Biennial International Endotoxin & Innate Immunity Society Meeting (IEIIS2012) 2012 年 10 月 (東京)
378. Suzuki K, Tamura H, Kumazawa Y, Nagaoka I. Host defense peptide LL-37 modulates the uptake of LPS by endothelial cells. The 12th Biennial International Endotoxin & Innate Immunity Society Meeting (IEIIS2012) 2012 年 10 月 (東京) 招聘講演
379. Nishina T, Piao X, Putoczki T, Doi T, Ernst M, Tsumoto K, Okumura K, Nakano H. Interleukin 11 links Oxidative Stress and Compensatory Proliferation. The 12th Biennial International Endotoxin & Innate Immunity Society Meeting (IEIIS2012) 2012 年 10 月 (東京)
380. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Nagaoka I. Modulation of the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages by antimicrobial cathelicidin peptide LL-37. The 12th Biennial International Endotoxin & Innate Immunity Society Meeting (IEIIS2012) 2012 年 10 月 (東京)
381. Niyonsaba F, Nagaoka I. Novel roles of host defense peptides in cutaneous biology. The 12th Biennial International Endotoxin & Innate Immunity Society Meeting (IEIIS2012) 2012 年 10 月 (東京) 招聘講演
382. Hosoda H, Tamura H, Nagaoka I. Regulation of the expression of TREM-1 by LPS in human monocytes/macrophages. The 12th Biennial International Endotoxin & Innate Immunity Society Meeting (IEIIS2012) 2012 年 10 月 (東京)
383. 平松啓一. 基調講演「耐性菌とヒトと抗生物質の新しい見方」第 61 回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第 59 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 2012 年 10 月 (東京) 招聘講演
384. 韓笑, 伊藤輝代, 平松啓一. 表皮ブドウ球菌のもつ type III SCCmec について. 第 61 回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第 59 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会. 2012 年 10 月 (東京)
385. 岩淵和久, Chiricozzi E, 中山仁志, Sonnino S. ラクトシルセラミドは Lyn と直接会合している. 第 5 回セラミド研究会. 2012 年 10 月 (東京,)
386. 増田浩美, 松本亮, 中山仁志, 岩淵和久. 抗ラクトシルセラミド抗体の反応特異性について. 第 5 回セラミド研究会. 2012 年 10 月 (東京)
387. 張萌, 伊藤輝代, 平松啓一. 種々の SCCmec タイプの MRSA を用いた BD GeneOhm™ MRSA Detection assay kit の評価. 第 95 回日本細菌学会関東支部総会. 2012 年 10 月 (東京)
388. 増田浩美, 松本亮, 中山仁志, 岩淵和久. 抗ラクトシルセラミド抗体の反応特異性について FCCA グライコサイエンス若手フォーラム 2012. 2012 年 9 月 (鹿児島)
389. Suzuki K, Murakami T, Tamura H, Nagaoka I. An antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 suppresses the LPS-induced endothelial cell apoptosis in vitro and in vivo. The 11th Korea-Japan International Symposium on Microbiology (XI-KJISM) 2012 年 9 月 (Buyeo, Korea)
390. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Nagaoka I. Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages. KJISM27. The 11th Korea-Japan International Symposium on Microbiology (XI-KJISM) 2012 年 9 月 (Buyeo, Korea)
391. 本郷勇, 松尾美記, 伊藤輝代, 平松啓一. USA400 MW2 株における新規白血球溶解毒素 MW1941 及び MW1942 の同定と好中球溶解活性. 第 57 回日本ブドウ球菌研究会. 2012 年 9 月 (東京)
392. Tsubakishita S, Kuwahara K, Sasaki T, Takahashi T, Kikuti N, Hiramatsu K. Whole genome sequencing of the animal-borne staphylococcus as the reservoir of determinant of MRSA. 第 11 回韓日微生物学シンポジウム. 2012 年 9 月 (韓国)
393. 増田浩美, 岩原知博, 中山仁志, 柳田光昭, 加賀直子, 小林俊秀, 石井久美子, 早川智広, 小川秀興, 高森建二, 岩淵和久. マウス好中球におけるラクトシルセラミドの構造と機能について. 第 31 回日本糖質学会. 2012 年 9 月 (鹿児島)
394. 片山由紀, 相羽由詞, 菱沼知美, 平松啓一. MRSA の β -lactam 剤耐性化に影響を及ぼす rpoB 遺伝子の変異. 第 57 回ブドウ球菌研究会. 2012 年 9 月 (東京)
395. Matsuo M, Cui L, Kim J, Hiramatsu K. Comprehensive identification of mutations associated with

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

- vancomycin-resistance in laboratory-generated VISA strains. 15th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infection (ISSSI) 2012 年 8 月 (Lyon, France)
396. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 細田浩司, 田村弘志, 長岡功. マクロファージ系細胞のピロトーシスに対する生体防御ペプチド LL-37 の作用. 第 59 回トキシシンポジウム. 2012 年 8 月 (北海道)
397. 長岡功, 鈴木香, 田村弘志. 生体防御ペプチドによる宿主細胞のアポトーシス制御. 第 21 回日本 Cell Death 学会プログラム. 2012 年 7 月 (名古屋) 招聘講演
398. 細田浩司, 田村弘志, 長岡功. ヒト単球・マクロファージ系細胞における TREM-1 の発現制御. 第 33 回日本炎症・再生医学会. 2012 年 7 月 (福岡)
399. 胡忠双, 村上泰介, 鈴木香, 田村弘志, 長岡功. 殺菌ペプチド LL-37 は LPS/ATP 刺激によるマウス J774 細胞ピロトーシスを抑制する. 第 33 回日本炎症・再生医学会. 2012 年 7 月 (福岡)
400. 鈴木香, 山倉文幸, 田村弘志, 長岡功. 血管内皮細胞による LPS の取り込みに対する抗菌ペプチド LL-37 の効果. 第 33 回日本炎症・再生医学会. 2012 年 7 月 (福岡)
401. 岩淵和久, 中山仁志. 好中球のラクトシルセラミドを介した微生物認識機構について. 第 7 回スフィンゴセラピー研究会. 2012 年 7 月 (石川)
402. Nakano H. Interleukin 11 links Oxidative Stress and Compensatory Proliferation. The 33rd NAITO Conference on Oxygen Biology: Hypoxia, Oxidative Stress and Diseases. 2012 年 6 月 (札幌)
403. 仁科隆史, 朴雪花, 奥村康, 中野裕康. 酸化ストレスと組織修復を仲介する分子の同定. 第 19 回肝細胞研究会. 2012 年 6 月 (札幌)
404. 中野裕康, 仁科隆史. 酸化ストレスにより誘導される IL-11 が肝細胞の代償性増殖を誘導する. 第 19 回肝細胞研究会. 2012 年 6 月 (札幌)
405. 菊池賢, 松田真理, 水谷友紀, 馬場理, 崔龍洙, 平松啓一. Streptococcus intermedius ゲノムにみられる特有の microcompartment を含む genomic island. 第 21 回 Lancefield レンサ球菌研究会・第 44 回レンサ球菌感染症研究会. 2012 年 6 月 (大阪)
406. 上原由紀, 堀賢, 菊池賢, 平松啓一, 林悠太, 矢内充. 外来血液透析患者におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)保有状況. 第 57 回日本透析医学会学術集会・総会. 2012 年 6 月 (札幌)
407. Osada T, Sakamoto N, Izumi K, Kodani T, Shibuya T, Matsumoto K, Nagahara A, Ogihara T, Watanabe S. Analysis of factors contributing to fever and the frequency of bacteremia in patients after endoscopic submucosal dissection of colorectal tumor. Digestive Disease Week 2012. 2012 年 5 月 (San Diego, USA)
408. Kikuchi K, Notake S, Matsuda M, Yanagisawa H, Hiramatsu K. Dissemination of metallo- β -lactamase in Enterobacteriaceae and Acinetobacter in Japan. The 112th General Meeting of the American Society for Microbiology. 2012 年 5 月 (San Francisco, USA)
409. 泉健太郎, 長田太郎, 坂本直人, 小谷知弘, 東原良恵, 別府加寿子, 渋谷智義, 立之英明, 森広樹, 松本健史, 永原章仁, 荻原達雄, 菊池賢, 渡辺純夫. 大腸 ESD における術後菌血症の可能性. 第 83 回日本消化器内視鏡学会総会. 2012 年 5 月 (東京)
410. Chiricozzi E, Sonnino S, Prinetti A, Mauri L, Watanabe S, Nakayama H, Iwabuchi K. LacCer-enriched microdomain: a possible organization. Gordon Research Conferences Structure of Glycolipida and Sphingolipid. 2012 年 4 月 (Barga, Italy)
411. Iwabuchi K, Nakayama H, Watanabe S, Chiricozzi E, Mauri L, Prinetti A, Sonnino S. Organization and signal transduction mechanisms of glycolipid-enriched microdomains in innate immune responses. Gordon Research Conferences Structure of Glycolipida and Sphingolipid. 2012 年 4 月 (Barga, Italy)
412. 菊池賢. 感染性心内膜炎の起因菌の特徴と病原性. 第 86 回日本感染症学会総会・第 60 回日本化学療法学会総会. 2012 年 4 月 (長崎)
413. 菊池賢. 成人百日咳の謎. 第 86 回日本感染症学会総会・第 60 回日本化学療法学会総会. 2012 年 4 月 (長崎)
414. 平松啓一. 「MRSA の最新の知見」第 60 回日本化学療法学会学術集会 シンポジウム 9「薬剤耐性メカニズム—最新の知見—」2012 年 4 月 (長崎) 招聘講演

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

415. 松田直人, 野竹重幸, 柳沢英二, 菊池賢, 平松啓一. MALDI-TOF MS を使用した Staphylococcus spp.の同定における培養培地の影響に関する検討. 第 86 回日本感染症学会 総会・学術講演会. 2012 年 4 月 (長崎)

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

1. 2016 年 11 月 30 日(水)感染制御科学研究センター特別講義『世界のグラム陰性菌 -薬剤耐性の現状-』講師:土井洋平(ピッツバーグ大学医学部感染症内科学准教授)
2. 岩渕和久 :2016 年シグナリングに載った日本人研究者
http://www.sciencemag.jp/files/Japanese_scientists_Signaling2016.pdf
3. 岩渕和久 :プレスリリース『病原菌が免疫から逃れて寄生する仕組みを解明～結核菌のヒト好中球による貪食と殺菌回避の分子メカニズム～』2016 年 10 月 11 日
<http://www.juntendo.ac.jp/graduate/pdf/news33.pdf>
4. 岩渕和久 :Global Medical Discovery: "Direct interaction, instrumental for signaling processes, between lactosylceramide and Lyn in the lipid rafts of neutrophil-like cells"
<https://globalmedicaldiscovery.com/key-scientific-articles/direct-interaction-instrumental-for-signaling-processes-between-lactosylceramide-and-lyn-in-the-lipid-rafts-of-neutrophil-like-cells/>
5. 鈴木 香: エンドトキシンによる宿主細胞応答に対する生体防御ペプチドの制御機構. 第 22 回日本エンドトキシン・自然免疫研究会 プログラム・抄録集, 12, 最優秀賞受賞講演, 鹿児島, Dec 3, 2016.
6. Hu Z, Murakami T, Suzuki K, Tamura H, Reich J, Kuwahara-Arai K, Iba T, Nagaoka I: LL-37 affects macrophages and inhibits sepsis. In This Issue, Int Immunol 28: 210, 2016.
7. Hu Z: 2014 SLB Travel Award; Antimicrobial peptide LL-37 inhibits pyroptosis of macrophages and protects sepsis in a murine model. Joint Meeting of the Society for Leukocyte Biology and the International Endotoxin and Innate Immunity Society, Salt Lake City, Oct 2014.
8. Hu Z: 2012 日韓微生物シンポジウム若手発表助成; Antimicrobial cathelicidin peptide LL-37 inhibits the LPS/ATP-induced pyroptosis of macrophages. KJISM27, The 11th Korea-Japan International Symposium on Microbiology (XI-KJISM), Buyeo, Sep 2012.
9. 奈良武司 :プレスリリース『シャーガス病(顧みられない熱帯病)の治療法に新たな光～アンチセンス核酸を用いた寄生虫治療の可能性～』2014 年 2 月 28 日
<http://www.juntendo.ac.jp/graduate/pdf/news05.pdf>
10. 片山由紀 :Seminar. University of California San Francisco (UCSF), Division of Infectious Diseases meeting 'Characterization of 'slow VISA', a novel phenotype of vancomycin resistance in Staphylococcus aureus' San Francisco, CA, US. Aug.30 (2014)
11. 片山由紀 :Seminar. University of California San Francisco (UCSF), Division of Infectious Diseases meeting 'Detection of high-level resistance to vancomycin 'slow VISA' among clinical isolates' San Francisco, CA, US. June.22 (2016)

<これから実施する予定のもの>

未定

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

14 その他の研究成果等

受賞

平松啓一

2016年 トムソン・ロイター(米国)高被引用論文著者(上位 1%)に選出

特許

1. *大澤弘宜, 榎並淳平, 平松啓一 . 抗ブドウ球菌抗体、その製造方法並びにその使用全薬工業、学校法人順天堂 特願 2013-049268
2. 三宅幸子, 山村隆, 服部正平, 森田英利. 自己免疫疾患の診断方法、自己免疫疾患の診断用バイオマーカー、及び自己免疫疾患の予防又は治療剤 学校法人順天堂、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、国立大学法人東京大学、学校法人麻布獣医学園 特願 2015-167839
3. *山本典生 , 浜本いつき, 田代真人 細胞培養組成物、インフルエンザウイルスの生産方法及びインフルエンザウイルス 公益財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 特願 2013-060692 号
4. *柳田浩志, 星野忠次, 山本典生 インフルエンザウイルス感染症の予防および/または治療剤 国立大学法人千葉大学、学校法人順天堂 特許 5765650 号
5. *山本典生 抗インフルエンザウイルス剤 学校法人順天堂 特許 6028968 号
6. *池田志幸 , 長谷川敏男 脂肪由来幹細胞から表皮角化細胞への誘導 学校法人順天堂 特願 2014-135570
7. 奈良武司、橋本宗明、御子柴克彦 発明の名称:トリパノソーマ関連疾患治療薬、トリパノソーマ原虫の感染阻止または殺虫方法、およびその利用 独立行政法人理化学研究所および学校法人順天堂(共同出願) 特願 2013-211448
8. 大石金成, 馬場理 , 平松啓一 , 中臣康雄 毒素検出方法 学校法人順天堂, デンカ生研株式会社 特願 2012-265453
9. 平松啓一 , 森本ゆふ , 馬場理 抗菌剤 学校法人順天堂 特願 2013-233957
10. 片山由紀 slow-VISAの検出法 学校法人順天堂 特願 2016-046496
11. 片山由紀 slow-VISA の検出法 学校法人順天堂 国際出願番号 PCT/JP2017/008975

企業等との連帯実績

1. 岩淵和久 :理化学研究所.ナノメートルレベルでのリアルタイムで観察が可能となったSTED(Stimulated emission depletion microscopy) 顕微鏡を用いて、脂質ドメインの動態解析
2. 美田敏宏 :パナソニック株式会社. マラリア診断機器の開発
3. 山本典生 :キリン株式会社. 共同研究
4. 片山由紀 :栄研化学. slow-VISA 検出法の開発

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

広範囲に渡るテーマであり、研究成果の集約に留意されたい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

本研究拠点は、平成 15 年に採択された 21 世紀 COE 病院感染予防のための国際的教育拠点として、病院内の感染制御をめざし、基礎医学、各臨床科の垣根を超えて多領域を横断する研究グループとして設立された。この研究組織は、平成 21～23 年の戦略的研究基盤形成事業に引き継がれたが、その間、継続的に、十分な研究成果をあげた研究グループのみが、平成 24 年採択の本研究組織を構成している。専門分野は多岐にわたるが、評価の基準は、いずれも薬剤に耐性の難治感染の予防・治療に資する具体的な成果を挙げること为目标としているため、研究計画に明確に記載された到達目標が現実に達成されているかどうか、一流誌に適切な内容の論文が発表されているかどうか、学会で適切なタイトルの演題が発表されているかどうかを指標に、年度ごとの成果の評価を行ってきた。今後も同様の評価を行っていく。本研究計画の成果は、①感染症の検査法・予防法の開発、②難治感染症の新しい治療法の発見・開発、③薬剤耐性獲得メカニズムの解明 という 3 つのテーマにほぼ集約され、それぞれの観点から外部評価委員も加えて評価を行なっている。現在まで、各研究グループは、いずれも十分な成果を挙げている。

<「中間評価時」に付された留意事項>

タンパク質発現差異解析システムがさらに充分活用されることを期待する。

21 課題を各委員に分散しているのは、理解に苦しむ。集中して協力を受けるのが拠点形成の考え方ではないか。

代表者を統括とする全体運営をよく指導する必要がある。

活動は順調であるが、代表者を中心とする、全体の大きな方向性を出してはどうか。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

タンパク質発現差異解析システムは当学の共同研究部門にて稼働中であり、専門の職員が保守および操作を担当している。病原体の生理機能解析や、感染症予防に資する薬剤の評価などを含む、広範な研究活動に利用されており、導入の目的を十分に果たしていると考えられる。

課題数については、感染症治療と予防に関する研究領域は極めて幅広い。此の後、活躍が期待される若い研究者に研究資金を提供して、研究所の今後の発展を期する意図があった。

研究活動が盛んな臨床・基礎の若手の感染症研究グループを資金的に援助することで、彼らを、感染症研究センターの優秀な構成員とすることを第一義とした。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1201013

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 24 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	82,488	37,318	45,170	0	0	0	
	研究費	102,360	57,400	44,960	0	0	0	
平成 25 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	142,755	94,011	48,744	0	0	0	
平成 26 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	136,507	83,195	53,312	0	0	0	うち一般補助4,746千円
平成 27 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	115,120	59,943	55,177	0	0	0	うち一般補助6,073千円
平成 28 年度	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	112,288	63,832	48,456	0	0	0	うち一般補助4,053千円
総 額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	82,488	37,318	45,170	0	0	0	
	研究費	609,030	358,381	250,649	0	0	0	
総 計	691,518	395,699	295,819	0	0	0		

法人番号

131025

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
順天堂大学9号館	H24年度	350m ²	2	35			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h h h h h			
(研究設備)							
タンパク質発現差異解析システム	H24	Ettan2D-DIGE基本パッケージ	1式	115.24 h	24,672	6,630	
MiSeqシーケンスシステム	H24	MS-J-001	1式	7194 h	17,766	11,840	
3500xLジェネティックアナライザーシーケンシング解析システム	H24	アプライド3500xL-150	1式	2271 h	20,790	13,860	
フロサイトメーター	H24	BD FACSVerse	1式	1232 h	19,260	12,840	
(情報処理関係設備)				h h h h h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 24 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	60,567	実験用消耗品	試薬、実験用器材
光熱水費	0		
通信運搬費	7	郵送料	郵送料
印刷製本費	878	論文別刷	論文別冊
旅費交通費	2,450	学会出張旅費	学会出張旅費、研究打合せ
報酬・委託料	15,712	業務委託費	学会参加費、実験用器機修繕費
会議会合費等	1,779	学会参加費、機器修繕費	学会参加費、実験用器機修繕費
計	81,393		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	0		
教育研究経費支出	0		
計	0		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	4,768	実験用機器	超低温槽等
図 書	0		
計	4,768		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	3,397	研究補助	学内2人、外国1人
ポスト・ドクター	6,401	共同研究	外国2人、
研究支援推進経費	6,401	研究補助	学内1人、外国1人
計	16,199		16,199 学内3人、学外4人

(千円)

年 度	平成 25 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	103,868	実験用消耗品	試薬、実験用器材
光 熱 水 費	0		
通 信 運 搬 費	126	サーバー利用料	サーバー利用料
印 刷 製 本 費	1,139	論文掲載料	論文掲載料
旅 費 交 通 費	939	学会出張旅費	学会出張旅費、研究打合せ
報 酬・委 託 料	2,939	業務委託費	検査委託料、動物委託料
会 議 会 合 費 等	1,611	機器修繕費	学会参加費、実験用機器修繕費
計	110,622		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	0		
教 育 研 究 経 費 支 出	0		
計	0		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	19,291	実験用機器	微量高速冷却遠心機等
図 書	0		
計	19,291		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	2,393	研究補助	学内2人
ポスト・ドクター	3,879	共同研究	外国2人
研究支援推進経費	6,570	研究補助	学内1人、外国1人
計	12,842		学内3人、学外3人

(千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	88,981	実験用消耗品	試薬、実験用器材
光 熱 水 費	0		
通 信 運 搬 費	130	サーバー利用料	サーバー利用料
印 刷 製 本 費	1,508	印刷費	研究成果、報告書等
旅 費 交 通 費	1,143	学会出張旅費	学会出張旅費、研究打合せ
報 酬・委 託 料	20,060	業務委託費	英文校正等
修 繕 費 等	1,152	機器修繕費	実験用機器修繕費、学会参加費
計	112,974		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	0		
教 育 研 究 経 費 支 出	0		
計	0		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	11,562	実験用機器	超低温槽等
図 書	0		
計	11,562		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,449	研究補助	外国1人
ポスト・ドクター	9,469	共同研究	学内2人、外国1人
研究支援推進経費	1,002	研究補助	外国1人
計	11,920		学内2人、外国3人

法人番号

131025

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	83,115	実験用消耗品	試薬、実験用器材
光 熱 水 費	0		
通 信 運 搬 費	51	サーバー利用料	サーバー利用料
印 刷 製 本 費	1,365	論文掲載料	論文掲載料
旅 費 交 通 費	1,794	学会出張旅費	学会出張旅費、研究打合せ
報 酬・委 託 料	6,950	業務委託費	解析、英文校正等
修 繕 費 等	580	機器修繕費等	実験用機器修繕費、学会参加費
計	93,855		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	0		
教 育 研 究 経 費 支 出	0		
計	0		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	6,234	実験用機器	バイオクリーンベンチ等
図 書	0		
計	6,234		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,554	研究補助	外国1人
ポスト・ドクター	11,915	共同研究	学内2人、外国2人
研究支援推進経費	1,562	研究補助	学内1人
計	15,031		学内3人、外国3人

(千円)

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	54,903	実験用消耗品	試薬、実験用器材
光 熱 水 費	0		
通 信 運 搬 費	18	サーバー利用料	サーバー利用料、配送料
印 刷 製 本 費	554	論文掲載料	論文掲載料
旅 費 交 通 費	2,861	学会出張旅費	学会出張旅費、研究打合せ
報 酬・委 託 料	18,294	業務委託費	検査委託料、英文校正、謝金、修繕費
会 議 会 合 費	3,037	学会参加費	学会参加費
計	79,667		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	0		
教 育 研 究 経 費 支 出	0		
計	0		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	20,938	実験用機器	リアルタイムPCRシステム等
図 書	0		
計	20,938		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	3,289	研究補助	学内2人、外国1人
ポスト・ドクター	6,409	共同研究	学内1人、外国1人
研究支援推進経費	1,985	研究補助	学内1人
計	11,683		学内5人、外国2人

平成 24 年度採択「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

「薬剤耐性感染症の予防・治療のための新技術開発に向けた研究基盤確立」

外部評価表

評価委員名：

国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター センター長 黒田誠

プロジェクトの進捗状況・達成度に関して（該当するものに○を記入）

1. (○) 基盤整備の効果が発揮され当初の計画以上に研究が進展している。
2. () 基盤整備の効果が発揮され当初の計画通りに研究が進展している。
3. () 基盤整備の効果が不十分であり、研究方針の再検討が必要である。

外部評価コメント

学内の研究基盤の特徴を生かしたメンバーで構成され、細菌・ウイルス・寄生虫の多様な病原体に対して総合的な基礎・臨床研究開発が推進されている。特筆すべき成果として、創薬標的の同定（トリパノソーマ原虫の標的分子等）および抗微生物薬開発（抗 MRSA 薬、モノクローナル抗体）が挙げられ、アルテミシニン耐性マラリア原虫発見等の国際協力を絡めた優れた研究成果も得られている。

過去 5 年間で原著論文 232 報が論文掲載され、積極的かつ有効な若手指導が実施できていたことから、本事業の目的である研究基盤の支援はおよそ達成されたと考えられる。

基礎研究による薬剤耐性感染症の治療法開発が主体であり、今後、先進医療を提供する大学病院の特徴を活用した薬剤耐性検査法および予防法開発への進展が期待される。

評価委員氏名（自署）

黒田 誠

平成 24 年度採択「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

「薬剤耐性感染症の予防・治療のための新技術開発に向けた研究基盤確立」

外部評価表

評価委員名：

自治医科大学 医学部 感染・免疫学講座 細菌学部門 教授 崔龍洙

プロジェクトの進捗状況・達成度に関して（該当するものに○を記入）

1. (○) 基盤整備の効果が発揮され当初の計画以上に研究が進展している。
2. () 基盤整備の効果が発揮され当初の計画通りに研究が進展している。
3. () 基盤整備の効果が不十分であり、研究方針の再検討が必要である。

外部評価コメント

本研究プロジェクトの主体である感染制御科学研究センターは、現在の健康被害の主たる課題である耐性菌感染症、薬剤耐性寄生虫感染症、薬剤耐性インフルエンザなどに順天堂大学の実績ある研究者が分担研究者として動員されて、それぞれ、優れた業績をあげつつある。さらに内科、皮膚科などの臨床科からユニークな興味深い感染症へのアプローチが試みられている。本センターは、日本で最初に英国の ICD を導入したセンターであり、その後も継続して院内感染対策に常に独創的な試みが見られている。今回は、耐性菌に有効な抗菌剤の発見もあり、今後の研究の発展に大きな期待が持てる。

評価委員氏名（自署）

崔龍洙